

基本計画書

基本計画								
事項		記入欄						備考
計画の区分		学部学科の設置						
フリガナ 設置者		ガッコウホカイシン トウカイダいがく 学校法人 東海大学						
フリガナ 大学の名称		トウカイダいがく 東海大学 (Tokai University)						
大学の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1						
大学の目的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。						
新設学部等の目的		【医学部】 『調和のとれた文明社会を建設する』という本学の理念にもとづく”科学とヒューマンイズムの融和”の精神のもとで、幅広い知識と確かな技能とともに豊かな人間性を有し、創造的な「生命科学研究」を実践できる医療・保健のプロフェッショナルを育て、社会に還元することを目的とする。実践的な学修を通じて、医療・保健の現場で求められる知識や技術とともに、コミュニケーション能力、論理的思考力、国際的視野などを兼ね備えた人材の育成を目指す。 【医学部看護学科】 様々な健康レベルの人が、病院から施設・在宅に至るあらゆる場で、その人らしい生活を営むための看護ケアが実践でき、時代の変化に応じた新しい看護を創造できる医療・保健の専門職を育成することを目指す。温かな人間性と謙虚さ、幅広い教養を持ち、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる人材を養成する。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	医学部 [Undergraduate School of Medicine]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	看護学科 [Faculty of Nursing]	4	85	—	340	学士 (看護学)	平成30年4月 第1年次	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	計		85		340			

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)			文化社会学部 (平成29年4月届出) アジア学科 (70) ヨーロッパ・アメリカ学科 (70) 北欧学科 (60) 文芸創作学科 (60) 広報メディア学科 (100) 心理・社会学科 (90) 健康学部 (平成29年4月届出) 健康マネジメント学科 (200)								
			文学部 アジア文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 ヨーロッパ文明学科 (廃止) (△70) ※平成30年4月学生募集停止 アメリカ文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 北欧学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 文芸創作学科 (廃止) (△55) ※平成30年4月学生募集停止 広報メディア学科 (廃止) (△110) ※平成30年4月学生募集停止 心理・社会学科 (廃止) (△100) ※平成30年4月学生募集停止 健康科学部 (廃止) ※平成30年4月学生募集停止 看護学科 (廃止) (△75) (3年次編入学定員) (△20) 社会福祉学科 (廃止) (△85) (3年次編入学定員) (△10)								
			文学部 歴史学科〔定員減〕 (△45) (平成30年4月) 政治経済学部 政治学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経済学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経営学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 体育学部 体育学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 競技スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 武道学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 生涯スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 工学部 機械工学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 動力機械工学科〔定員減〕 (△50) (平成30年4月) 航空宇宙学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月)								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
			講義	演習	実験・実習	計					
	医学部看護学科		58科目	23科目	21科目	102科目	125単位				
教員組織概要	学部等の名称			専任教員等						兼任教員	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	医学部		9人	8人	9人	3人	29人	0人	88人	平成29年4月届出済み
		看護学科		(9)	(8)	(9)	(3)	(29)	(0)	(88)	
		文化社会学部		5	3	1	0	9	0	60	平成29年4月届出済み
		アジア学科		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(60)	
		文化社会学部		3	3	3	0	9	0	52	平成29年4月届出済み
		ヨーロッパ・アメリカ学科		(3)	(3)	(3)	(0)	(9)	(0)	(52)	
		文化社会学部		3	0	3	0	6	0	36	平成29年4月届出済み
		北欧学科		(3)	(0)	(3)	(0)	(6)	(0)	(36)	
		文化社会学部		5	1	1	0	7	0	31	平成29年4月届出済み
		文芸創作学科		(5)	(1)	(1)	(0)	(7)	(0)	(31)	
	文化社会学部		8	2	0	0	10	0	44	平成29年4月届出済み	
	広報メディア学科		(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(44)		
	文化社会学部		5	5	0	0	10	0	49	平成29年4月届出済み	
	心理・社会学科		(5)	(5)	(0)	(0)	(10)	(0)	(49)		
	健康学部		8	6	6	4	24	0	23	平成29年4月届出済み	
健康マネジメント学科		(8)	(6)	(6)	(4)	(24)	(0)	(23)			
計			46 (46)	28 (28)	23 (23)	7 (7)	104 (104)	0 (0)	— —		
概要	既設	文学部		4	0	2	0	6	0	14	
		文明学科		(4)	(0)	(2)	(0)	(6)	(0)	(14)	
		文学部		8	4	3	0	15	0	24	
		歴史学科		(8)	(4)	(3)	(0)	(15)	(0)	(24)	
		文学部		3	2	1	0	6	0	20	
		日本文学科		(3)	(2)	(1)	(0)	(6)	(0)	(20)	
		文学部		4	2	1	0	7	0	10	
		英語文化コミュニケーション学科		(4)	(2)	(1)	(0)	(7)	(0)	(10)	
		政治経済学部		8	5	1	0	14	0	12	
		政治学科		(8)	(5)	(1)	(0)	(14)	(0)	(12)	
要分	政治経済学部		6	3	2	0	11	0	12		
	経済学科		(6)	(3)	(2)	(0)	(11)	(0)	(12)		
	政治経済学部		7	4	0	0	11	0	9		
	経営学科		(7)	(4)	(0)	(0)	(11)	(0)	(9)		
	法学部		14	4	2	0	20	0	5		
	法律学科		(14)	(4)	(2)	(0)	(20)	(0)	(5)		

教 員 組 織 の 概 要	既 員 組 設 の 概 分	教養学部 人間環境学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	21 (21)
		教養学部 芸術学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	73 (73)
		教養学部 国際学科	4 (4)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
		体育学部 体育学科	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	4 (4)
		体育学部 競技スポーツ学科	7 (7)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	7 (7)
		体育学部 武道学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)
		体育学部 生涯スポーツ学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)
		体育学部 スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		理学部 数学科	11 (11)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	13 (13)
		理学部 情報数理学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)
		理学部 物理学科	14 (14)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	18 (18)
		理学部 化学科	13 (13)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
		理学部 基礎教育研究室	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部 情報科学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	7 (7)
		情報理工学部 コンピュータ応用工学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
		工学部 生命化学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		工学部 応用化学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部 光・画像工学科	7 (7)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
		工学部 原子力工学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	7 (7)
		工学部 電気電子工学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	4 (4)
		工学部 材料科学科	8 (8)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
		工学部 建築学科	11 (11)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	31 (31)
		工学部 土木工学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	9 (9)
		工学部 精密工学科	8 (8)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		工学部 機械工学科	9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)
		工学部 動力機械工学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	15 (15)
		工学部 航空宇宙学科	14 (14)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	2 (2)
		工学部 医用生体工学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		観光学部 観光学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)
		情報通信学部 情報メディア学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		情報通信学部 組込みソフトウェア工学科	5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		情報通信学部 経営システム工学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	6 (6)
		情報通信学部 通信ネットワーク工学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		海洋学部 海洋文科学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		海洋学部 環境社会学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		海洋学部 海洋地球科学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	7 (7)
		海洋学部 水産学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (8)
		海洋学部 海洋生物学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		海洋学部 航海工学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	11 (11)

教 員 組 織 の 概 要	既 設	海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	12 (12)
		医学部 医学科	106 (106)	125 (125)	193 (193)	412 (412)	836 (836)	0 (0)	162 (162)
		経営学部 経営学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
		経営学部 観光ビジネス学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
		基盤工学部 電気電子情報工学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
		基盤工学部 医療福祉工学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	14 (14)
		農学部 応用植物科学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		農学部 応用動物科学科	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		農学部 バイオサイエンス学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	5 (5)
		国際文化学部 地域創造学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	12 (12)
		国際文化学部 国際コミュニケーション学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	6 (6)
		国際文化学部 デザイン文化学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)
		生物学部 生物学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	10 (10)
		生物学部 海洋生物科学科	4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
		現代教養センター	18 (18)	20 (20)	7 (7)	1 (1)	46 (46)	0 (0)	25 (25)
		国際教育センター	26 (26)	30 (30)	31 (31)	2 (2)	89 (89)	0 (0)	245 (245)
		情報教育センター	6 (6)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	23 (23)
		課程資格教育センター	11 (11)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	56 (56)
		創造科学技術研究機構	0 (0)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		沖縄地域研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		平和戦略国際研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		計	599 (599)	367 (367)	339 (339)	432 (432)	1,737 (1,737)	0 (0)	— (—)
		合 計	645 (645)	395 (395)	362 (362)	439 (439)	1,841 (1,841)	0 (0)	— (—)
		職 種	専 任		兼 任		計		
教員以外の職員概要		事 務 職 員	605 (605) 人		419 (419) 人		1,024 (1,024) 人		
		技 術 職 員	60 (60)		83 (83)		143 (143)		
		図 書 館 専 門 職 員	56 (56)		30 (30)		86 (86)		
		そ の 他 の 職 員	18 (18)		115 (115)		133 (133)		
		計	739 (739)		647 (647)		1,386 (1,386)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし		
	校 舎 敷 地		1,614,127.67 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡		1,616,180.55 ㎡				
	運 動 場 用 地		421,731.97 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡		421,731.97 ㎡				
	小 計		2,035,859.64 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡		2,037,912.52 ㎡				
	そ の 他		219,768.53 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡		219,768.53 ㎡				
合 計			2,255,628.17 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡		2,257,681.05 ㎡				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			580,976.38 ㎡ (580,976.38 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)		580,976.38 ㎡ (580,976.38 ㎡)				
教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
		507 室	230 室	1,481 室	89 室 (補助職員 18 人)		6 室 (補助職員 0 人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			医学部看護学科			29 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 大学全体での共用分として、電子データベースは59種〔うち国外36種〕学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約27,746種〔うち国外約11,728種〕と、電子ブックは約10,000点〔うち国外約7,000点〕がそれぞれ利用可能。		
			70,500 [18,200] (68,156 [17,973])	490 [270] (410 [230])	390 [270] (318 [228])	490 (450)	0 (0)	0 (0)			
	計		70,500 [18,200] (68,156 [17,973])	490 [270] (410 [230])	390 [270] (318 [228])	490 (450)	0 (0)	0 (0)			
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
			21,620.00 ㎡		3,567 席		2,248,166冊				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			34,224.13 ㎡		400mトラック 1面						
維 経 費 の 見 積 り の 概 要	積 経 費 の 見 積 り の 概 要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
		教員1人当たり研究費等			330千円	330千円	330千円	330千円	― 千円	― 千円	
		共同研究費等			1,947千円	1,947千円	1,947千円	1,947千円	― 千円	― 千円	
		図書購入費		2,250千円	550千円	1,100千円	1,650千円	2,200千円	― 千円	― 千円	
	設備購入費		1,050千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	― 千円	― 千円		
	学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,604千円	1,304千円	1,304千円	1,304千円	― 千円	― 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常経費補助金、資産の運用、手数料及び国庫助成金等							

既設大学	大学 の 名 称	東 海 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	備 考
		年	人	年次 人	人		倍			
大 学	文学部		930	—	3,720		1.10	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.14	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	70	—	280	学士(文学)	1.09	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.10	昭和42年	〃	
	文学部 文学学科		175	—	700		1.11	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.18	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	40	—	160	学士(文学)	1.04	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.10	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	30	—	120	学士(文学)	1.12	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.12	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.12	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.13	平成13年	〃	
	政治経済学部		450	—	1,800		1.09	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.08	昭和41年	〃	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.09	昭和41年	〃	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.10	昭和49年	〃	
大 学	法学部		300	—	1,200		1.06	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法学学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.06	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.11	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学部 人間環境学科	4	160	—	640	学士(教養学)	1.11	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	90	—	360	学士(教養学)	1.05	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.17	昭和47年	〃	
	体育学部		440	—	1,760		1.07	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.07	昭和42年	〃	
	体育学部 体育学科	4	130	—	520	学士(体育学)	1.08	平成16年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	昭和43年	〃	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.05	昭和46年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	平成16年	〃	
	理学部		320	—	1,280		1.05	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.08	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.07	昭和49年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.04	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.02	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.09	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.09	平成13年	〃	
	情報理工学部 情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.08	平成13年	〃	
大 学	工学部		1,460	—	5,840		1.05	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.12	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	40	—	160	学士(工学)	0.97	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.07	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.03	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.14	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.02	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	0.95	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科		150	—	600		0.99	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.07	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.84	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.15	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	

大 学 等 の 状 況	既 設	観光学部			200	—	800		1. 12	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
		観光学科		4	200	—	800	学士(観光学)	1. 12	平成22年	〃	
		情報通信学部			320	—	1, 280		1. 10	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
		情報メディア学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 08	平成20年	〃	
		組込みソフトウェア工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 09	平成20年	〃	
		経営システム工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 13	平成20年	〃	
		通信ネットワーク工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 11	平成20年	〃	
		海洋学部			530	—	2, 120		1. 01	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
		海洋文明学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	0. 99	平成16年	〃	
		環境社会学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 09	平成23年	〃	
		海洋地球科学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		水産学科		4	120	—	480	学士(海洋学)	1. 06	平成18年	〃	
		海洋生物学科		4	90	—	360	学士(海洋学)	1. 05	平成18年	〃	
		航海工学科			80	—	320		0. 79	平成23年	〃	
		航海学専攻		4	20	—	80	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		海洋機械工学専攻		4	60	—	240	学士(海洋学)	0. 70	平成23年	〃	
		医学部			118	—	692		0. 84	昭和49年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		医学科		6	118	—	692	学士(医学)	0. 84	昭和49年	〃	
		健康科学部			160	3年次 30	700		1. 06	平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		看護学科		4	75	3年次 20	340	学士(看護学)	1. 11	平成7年	〃	
		社会福祉学科		4	85	3年次 10	360	学士(社会福祉学)	1. 02	平成7年	〃	
		総合経営学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		マネジメント学科		4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		経営学部			230	—	920		0. 92	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		経営学科		4	150	—	600	学士(経営学)	1. 02	平成25年	〃	
		観光ビジネス学科		4	80	—	320	学士(経営学)	0. 72	平成25年	〃	
		産業工学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		環境保全学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		電子知能システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		機械システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		建築学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		基盤工学部			140	—	560		0. 76	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		電気電子情報工学科		4	80	—	320	学士(工学)	0. 57	平成25年	〃	
		医療福祉工学科		4	60	—	240	学士(工学)	1. 01	平成25年	〃	
		農学部			230	—	920		1. 04	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
		応用植物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 05	平成20年	〃	
		応用動物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 06	平成20年	〃	
		バイオサイエンス学科		4	70	—	280	学士(農学)	0. 99	平成20年	〃	
		国際文化学部			260	—	1, 040		0. 85	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		地域創造学科		4	110	—	440	学士(教養学)	1. 04	平成20年	〃	
		国際コミュニケーション学科		4	80	—	320	学士(教養学)	0. 79	平成20年	〃	
		デザイン文化学科		4	70	—	280	学士(教養学)	0. 60	平成24年	〃	
		生物学部			140	—	560		1. 06	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		生物学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 03	平成24年	〃	
		海洋生物科学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 09	平成24年	〃	
		《大学院》										
		総合理工学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		総合理工学専攻 博士課程		3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0. 34	平成17年	〃	
		地球環境科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		地球環境科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(工学)	0. 06	平成17年	〃	
		生物科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		生物科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(応用学)	0. 23	平成17年	〃	

既設	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.62		昭和49年	
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50		昭和51年	
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.37		昭和44年	
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00		昭和46年	
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.49		昭和49年	
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.08		昭和51年	
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.00		昭和44年	
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.33		昭和46年	
設	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	1.18	昭和49年		
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.16	昭和51年		
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.25	平成26年		
	政治学研究科							昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年			
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.06	昭和48年		
大	経済学研究科				—			昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10		昭和54年	
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00		昭和56年	
	法学研究科				—			平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	法学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.05		平成2年	
	法学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00		平成5年	
	人間環境学研究科				—			平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.65		平成19年	
	学	芸術学研究科							昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
音響芸術専攻		修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.25	昭和48年		
造型芸術専攻		修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.50	昭和48年		
	体育学研究科							昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	体育学専攻	修士課程	2	15	—	30	修士(体育学)	1.36		昭和51年	
	等	理学研究科							昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数理学専攻		修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.37	昭和43年		
物理学専攻		修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年		
化学専攻		修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.29	昭和43年		
の	工学研究科							昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	情報理工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		平成17年	
	電気電子システム工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		平成17年	
	応用理学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和38年	
	光工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和47年	
	工業化学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和45年	
	金属材料工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和48年	
	建築学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和39年	
	土木工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和41年	
	機械工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和42年	
	航空宇宙学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和46年	
	電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.14		平成28年	
	応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.17		平成28年	
	建築土木学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.02		平成28年	
	機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.17		平成28年	
	医用生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.31		平成26年	
	状	情報通信学研究科								平成24年	東京都港区高輪2-3-23
		情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)		0.68	
		海洋学研究科								昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1
海洋工学専攻		修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和42年		
海洋学専攻		修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	1.07	平成27年		
況	医学研究科							昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143		
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.60		平成7年	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.52		平成17年	
	健康科学研究科							平成11年			
看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.55	平成11年			
保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.45	平成11年			

既 設 大 学	産業工学研究科							平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成29年度より学生募集停止	
	生産工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	情報工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	社会開発工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	農学研究科							平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽		
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.58	平成20年	〃	
	国際地域学研究科							平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止	
	国際地域学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
	理工学研究科							平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止	
	環境生物科学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(理学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
等	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	100	—	200	短期大学士(食物栄養学)	0.85	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	
	児童教育学科		2	100	—	200	短期大学士(児童教育学)	1.08	昭和44年	〃	
の	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	80	—	240	短期大学士(看護学)	1.10	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	
	大 学 の 名 称		東海大学福岡短期大学								
況	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	情報処理科		2	—	—	—	短期大学士(情報学)	—	平成2年	福岡県宗像市田久1-9-1	平成29年度より学生募集停止
	国際文化学科		2	—	—	—	短期大学士(国際文化学)	—	平成2年	〃	平成29年度より学生募集停止

附属施設の概要	名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 118,828.50㎡、建物 85,897.78㎡ 名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ 名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,950.38㎡ 名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 46,636.17㎡	
---------	---	--

教 育 課 程 等 の 概 要														
（医学部 看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
論Ⅰ 現代文明	現代文明論	1後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目													
	人文科学	1後	2			○								兼1
	社会科学	1前	2			○								兼1
	自然科学	1後	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目													
	シティズンシップ	1後	1			○								兼1
	ボランティア	1後	1			○								兼1
	地域理解	1前	1			○								兼1
	国際理解	1前	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	目健康スポーツ科													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
Ⅲ 英語科目	ケ英語コミュニケーション科目													
	英語リスニング&スピーキング	1前	2					○						兼1
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	育成グローバル人材													
	グローバルスキル	1後	2					○						兼1
	アカデミック英語	1後	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																
(医学部 看護学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	人間	表現技法の基礎	1前	1			○								兼2	オムニバス・共同（一部）
		人体の構造と機能1（細胞生物学）	1前	2			○			1						
		人体の構造と機能2（解剖生理学）	1後	2				○							兼1	
		ENGLISH OF NURSING STUDY ABROAD	2・3前		1				○						兼1	
		人間工学	1・4後		1		○								兼1	
		保健医療行動学	2・3前		1		○								兼1	集中
		小計（6科目）	—	5	3	0	—			1	0	0	0	0	兼5	
	健康	感染と防御	2前	2			○					1			兼3	オムニバス・共同（一部）
		薬理学	2後	2			○								兼4	オムニバス・共同（一部）
		看護の基礎理科	1前	1			○			1					兼2	オムニバス
		栄養と代謝	1前	1				○							兼2	オムニバス
		健康科学論	1前	1			○			4					兼2	オムニバス
		健康障害と栄養	2後	1			○								兼1	
		公衆衛生学	2前	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
		小計（7科目）	—	10	0	0	—			5	0	1	0	0	兼13	
	社会／環境	生活環境論	1前		2		○								兼1	
		保健医療情報学1（情報科学）	1前	1				○		1					兼1	共同
		保健医療情報学2（医療統計）	1後	1				○		1					兼1	共同
		保健医療関係法規	2後	1			○			1						
		社会保障論	2前	1			○								兼1	
		保健医療福祉行政論	2前	1			○								兼1	
		社会福祉論	2前		2		○								兼1	
		疫学	3前		2		○			1						
		臨床工学	2・3・4前		1		○								兼1	集中
		小計（9科目）	—	5	7	0	—			1	0	0	0	0	兼4	

教 育 課 程 等 の 概 要														
（医学部 看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	日常生活支援	看護学概論	1前	1			○		1					兼1 オムニバス
		看護コミュニケーション論	1後	1			○		1		4			兼1 オムニバス・共同（一部）
		ヘルスアセスメント	1後	2			○		1		3			兼2 オムニバス・共同（一部）
		基礎看護技術演習	1後	2			○		1		3			兼2 オムニバス・共同（一部）
		看護過程論	2前	1			○				3			兼1 オムニバス・共同（一部）
		基礎看護学実習1（看護の対象理解）	1後	1				○	1		3			集中
		基礎看護学実習2（生活援助）	2前	2				○	1		3			集中
		精神看護学概論	1後	1		○				1				
		成人老年看護学概論A	2前	1		○				2	1			オムニバス
		成人老年看護学概論B	2後	1		○			1	1	3			オムニバス
		小児看護学概論	2前	1		○			1	2				オムニバス
		小児看護学実習A（健康な小児の看護）	3後	1				○	1	2				集中
		小計（12科目）	—	15	0	0	—		3	5	7	0	0	兼3
	療養生活支援	臨床看護技術演習1（治療・処置）	2前	2			○		1		3			兼2 オムニバス・共同（一部）
		臨床看護技術演習2（薬物療法・検査）	2後	1			○		1		3			兼3 オムニバス・共同（一部）
		疾病と看護A（消化器）	2前	2		○			1	2	1			兼4 オムニバス
		疾病と看護B（呼吸器・循環器）	2前	2		○			2	1				兼3 オムニバス
		疾病と看護C（腎・泌尿器・皮膚）	2前	2		○			1	2	2			兼3 オムニバス
		疾病と看護D（神経・運動器）	2後	2		○			1	1	2			兼3 オムニバス
		疾病と看護E（代謝・免疫・感覚器）	2後	3		○			1	2	2			兼5 オムニバス
		疾病と看護F（周手術期）	2後	2		○				1	1			兼4 オムニバス
		在宅看護学概論	3前	2		○				1	1			兼1 オムニバス
		在宅看護学	3前	2			○			1	1			兼2
		在宅看護学実習	3後	2				○		1	1			兼4 集中
		小児看護学	2後	2		○			1	2				兼3 オムニバス・共同（一部）
		小児看護学演習	3前	1			○		1	2				兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
（医学部 看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主 専 攻 科 目	療 養 生 活 支 援	小児看護学実習B（健康障がいのある小児の看護）	3後・4前	1				○	1	2				兼1 集中
		老年看護学演習	3前	1			○			1	2			兼1
		成人看護学演習	3前	2			○		1	2	1			兼1
		成人看護学実習	3後・4前	6				○	1	2	1			兼1 集中
		老年看護学実習A（健康障害を持つ高齢者の看護）	3後・4前	3				○		1	2			兼1 集中
		老年看護学実習B（施設で生活する高齢者の看護）	3後	1				○		1	2			兼1 集中
		精神看護学	3前	2		○					1			兼2 オムニバス
		精神看護学実習	3後・4前	2				○		1	1	1		兼1 集中
		小計（21科目）	—	43	0	0	—			4	7	8	1	0 兼3
	健 康 維 持 増 進 支 援	母性看護学概論	2後	2		○			2			1		オムニバス・ 共同（一部）
		母性看護学	3前	2		○			2			1		兼1 オムニバス・ 共同（一部）
		母性看護学実習	3後・4前	2				○	2			1		兼3 集中
		地域精神保健福祉と看護	3前	1		○				1		1		オムニバス・ 共同（一部）
		健康教育学	2後	1			○		1	1	1	1		オムニバス・ 共同（一部）
		養護概説	2後		2	○					1			
		学校保健	3前		2	○			1		1			兼1 オムニバス
		家族看護学	4後	1		○			1					
		公衆衛生看護技術論	4前		2	○			1	1	1	1		兼2 集中 オムニバス・ 共同（一部）
		公衆衛生看護学概論	2前	2		○			1	1	2	1		オムニバス
		行政保健師活動論	3前		2	○				1	1	1		オムニバス
		産業保健看護学	3前		2	○			1	1	1	1		兼1 オムニバス・ 共同（一部）
		産業保健看護学実習	3後・4前		1			○	1	1	1	1		兼1 集中
		行政保健師実習	3後・4前		4			○	1	1	1	1		兼2 集中
		小計（14科目）	—	11	15	0	—			4	2	2	3	0 兼7

教 育 課 程 等 の 概 要														
（医学部 看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	看護の統合	保健医療パートナーシップ総論	1後	1		○			1					兼5 オムニバス・共同（一部）
		看護管理論	4前	1		○				2				集中
		国際看護論	2前		2	○				1	1			兼3 オムニバス・共同（一部）
		看護情報学	2・3前		1	○					1			集中
		医療経済学	2・4後		1	○								兼1
		看護教育学	4後		1	○				1				
		国際コミュニケーションA（国内）	2前		1			○						兼1
		国際コミュニケーションB（ハワイ）	1・2前		1		○			1				集中
		国際看護基礎演習A	2・3後		1		○		1					集中
		国際看護演習A（デンマーク）	2・3後		2		○		1					集中
		国際看護基礎演習B	3後		1		○		1					集中
		国際看護演習B（メイヨ）	3後		2		○		1					集中
		保健医療パートナーシップ演習	2後	1			○							兼5
		救急・災害看護論	4後		2	○				1				
		退院支援・在宅ケアマネジメント論	4前		2	○				1	1			兼1 オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護管理論	4後		1	○			1	1	1	1		オムニバス・共同（一部）
		統合実習	4前・後	2				○	6	8	9	3		集中
		看護研究概論	3前	1		○			3	1				オムニバス
		専門看護ゼミナール	4前・後	2			○		8	8	9	3		集中
		小計（19科目）	—	8	18	0	—		9	8	9	3	0	兼11
合計（102科目）		—	119	43	0	—			9	8	9	3	0	兼88

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学部 看護学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
以下の合計で125単位修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）) ☐科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）<u>2単位修得</u> ☐科目区分Ⅱ 現代教養科目（必修科目）<u>12単位修得</u> ☐科目区分Ⅲ 英語科目（必修科目）<u>8単位修得</u> ☐科目区分Ⅳ 主専攻科目<u>103単位修得</u> （必修科目） 97単位修得 （選択科目） 6単位修得 合計125単位修得						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 看護学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○			1					
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0	兼4
Ⅱ 現代 教養 科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼22
Ⅲ 英語 コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼73

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 看護学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	人間	コミュニケーション論	1前	1		○					1			
		表現技法の基礎	1前	1		○				3	3			
		人間関係論	1前	2		○				1	1	1		兼1
		人体の構造と機能1（細胞生物学）	1前	2		○	○		1					
		人体の構造と機能2（解剖生理学）	1後	2		○		○			1			
		看護留学英語	1前		1			○						兼1
		人間工学	1後		1	○								兼1
		保健医療行動学	1前		1	○								兼1 集中
		小計（8科目）	—	8	3	0	—		1	4	5	1	0	兼4
	健康	健康科学論	1前・後	1		○			4					兼3
		看護の基礎理科	1前	1		○			1					兼2
		栄養と代謝	1前	1			○			1				兼1
		健康障害と栄養	2後	1		○				1				
		公衆衛生学	2後	2		○			1					
		感染と防御	1前	2		○	○		1		2			兼4
		薬理学	1後	2		○	○							兼4
		臨床病態学A（皮膚・運動器・麻酔）	2前	1			○		1					兼8
		臨床病態学B（病理・呼吸・循環・消化器）	2前	2		○	○		1					兼9
		臨床病態学C（神経・泌尿器・血液・感覚器）	2後	2		○	○		1					兼6
		小計（10科目）	—	15	0	0	—		5	1	2	0	0	兼35

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 看護学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	社会／環境	保健医療福祉行政論	2前	1			○									兼1	
		保健医療情報学 1（情報科学）	1前	1					○		1					兼1	
		保健医療情報学 2（医療統計）	2後	1					○		1					兼1	
		保健医療関係法規	2前	1				○			1						
		社会保障論	2前	1				○								兼1	
		生活環境論	1前		2			○								兼1	
		社会福祉論	2前		2			○								兼1	
		疫学	2前		2			○			1						
		臨床工学	2前		1			○								兼1	集中
		小計（9科目）	－	5	7	0	－			1	0	0	0	0	兼4		
日常生活支援	看護基礎理論	2前	2				○			2	1						
	看護コミュニケーション論	2後	1						○	2	3		2				
	看護過程とヘルスアセスメント	2後	1						○	1		3					
	ヘルスアセスメント	2前	2				○	○		2	1	3			兼2		
	看護基礎技術演習	2後	2						○	2	1	3			兼2		
	生涯発達論	2前	1						○	1	3	2					
	リハビリテーション看護論	2前	1						○		2	2			兼3		
	子育て援助論	2後	2				○	○		1	3		1				
	こころの健康と看護	2後	1				○				1	1	1				
	看護基礎実習 1（看護の対象理解）	2後	1						○	2	1	3				集中	
	看護基礎実習 2（生活援助）	2前	2							2	1	4			兼10	集中	
	小児看護学実習 1（健康な小児の看護）	3前・後	1							1	2					集中	
	小計（12科目）	－	17	0	0	－			6	7	8	3	0	兼13			

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 看護学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	療養生活支援	臨床看護技術演習 1（治療・処置）	2前	2				○		2	1	3		兼2
		臨床看護技術演習 2（薬物療法・検査）	2後	1				○			1	3		兼2
		クリティカルケア論	2後	2				○			2	2		兼1
		慢性期看護論	2前	2			○	○			2	2		兼1
		老年看護学	2前	2			○	○			1	2		兼1
		ターミナルケア論	2前	1			○				1			兼1 集中
		小児看護学	2前	2			○	○			2			
		精神看護学	2前	2			○	○			1	1	1	兼2
		在宅看護学概論	2後	2			○				1	1		兼2
		在宅看護学援助論	2前	2			○				1	1		兼2
		成人看護学実習 A（専門的ケアを受ける成人の看護）	3前・後	1				○			2	2		兼1 集中
		成人看護学実習 B（健康障害を持つ成人の看護）	3前・後	5				○			2	2		兼2 集中
		老年看護学実習 A（健康障害を持つ老人の看護）	3前・後	3				○			1	2		兼3 集中
		老年看護学実習 B（施設で生活する老人の看護）	3前・後	1				○			1	2		集中
		小児看護学実習 2（健康障害を持つ小児の看護）	3前・後	1				○	1	2				兼1 集中
		精神看護学実習	3前・後	2				○		1	1	1		兼1 集中
		在宅看護学実習	3前・後	2				○		1	1			兼3 集中
		小計（17科目）	—	33	0	0	—			2	8	9	1	0 兼17

教 育 課 程 等 の 概 要

（健康科学部 看護学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	健康維持増進支援	生涯発達看護論	2後	2			○	○		1	3	3	1		
		母性看護学	2前	2			○	○		1	1		1		兼1
		地域精神保健福祉と看護	2前	1			○				1		1		
		健康教育学	2後	2			○			1	1	1	1		
		家族看護学	2後	1			○			1					
		公衆衛生看護学概論	2前	2			○			1	1	2	1		
		行政保健師活動論	2前	2			○				1	1	1		
		公衆衛生看護技術論	2前		2			○		1	1	1	1		兼2 集中
		産業保健看護学	2前		2		○			1	1	1	1		兼2
		母性看護学実習	3前・後	2					○	1	1		1		兼4 集中
		産業保健看護学実習	3前・後		1				○	1	1	1	1		兼2 集中
		行政保健師実習	3前・後		4				○	1	1	1	1		兼3 集中
		小計（12科目）	－	14	9	0	－			3	5	5	3	0	兼9
看護 の 統 合	看護研究概論	3前	1			○			3	1					
	看護管理論	2前	1			○				1				集中	
	国際看護論	2前		2		○				2	2			兼5	
	国際コミュニケーションA（国内）	2前		1			○							兼1	
	国際コミュニケーションB（ハワイ）	2前		1			○				1			集中	
	看護福祉パートナーシップ実践法A	3前		1			○				2			兼2	
	看護福祉パートナーシップ実践法B	3後		1			○				3			兼2	
	国際看護基礎演習A	2後		1			○			1				集中	
	国際看護演習A（デンマーク）	3後		2			○			1				集中	
	国際看護基礎演習B	2後		1			○			1				集中	
	国際看護演習B（メイヨ）	3後		2			○			1				集中	
	救急・災害看護論	3後		2		○				1				集中	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康科学部 看護学科)															
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	看護 の統合	退院支援・在宅ケアマネジメント論	3後		2		○				1	1			集中
		看護情報学	2前		1		○					1			集中
		看護教育学	2後		1		○				1				
		医療経済学	2後		1		○								兼1
		公衆衛生看護管理論	3後		1		○			1	1	1	1		
		専門看護ゼミナール	4前・後	2				○		9	8	11	3		集中
		統合実習	3後	2					○	4	8	7	3		兼4 集中
		小計（19科目）	—	6	20	0	—			9	8	11	3	0	兼15
合計（101科目）			—	112	51	0	—			9	8	11	3	0	兼12
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)						
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
以下の合計で124単位修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目）：4単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得 															

授 業 科 目 の 概 要 （ 事 前 相 談 ）			
（医学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代文明論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代教養科目	基礎教養科目		
	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
	社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
	自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展教養科目		
	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	
IV 主専攻科目	人間	表現技法の基礎	(概要) 本科目は、初年次教育科目である。大学において求められる主体的学習姿勢について、グループワークによる討議を通して考察し、実践につなげることを目標とする。また、自らの考えをグループワークやレポートを通して適切に伝えることの重要性を理解し、その方法を学習する。その際、メディアリテラシーや科学的根拠について考える。 (オムニバス方式／全8回) (51 池内眞弓／5回) 大学で学ぶ意義、メディアリテラシー、レポートの書き方など、本科目の骨格となる部分について講義を行い、全授業回を通して学生の理解度を把握する。 (51 池内眞弓、109 角田ともえ／2回) (共同) 学生が提出したレポートの添削を行い、その結果と改善方法について講義内で共有する。 (51 池内眞弓、109 角田ともえ／1回) (共同) 図書館で入手可能な情報、情報を入手する方法について講義・演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)
		人体の構造と機能 1 (細胞生物学)	人体の構成単位である細胞や細胞内の分子間の連携のうえに個体としての複雑な生命現象が成り立つことを学ぶ。具体的には細胞の構造と機能、タンパク質、免疫の基礎、核酸、遺伝子の発現と調節、ヒトの発生、体の調節、遺伝・遺伝病などの基礎知識を学び、分子レベルの異常が病気の原因になることを理解する。さらに、遺伝子や細胞を利用した医療 (遺伝子診断・遺伝子治療・再生医療) を解説し、細胞や遺伝子の知識が診断や治療に役立っていることを理解する。また、DNAを用いた実習を通して生命現象解明の基礎となっている遺伝子工学実験の初歩を体験し、遺伝子について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	人間	人体の構造と機能 2（解剖生理学）	人体の構造を、骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系および神経系といった器官系統別に分けて学習しながら（解剖学）、並行して生命維持のメカニズムに関連した生理機能の基礎を学習する（生理学）。本科目は、器官系統別講義に加えて、それらの知識を統合するため4回の演習（組織学演習、生理学演習、解剖見学演習2回）を実施する。	
		ENGLISH OF NURSING STUDY ABROAD	（英文） Students who are attending nursing training programs in the overseas need to join the classes actively. For reaching the object , they need to improve their english skills in reading , writing , speaking , and listening. The score of TOEFL is targeted at higher than 450 points. （和訳） 海外での看護研修参加を計画している学生が、主体的に研修参加できるように、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング全般にわたって英語力をスキルアップする。TOEFL450点以上獲得を具体的な目標とする。	
		人間工学	人間工学は、人間と機械などの人工物環境とのかかわりを扱う学問である。道具や機械は人間の生活に欠かせないものであるが、反対に使用者への負担や疲労を生じさせ、操作ミスを誘発する場合もある。人間と機械の接触面における整合性を高めることは、安全の確保や効率化、使用者の健康を守ることにもつながる。人間工学の主要な問題を人間と機械を対照させながら考えていくこととする。また、後半では医療過誤とヒューマンエラー、医療の安全と人間工学についても教授する。	
		保健医療行動学	保健医療行動学とは、「健康や病気をめぐるあらゆる行動」を実証的、体系的に理解しようとする学問であり、個人の健康あるいは疾患を、心理社会的背景を含めたより広い視点からホリスティックに捉えようとするものである。講義では、患者の気持ちを理解し、コミュニケーションするために役立つような心理学やカウンセリングの考え方を概説し、実践的働きかけについて考える。内容は、保健行動の概念、様々な保健行動、ストレスの概念・予防・対処法、障害の受容・対処・克服、そしてセルフケアについて教授する。	
	健康	感染と防御	（概要） 感染症は病院のみならず老健施設や在宅においても重要であることから、看護職として感染に関連する必要な知識を学習する。具体的には感染症を引き起こす微生物について、その治療・予防法について、感染症の原因微生物の同定方法、それに伴う検体材料の採取方法、滅菌・消毒方法について学ぶ。 （オムニバス方式／全23回） (21 小椋正道／11回) 看護職として必要な微生物の知識、院内感染に対する感染予防手技、感染対策チームの活動内容や感染対策ナースの役割について概説する。 (96 大楠清文／6回) 主な病原微生物の特徴や院内における培養検査の検体採取方法および注意点について概説する。 (36 橘裕司／1回) 感染症の診断方法について学ぶ。 (44 宮地男人／2回) 食中毒や性感染症について学ぶ。 (44 小椋正道 他／3回)（共同） 微生物の培養やグラム染色などを行い、身近な微生物の存在を可視化する演習を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康	薬理学	(概要) 薬理学は適正な薬物療法の基盤となる学問である。薬は生体の特定の部位に結合することにより、効果を表す。また薬は体内の酵素により、代謝される。このような、薬と生体との相互作用について学ぶ。 (オムニバス方式／23回) (67 橋本篤司／10回) 総論として薬の作用点との結合から効果発現に至る過程などについて教授する。 (73 吉川正信／4回) 麻薬性鎮痛薬、ヒスタミン、プロスタグランジン、ステロイドなどについて教授する。 (113 村山千恵子／3回) アルキル化薬、代謝拮抗薬などについて教授する。 (62 小見山智義／2回) 細菌、真菌、ウイルスなどの感染に対して用いる薬、消毒薬について教授する。 (67 橋本篤司／4回) (共同) グループ学習：摘出ウサギ及びモルモット回腸標本を用いてアゴニストとアンタゴニストの効力について教授する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		看護の基礎理科	(概要) 看護学に必要な基礎的な数学・物理・化学の学習をする。具体的には数学(対数、微分積分など)、化学(単位、濃度の表し方、浸透圧、酸と塩基など)、物理(圧力、放射線、光、超音波)の講義を行う。また、数学や化学の演習問題を通して自ら考える力を養う。 (オムニバス方式／全8回) (59 栗田太作／3回) 数学(対数、微分積分など)、物理(圧力、光、超音波)について解説する。 (83 藤田幸男／1回) 放射線の原理、医学応用について学ぶ。 (2 石野知子／4回) 化学(単位、濃度の表し方、浸透圧、酸と塩基、pH)など化学的知識の確認し、ヒトの体液情報への応用が理解できるよう解説する。	オムニバス方式
		栄養と代謝	(概要) 食品の成分としての栄養素の性質を明確にし、栄養素と生体の相互のかかわり合いを明らかにしていく。具体的には、各栄養素の栄養学的意義、生体内での消化・吸収・代謝の過程、各栄養素の摂取基準および各ライフステージの栄養学的特徴などの基礎的な栄養学を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (38 秦野伸二／4回) 栄養代謝の基礎および糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質代謝を中心に各栄養機能および代謝過程について解説する。 (51 池内眞弓／11回) 看護における栄養学の意義、糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの代謝と身体の役割について解説する。また各ライフサイクルに必要な栄養や食事摂取基準についても解説を行う。食品の成分としての栄養素の性質を明確にし、栄養素と生体の相互のかかわり合いを明らかにしていく。具体的には、各栄養素の栄養学的意義、生体内での消化・吸収・代謝の過程、各栄養素の摂取基準および各ライフステージの栄養学的特徴などの基礎的な栄養学を学習する。食品の成分としての栄養素の性質を明確にし、栄養素と生体の相互のかかわり合いを明らかにしていく。具体的には、各栄養素の栄養学的意義、生体内での消化・吸収・代謝の過程、各栄養素の摂取基準および各ライフステージの栄養学的特徴などの基礎的な栄養学を学習する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康	健康科学論	(概要) 将来、保健・医療の分野に携わる学生が他者の「健康」と向き合うことになるが、その第一歩として自分自身の「健康」に関心を持ち、意識を高めることが必要である。したがって、健康の概念、疾病・障害、個人の健康、集団の健康などについて概説し、保健・医療が「健康」とどのように関わっているのかを理解する。さらに、学生自身の健康について、栄養・運動・こころ等の様々な視点から、日常的に評価を行い、考察できることを学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (5 沓澤智子／3回) 健康生活を支援するために必要な学習・研究の視点について概説する。 (8 松木秀明／1回) 疾病動態の歴史的变化、人口動態の変化、社会的状況、健康日本21と予防医学等について概説する。 (9 横山寛子／1回) 健康と性の問題について、近年の課題を踏まえながら概説する。 (81 長沼洋一／1回) 思春期・青年期におけるこころの健康について概説し、学生と一緒に考える。 (68 稗田里香／1回) 嗜癖と健康について、喫煙、アルコール、薬物依存の問題について概説する。 (7 錦戸典子／1回) 働くことと健康について、概説する。	オムニバス方式
		健康障害と栄養	栄養が生命維持や疾病の発生、およびその治療に深くかかわっていることを理解する。地域で生活する人々の健康障害を栄養の面からアセスメントする。具体的には、不適当な食生活によって健康障害を招くこと、さらには適切な栄養摂取によって疾病の予防と治療効果を上げる事ができることについて学ぶ。	
		公衆衛生学	(概要) 公衆衛生学の基本理念と健康の概念、予防医学の概念、人口統計と保健統計、地域保健・母子保健・学校保健・成人保健・高齢者保健の仕組みと現状、精神保健の現状、感染症の疫学、国民栄養概論、環境保健の現状と問題点、社会保障の仕組みと現状、産業保健概論、国際保健協力の仕組みと現状について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (8 松木秀明／13回) 公衆衛生学の講義を全て教授する。 (36 橘裕司／2回) (共同) 水の細菌学的検査、ダニの観察を行うことで、日常生活に身近な対象物に関心をもって実験を行う。また二酸化窒素・ホルムアルデヒドの分析方法を用いて実験を行い、健康に影響する身近な物質への理解を深める。	オムニバス方式・共同(一部)
	社会／環境	生活環境論	生活環境とは居住環境と人間の相互の関わりによって成り立つものである。現代における生活環境の現状と問題点について、居住環境の物理的要因と人間の生理・心理的反応を中心に学び、理解を深める。本授業においては、居住空間の熱環境、空気環境、光環境、音環境といった物理的要因とそれに対する人間の反応を科学的に取り扱うことに重点を置いて学ぶ。	
		保健医療情報学 1 (情報科学)	情報科学とは、情報の表現、収集、伝達、蓄積、検索について、原理を究明する科学である。現代は医療の分野においても情報が重視され、病院業務・看護業務での膨大なデータはコンピュータによって処理される。そのため医療関係者である看護師・保健師もコンピュータの原理、操作、情報の分析は必須の学習課題である。講義内容は、情報科学、情報の取り扱い、医療・看護におけるコンピュータ利用、情報の収集・整理方法について説明し、その後の演習において、コンピュータを用いて、ワープロ、プレゼンテーション、表計算の手法を学ぶ。	共同
		保健医療情報学 2 (医療統計)	本授業の目的は、看護の専門領域で情報処理・医療統計学の専門知識を持ち、統計的な見方・考え方ができる看護師・保健師を養成することである。本授業では、医療統計学の基礎知識を修得することにより、これらのデータを有意義に活用することを目指す。講義内容は、基本統計、統計仮説と検定、平均値の推定、平均値の比較(対応のある集団の比較、独立した標本集団の比較)回帰式・相関関係、多群の比較(一元配置分散分析など)、多変量解析(重回帰分析、ロジスティック回帰分析など)の基本知識を説明し、その後コンピュータの演習を通じて学ぶ。	共同

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	社会 ／ 環境	保健医療関係法規	看護師や保健師が国家資格に基づく看護専門職として多くの活動に携わる時、その活動は多くの場合法律に基づいて行われており、時には法的規制を受けることになる。そのため、看護専門職にとって、関連法規の理解は必修条件となる。内容は、医療関連法規（保健師助産師看護師法、医療法など）、保健関係法規（地域保健法、母子保健法。母体保護法、学校保健安全法、高齢者医療法、精神保健福祉法、健康増進法など）、予防関係法規（感染症法、予防接種法、検疫法など）、医療安全に関する法規について学ぶ。	
		社会保障論	社会保障は所得の欠乏、疾病などへの対応を図るものとして、所得と医療の保障を主たる目的で形成されてきた。現代社会においては、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となってきた。本科目では、この社会保障がどのような理念に基づいて形成されてきたのかを踏まえたうえで、現代社会における社会保障の役割と意義、年金制度・医療保障制度・介護保障制度の内容とその課題を学習していく。	
		保健医療福祉行政論	「保健医療福祉行政論」「社会保障論」の両科目で、保健医療福祉の制度・政策（社会保障）の現代社会における役割と意義を踏まえ、わが国の社会保障制度の体系と特徴、財源と費用、行政とその実施体制、課題等を明らかにする。さらに、社会保障と税の一体改革、地方分権・地域主権の動向についてサービス利用者の立場から考察する。本科目では、社会保障論に引き続き、社会保障制度の根幹に据えられている社会保険各制度（介護保険）の現状と課題を考察した上で、社会保障行政の課題等を学ぶ。	
		社会福祉論	社会福祉の理念や歴史的展開を学ぶとともに、その仕組みや制度を関連分野も含めて学ぶ。さらに社会福祉の対象者別の仕組みやサービスと今後の課題を明らかにする。また、社会福祉の援助方法論や福祉専門職と保健・医療その他の専門職との連携の在り方についても学ぶ。	
		疫学	疫学の対象は、人間の集団に起こる健康や疾患に関するすべての事象である。疫学は公衆衛生学・地域保健学の診断学ともいわれる。本授業では、疫学の定義と歴史、疫学で用いる健康指標、疫学研究において用いられる標本抽出・標準化とマッチングの理論と手法、偏りと交絡、スクリーニング、記述疫学、分析疫学、介入研究、因果関係論、疫学で使用する統計、疫学研究の倫理的課題を学び、疫学研究の礎とする。	
		臨床工学	臨床工学は、医療に直接利用される理工学技術について、基礎から理解を深めることを目的とした科目である。診療・看護に利用されている技術についての理工学的な考え方を身近なものにし、医用工学機器を安全に取り扱うための基本概念を学ぶ。医療技術に応用されている理工学技術は、物理学、電子工学、コンピュータ技術、医用機械工学など多岐にわたる。物理学の考え方や単位、半導体、トランジスタなどの電気・電子素子、論理回路などのコンピュータ工学の基礎、コンピュータネットワーク、電子機器を用いた生体計測法、体脂肪率計、画像診断（MRI、PET）について学ぶ。	
	日常 生活 支援		（概要）「看護とは何か」を中心に据えた看護学入門の科目である。具体的には、看護の役割と機能、対象である「人」の理解、健康の捉え方、人々が暮らす環境とは、等の側面から看護学が取り組むべき内容を概観する。また、現代の看護に至るまでの歴史や教育制度の変遷、さらには現在の医療システムと看護提供のシステム、看護における倫理、今後の看護の展望について学習し、看護学に対する関心を喚起する。	オムニバス方式
		看護学概論	（オムニバス方式／全15回） （6 城生弘美／8回） 看護学の歴史変遷、看護理論、看護の役割と機能、看護の対象、健康と社会、看護における倫理について、身近な話題とともに概説する。 （94 瓜生佳織／7回） 看護提供の仕組み、看護サービスの管理、職業人（教育制度、キャリアアップ）としての看護職、看護の国際化、災害看護について、身近な話題とともに概説する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	日常生活支援	(概要) 看護実践の場面で、人間関係成立に向けて患者や家族ばかりでなく、医療者間においても大変重要であることを認識し、どのような方法論をとればより円滑に人間関係が成立するかについて考える科目である。看護が実践される場におけるコミュニケーション技術について学ぶとともに自分の言動についても客観的に捉えられる力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (18 石原孝子／8回) コミュニケーションに必要な基本事項である、自己分析、人格構造、ライフサイクル論、交流分析、アサーションについて概説する。その後、他者とのコミュニケーションについて、ロールプレイ等を用いて理解を深める演習を行う。 (6 城生弘美／2回) 看護の場面におけるコミュニケーションの重要性について概説する。 (6 城生弘美、24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、94 瓜生佳織／5回) (共同) 看護場面において起こりやすいコミュニケーションの行き違いの事例を課題にし、学生たちに望ましい看護職者の行うコミュニケーション方法の中で、より良い方法について発表し、考えを深めるための指導を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)
	看護コミュニケーション論		
	ヘルスアセスメント	(概要) 「人体の構造と機能2(解剖生理学)」の知識を基盤とし、対象者の身体状態の観察能力の向上をめざす。具体的には成人期を基本とし、頭の先から足先まで5つの観察技法の基本を用いて演習を中心として習得する。また得られた身体情報について、既習の学習事項と照らし合わせ論理的に判断する力を養う。最終的に紙上事例を用いて、得た主観的情報・客観的情報を統合して判断でき、看護援助に結び付けられるヘルスアセスメント能力について学ぶ。 (オムニバス方式／全23回) (6 城生弘美／8回) 看護師の系統だった観察方法としてのヘルスアセスメントの意義と各テクニックの特徴について解説し、其々の身体各系統のアセスメントを実施し、方法を習得することを目指す。 (6 城生弘美、24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、94 瓜生佳織、97 奥山知子／7回) (共同) 各部位・系統別(頭部・顔面・胸部・腹部・筋骨格)のアセスメント方法について、学生同志で実施し、方法を習得する。 (22 籠谷恵／2回) 眼のアセスメント方法について解説し、種々の眼のアセスメント方法(眼底鏡使用含む)について学生同志で実施し、方法を習得する。 (25 森屋宏美／4回) 紙上事例を提示し、既習のアセスメント方法を用いてどのように情報収集し看護計画に繋げるかについて、演習をおこなう。紙上事例ではあるが、教員が事例役になり学生の情報収集時に質問に応答する設定とする。 (6 城生弘美、24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、94 瓜生佳織、97 奥山知子／2回) (共同) 既習のアセスメント方法の実技確認(挨拶、実施、患者への説明の一連の観察)を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	日常生活支援	基礎看護技術演習	(概要) あらゆる領域の看護実践の基盤となる看護技術のうち生活過程における援助技術について学習する。看護技術は看護を必要としている人々の健康や質の高い生活を実現するための活動であり、科学的根拠に基づき、看護の対象者のその人らしさを尊重しながら個別性に合わせて実施される。本科目では、看護技術の基本的な方法を、対象者の安全・安楽を考えながら体験的に学習し、対象者のニーズの充足のために創意工夫して看護技術を提供するための基礎的な能力を養う。 (オムニバス方式／全30回) (24 森祥子／10回) 患者の生活支援について、病床環境調整、シーツ交換、清潔保持（清拭、洗髪、足浴、爪切り）、寝衣交換に関する基本的な看護技術援助に必要な基礎知識、注意事項や患者の生活を大切にする上での留意することについて教授する。 (24 森祥子、22 籠谷恵、25 森屋宏美、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／10回)（共同） 環境調整、シーツ交換、清潔保持のための技術、寝衣交換に関する準備物品や実施する際の注意事項を踏まえながら、学生個々が基本的な看護技術が実施できるように指導する。 (22 籠谷恵／2回) 体位変換法、移動と移送に関する看護技術についての基本的知識と注意事項について教授する。 (22 籠谷恵、24 森祥子、25 森屋宏美、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／2回)（共同） 体位変換法、移動と移送について注意事項を踏まえて学生個々が実施できるように指導する。 (25 森屋宏美／3回) 食事とは、排泄（床上排泄、尿器・便器排泄、陰部洗浄）の援助について、基本的な知識と注意事項を教授する。 (25 森屋宏美、22 籠谷恵、24 森祥子、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／3回)（共同） 食事介助、排泄（床上排泄、尿器・便器排泄、陰部洗浄）介助について、注意事項を踏まえて学生個々が実施できるように指導する。	オムニバス方式・共同（一部）
		看護過程論	(概要) 「看護学概論」を基盤とし、看護過程とは何かを原理的にとらえ、これをもとに方法論を修得する科目である。看護を系統的、組織的に実践する方法として基本的なアセスメント、診断、計画、実施、評価の過程を習得する。看護の対象へ必要なケアを考え、ふさわしい援助に結びつけるための能力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (25 森屋宏美／4回) 看護援助を行う際に、看護過程という思考方法を取ることで、患者にとってより良い看護援助が提供できることを教授する。看護過程の構成要素とその構成要素を効果的に活用するための基本的な知識について説明をする。 (25 森屋宏美、94 瓜生佳織／6回)（共同） 紙上事例を用いて、構成要素事に事例を使用しながら、看護過程の展開方法を教授する。 (25 森屋宏美、94 瓜生佳織、24 森祥子、22 籠谷恵／5回)（共同） 紙上事例を提示し、アセスメント、看護診断、計画、実施、評価の実際を検討・記録する際、個別の質問に対応し、理解を深めるように指導する。	オムニバス・共同（一部）
		基礎看護学実習 1（看護の対象理解）	「看護学概論」、「看護コミュニケーション論」、「基礎看護技術演習」の既習の学習科目を基盤とし、入院生活を送っている患者や患者をとりまく環境を知り、患者のニーズは何かについて考える実習科目である。患者の立場に立った看護とは何か、看護師の役割とは何か、看護師の果たすべき機能とは何かについて、看護師と行動を共にすることで考え、今後の看護への学習動機を啓発する。	
		基礎看護学実習 2（生活援助）	初めて受け持ち患者をもち、看護過程を展開する実習である。看護の観点から対象者を統合的に捉え、基本的ニーズを把握し、その人に合った日常生活援助を創造的に工夫して実践し、評価する基礎的な力を養う。これらの体験を通して、看護師としての自己を見つめ、深める力を育成する。	
		精神看護学概論	精神の健康について、心理社会的側面を含めて幅広く学ぶ。こころの機能論、こころの発達理論、ストレスマネジメント、危機理論、コーピング理論等について学び、精神の発達や構造、機能、心身相関、ストレスについて理解する。また、精神の危機状態への対処や援助場面における情緒的問題について学習する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	日 常 生 活 支 援	成人老年看護学概論 A	(概要) ライフサイクルにおける成人期(青年・壮年期・向老期)および老年期のステージにある人々の身体的・心理的・社会的発達の特徴と生活を統合的に捉える。まず、成人期の特徴と成長発達プロセスにおける自己概念の形成、役割機能の変化、ミドルクライシス(危機)および発達課題について学ぶ。続いて、老年期の身体・心理・社会的特徴および発達課題について学習する。成人期および老年期における個と社会・環境との相互作用を理解するように学習する。 (オムニバス方式／全8回) (14 庄村雅子／5回) 成人期の特徴と生活、発達課題と発達の危機および危機とストレスコーピングについて概念・理論や倫理的観点を含めて解説する。 (26 安井大輔／2回) 老いの意味(文化・家族・社会・自分)、老年期とは、老年看護の対象者となる人々の特徴について概説する。 (16 真下綾子／1回) 高齢者の人口推移、健康/医療制度/介護/福祉政策/権利擁護、高齢者への看護の理念と目標・課題について概説する。	オムニバス方式
		成人老年看護学概論 B	(概要) 個人、家族あるいは地域の人々が健やかで、充実した人生を送るための健康支援の方法を、発達上の課題に沿って学ぶ。ライフサイクルの成人期および老年期で生じる可能性のある健康上の問題について理解を深め、協働する専門職者と共に、健康の保持増進のためのヘルスプロモーションを考える。特に、成人期および老年期の発達ステージの特徴を踏まえて、それぞれに特徴的な看護ニーズと生活支援について学習する。 (オムニバス方式／全8回) (19 岡部春香／2回) 生活習慣や職業、余暇活動と成人期に特徴的な健康障害と主な看護について概説する。 (4 今泉郷子／1回) 健康障害のある成人の看護において重要な概念・理論について解説する。 (16 真下綾子／2回) 高齢者の暮らしについて、その特徴を概説する。 (26 安井大輔／1回) 老年看護に活用できる理論・アプローチ方法について概説する。 (21 小椋正道／2回) 老年看護学における対象の見方・とらえ方(対象理解に活用できる指標とツール) 健やかに老いること、安らかな永眠を支える看護(エンドオブライフケア)について概説する。	オムニバス方式
		小児看護学概論	(概要) 本科目は小児看護の対象を理解し、その特徴を習得するための基盤科目である。そのため対象である子どもの身体的、心理的、社会的な成長・発達の特性を理解し、基本的生活習慣の援助について学ぶ。さらに子どもを取り巻く環境として、現代家族や社会の構造、医療制度を理解し、小児看護の役割や特徴、さらに課題へと深める。 (オムニバス方式／8回) (3 井上玲子／3回) 小児看護の特徴、小児看護における倫理・施策、小児にとっての環境である家族や社会構造(医療制度を含む)について概説する。 (13 児玉千代子／1回) 小児にとっての基本的生活習慣の援助について概説する。 (15 浜辺富美子／4回) 小児の各時期における成長・発達の基本的な特徴の理解と援助について概説する。	オムニバス方式
		小児看護学実習 A (健康な小児の看護)	子どもが生活する幼稚園・保育園での体験学習を通して、子どもの成長・発達を体感し、基本的生活習慣の自立への援助について学ぶ。さらに子どもを取り巻く環境から保育者の役割を知り、子どもとの関わり方について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	療 養 生 活 支 援		(概要) 看護師が行う看護技術のうち、特に治療を必要とし、かつ患者に高頻度で実施される看護技術を学習する科目である。個々の看護技術について、看護過程を踏まえ、医療安全や患者からの満足感を考慮し、技術習得できるまで体験的に学習する。 (オムニバス方式／全30回) (25 森屋宏美／11回) バイタルサイン測定、感染予防の基本技術、吸引、経管栄養法、導尿、浣腸、体温管理の看護技術に必要な基本的な知識及び準備用品、使用方法、留意事項について教授する。 (25 森屋宏美、24 森祥子、22 籠谷恵、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／11回) (共同) バイタルサイン測定、感染予防の基本技術、吸引、経管栄養法、導尿、浣腸、体温管理の実技について、学生個々に指導を行う。 (24 森祥子／2回) 酸素療法、終末期・エンゼルケアについて、基本的な知識及び準備物品、使用方法、留意事項に関して教授する。 (24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／2回) (共同) 酸素療法、終末期・エンゼルケアについて、学生個々の実技に対し指導を行う。 (22 籠谷恵／1回) 救命救急処置技術について、基本的な知識及び準備物品、使用方法、留意事項に関して教授する。 (22 籠谷恵、24 森祥子、25 森屋宏美、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／1回) (共同) 救命救急処置技術について、学生個々の実技に対し指導を行う。 (25 森屋宏美、24 森祥子、22 籠谷恵、6 城生弘美、94 瓜生佳織、100 川口里佳／2回) (共同) 既習の基本的な看護技術項目について、習得状況(準備物品の確認、患者への挨拶・説明、物品の片づけまでの一連の過程)の確認を個別に行う。	オムニバス方式・共同 (一部)
	臨床看護技術演習 1 (治療・処置)		(概要) 治療方針確定のために、患者は様々な生体検査・検体検査を受ける。正確な検査データを得るためには様々な留意事項があり、患者に直接指導を要する事項や検体の取り扱いに注意を要する事項がある。よく実施される検査について、その目的・方法・注意事項を学ぶ。さらに、治療に欠かせない薬物療法に伴う基礎的な部分について、薬理学の学習と並行しながら、看護にとって重要な事項を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (51 池内眞弓／8回) 与薬の基本事項と注意事項、注射(皮下注射、筋肉内注射、静脈血採血、静脈内注射)と必要物品および扱い方、留意事項について基本的なことを教授する。 (24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、51 池内眞弓、94 瓜生佳織、97 奥山知子／6回) (共同) 内服薬・外用薬の取り扱いと注意事項、注射器や注射針の扱い方と注意事項、採血時の注意事項について、学生個々の手技について安全に実施できるよう指導を行う。 (24 森祥子、25 森屋宏美、22 籠谷恵、6 城生弘美、51 池内眞弓、94 瓜生佳織、97 奥山知子／1回) (共同) 静脈血採血法あるいは注射法について、学生個々の実技習得状況の確認を実施する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		臨床看護技術演習 2 (薬物療法・検査)		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	療養生活支援		
	疾病と看護 A (消化器)	(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護 A (消化器)」では、病態の基礎となる病理学、消化器疾患の概説と消化器系の症状・疾患に対する看護について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 沓澤智子／6回) 診断・治療のプロセス、消化器疾患の症状と検査、消化管・肝胆膵疾患について概説する。 (37 中村直哉／1回) 病理学とは何か、概説する。 (77 熊木伸枝／1回) 病理学 (循環障害など) について概説する。 (55 梶原博／1回) 病理学 (腫瘍、老化など) について概説する。 (88 傳田裕也／1回) 口腔の疾患とケアについて概説する。 (14 庄村雅子／2回) 慢性肝炎・肝硬変患者の特徴と必要な看護について概説する。 (16 真下綾子／1回) 摂食・嚥下障害の特徴と必要な看護について概説する。 (26 安井大輔／2回) 脱水・低栄養、排便障害 (便秘 下痢) の特徴と必要な看護について概説する。	オムニバス方式
	疾病と看護 B (呼吸器・循環器)	(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護 B (呼吸器・循環器)」では、呼吸・循環系疾患の概説と呼吸器機能障害・循環機能障害のある患者に対する看護について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 沓澤智子／8回) 呼吸・循環系疾患の症状、病態、診断、治療につき、概説する。事例の検討を 1、2 例行う。 (54 小澤秀樹／2回) 循環器疾患 (虚血性心疾患、心不全、高血圧) につき、概説する。 (60 河野光智／1回) 呼吸器疾患の外科治療について概説する。 (90 古屋秀和／1回) 心臓・血管疾患の外科治療について概説する。 (4 今泉郷子／1回) 肺炎・COPD・呼吸不全・肺がんなどの呼吸器機能障害のある患者の特徴と看護について解説する。 (10 大山太／2回) 開心術や心臓リハビリテーションを受ける患者や心不全患者などの循環器障害のある患者の特徴と看護について解説する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	療 養 生 活 支 援	(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護C（腎・泌尿器・皮膚）」では、腎・泌尿器疾患、皮膚疾患の概説と腎・泌尿器機能障害や皮膚疾患のある患者に対する看護につき、学習する。さらにショックや心肺蘇生についても学習し、クリティカル状況にある患者の、生命の安全を確保する援助方法について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 沓澤智子／2回) 腎疾患の症状、検査および糸球体腎炎、慢性腎不全について概説する。 (82 新田正広／3回) 泌尿器疾患について概説する。 (79 高沢研丞／2回) 救急医学（ショック、心肺蘇生）について概説する。 (85 近藤章生／3回) 皮膚疾患の症状、検査、治療について概説する。 (14 庄村雅子／1回) 血液透析・濾過治療を受ける患者の特徴と必要な看護について概説する。 (21 小椋正道／2回) 尿路感染症、排尿障害のある患者の特徴と必要な看護について概説する。 (10 大山太／1回) 熱傷・創傷のある患者の特徴と必要な看護について概説する。 (26 安井大輔／1回) 皮膚疾患と看護について、皮疹・褥瘡、皮膚掻痒感等を具体的に取り上げて概説する。	オムニバス方式
	疾病と看護C（腎・泌尿器・皮膚）		
	疾病と看護D（神経・運動器）	(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護D（神経・運動器）」では、神経系・運動器疾患の概説と神経系の機能障害・運動機能障害のある患者に対する看護、リハビリテーションにおける重要概念について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (61 小松文成／4回) 神経系の疾患（脳血管障害、認知症、変性疾患、脱髄疾患、感染症、末梢神経疾患など）の病態、症状、検査、治療について概説する。 (61 小松文成／1回) 頭部外傷について概説する。 (74 海老原吾郎／1回) 運動器疾患（外傷性疾患）について概説する。 (76 加藤裕幸／1回) 運動器疾患（非外傷性疾患）について概説する。 (4 今泉郷子／2回) 脳血管障害のある患者や開頭術を受ける患者などの脳・神経機能障害のある患者の特徴と必要な看護について概説する。 (19 岡部春香／2回) 骨格系損傷のある患者や人工関節手術を受ける患者などの運動機能障害のある患者の特徴と必要な看護について概説する。 (21 小椋正道／2回) 生活機能障害をもつ人とその家族の理解・リハビリテーション看護の目的・方法、高次機能障害を有する人への看護について概説する。 (16 真下綾子／2回) 認知症・パーキンソン病を有する人への看護、骨粗鬆症や廃用症候群を有する人への看護について概説する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	療 養 生 活 支 援		(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護E (代謝・免疫・感覚器)」では、血液・免疫アレルギー疾患、代謝性疾患、感覚器疾患の概説、慢性病を生きる人への理解と、健康の維持・回復に有効な支援を行うための重要概念と理論、各疾患患者に対する看護についてグループワークを取り入れて学習する。 (オムニバス方式／全30回) (5 沓澤智子／8回 内分泌・代謝性疾患、免疫・アレルギー疾患につき解説する。事例を用いて、グループで検討することにより理解を深める。 (63 白杉由香里／3回) 血液疾患(貧血、白血病、凝固異常など)について概説する。 (75 岡村卓穂／1回) 乳腺内分泌の外科について概説する。 (80 辻明／2回) 眼疾患につき概説し、視力障害のある人への援助について考える。 (78 関根基樹／2回) 耳鼻咽喉の疾患について概説する。 (89 長尾隆太／1回) 癌の放射線治療について概説する。 (14 庄村雅子／9回) 慢性疾患を持つ患者の看護で重要な概念・理論を教授する。糖尿病のある患者の特徴と必要な看護について考える。HIV・AIDS患者の特徴と主な看護を概説する。がんの総論、がん薬物療法および造血幹細胞移植を受ける患者と看護の特性について考える能力を養成する。 (26 安井大輔／2回) 慢性疾患を持つ高齢者への看護、高齢者の感覚器機能障害への看護(視覚・聴覚・知覚)について概説し、より良い看護とは、について考える能力を養う。 (21 小椋正道／1回) 高齢者の免疫機能の低下・感染対策・看護(疥癬・白癬・ノロウィルスなど)について概説する。 (16 真下綾子／1回) 高齢者の精神疾患、高齢者の不眠・うつについて概説する。	オムニバス方式
	疾病と看護E (代謝・免疫・感覚器)			
		疾病と看護F (周手術期)	(概要) 近年、医療の進歩は著しく、様々な疾患の病態の解明、診断技術の進歩とあいまって、治療も変化してきている。「疾病と看護」では、様々な疾患の病態を理解し、健康障害を持つ患者の情報収集とアセスメントの方法、および健康の維持・回復に有効な支援と評価の方法について学習する。「疾病と看護F (周手術期)」では、周術期に焦点をあて、外科・麻酔の概説と、手術期の患者の援助について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (66 西隆之／1回) 外科総論(手術について)について概説する。 (87 澤田真如／2回) 全身麻酔・局所麻酔について概説する。 (72 山本壮一郎／1回) 消化管の外科手術について概説する。 (70 矢澤直樹／1回) 肝胆膵の外科手術について概説する。 (10 大山太／6回) クリティカルな状況での患者の観察と看護および周手術期の看護で重要な観察と管理について教授し、よりの確な看護を提供する能力を養う。 (19 岡部春香／4回) 開腹術や腹腔鏡下手術、人工肛門造設術を受ける患者の特徴と必要な看護について概説し、状況に応じた的確な看護が提供できる能力を養う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	療養生活支援	在宅看護学概論	(概要) 在宅療養者とその家族の健康と生活の関連性、制度と社会資源、移行期支援、在宅ターミナルケア、信頼関係構築・意思決定支援、家族支援、自立支援、チームアプローチ・ケアマネジメント・在宅ケアシステム、在宅看護過程、在宅看護管理・倫理的課題の理解のための基本的知識を学び、諸外国との比較から日本の在宅看護の課題を考える。 (オムニバス方式／全15回) (11 岡部明子／10回) 対象理解、意思決定支援、家族支援、在宅ターミナルケア、自立支援、在宅看護過程、諸外国の状況について教授する。 (18 石原孝子／4回) 制度と社会資源、チームアプローチ、ケアマネジメント・地域ケアシステム、在宅看護管理について教授する。 (114 泰川恵吾／1回) 現行の在宅医療の実際と在宅看護に期待する役割について教授する。	オムニバス方式
		在宅看護学	多様な発達段階、疾患・障がい、医療処置、家族状況にある在宅看護の対象のニーズを把握し、在宅における日常生活支援および医療処置に関するセルフケア、病状変化の予防と早期対応のための教育的アプローチ、多職種連携の看護計画立案について、移行期から終末期までの時期ごとに事例演習(グループワーク・発表・共有)を展開する中で学ぶ。 (オムニバス方式／全23回) (10 岡部明子、17 石原孝子、内田千佳子、高山真由子／23回)(共同) 紙上事例を用いた在宅療養者とその家族への看護過程をグループワークにより展開し、発表、共有により在宅看護の理解を深める。	
		在宅看護学実習	地域で生活する在宅療養者とその家族のニーズをアセスメントし、個別性の高い看護過程の展開を体験する。また、社会資源活用の実際、他職種・他機関との連携、支援ネットワーク構築における看護職の役割、課題について、実際の連携場面、退院前カンファレンス、サービス担当者調整会議等の見学から学ぶ。	
		小児看護学	(概要) 本科目は病気や障がいをもつ小児と家族への看護を学習する。小児の成長・発達特性をふまえた各疾患の症状・診断・治療からアセスメントの視点を学び、外来、入院、在宅など異なる環境下に合わせた看護の役割、方法を学習する。さらに疾病のみならず現代社会の小児保健に関わる問題も取り上げ、小児看護の意義を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (13 児玉千代子／1回) 小児の成長発達を踏まえた看護の役割について学習する。 (15 浜辺富美子／3回) 症状を示す小児の看護、小児在宅看護、外傷・事故と虐待について学習する。 (3 井上玲子／3回) 病気や障がいをもつ小児と家族への看護の特徴、小児の看護過程の展開方法について学習する。 (45 望月博之／1回、65 新村文男／1回、32 上野滋／1回) 小児期特有の症状のメカニズム、小児の内科的・外科的疾患の病態について学習する。 (3 井上玲子、15 浜辺富美子／5回)(共同) 紙上事例を用いた小児の看護過程の展開を、グループワークと発表により学習する。	オムニバス方式・共同(一部)
		小児看護学演習	「小児看護学概論」、「小児看護学」で学習した知識に基づき、小児期の日常生活援助技術(排泄ケア、清潔ケア等)、疾病や症状にかかわる技術(与薬、バイタルサインズ測定、ヘルスアセスメント)、検査・処置、移送等の看護技術を演習や紙上事例を用い、看護過程を通して学習する。	
		小児看護学実習B(健康障がいのある小児の看護)	小児医療を実践している病棟や外来での見学実習を通じて、病気や障がいをもつ小児の治療や看護、成長・発達の支援について学習する。既存の学習を基盤に、小児看護の特徴や看護介入方法を体得するとともに、小児期特有のチーム医療、多職種連携、地域連携を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	療 養 生 活 支 援	老年看護学演習	老年期にある対象者の看護の考え方を学び、高齢者に特有の疾患に関して事例を通し、健康状態をアセスメントし、課題を導き出し、看護過程を展開する。そのプロセスにおいて、高齢者に必要な排泄ケアなどの看護実践を行う。さらに、グループワークを通して、看護過程の妥当性を討議し、高齢者への看護の理解を深める学習をする。	
		成人看護学演習	成人期に特有の健康障害（がん、生活習慣など）をもつ、多様な病期（急性期、慢性期、終末期など）にある人々の看護過程（アセスメント方法、および看護問題と援助方法）と看護技術について事例を通して学ぶ。また、臨床状況設定下における成人患者に対するコミュニケーション及び看護技術の実施スキルを学習する。	
		成人看護学実習	治療を受けるために入院している主に成人期にある患者を受け持ち、統合的な存在として対象を理解し、看護過程を用いて看護を実践する。急性期、慢性期及び終末期にある患者を複数受け持ち、多職種による医療チームの活動や、チームにおける看護師の役割と連携なども学習する。患者・家族を中心としたチームメンバーの価値観を尊重し、実践を通して、看護師としての看護観、倫理観及び職業感を洞察する。 1名以上の成人期にある患者の受け持ちを通して、看護過程を用いた実践を教授する。	
		老年看護学実習A（健康障害を持つ高齢者の看護）	看護実践を通して、高齢者の加齢にともなう身体・精神・社会的機能の変化と関連性を理解する。疾病や障害をもつ高齢者の特性を理解し、生活支援を必要とする高齢者の看護のあり方を考える。老年期にある健康障害を持つ高齢者とのコミュニケーションや生活への支援を通した看護実践を学習する。	
		老年看護学実習B（施設で生活する高齢者の看護）	加齢や健康障害により生活支援を必要とする高齢者の施設での生活を理解する。特に認知症高齢者とのコミュニケーションのありようを理解し、発展させる。 老年期にある患者の受け持ちを通して、看護過程を用いた実践を学習する。	
		精神看護学	（概要）こころの健康障害について学び、精神科治療及び精神科看護について学習する。対象者の健康状態やセルフケア状態のアセスメントと援助技術を習得することを目的とする。正確な知識と技術をもって対象者のその人らしい生活を援助し、そのなかで対象者の人権が擁護できる援助者としての素地を養う。また、看護学生として自分らしさを発揮しつつ、多職種医療チームの一員としての役割意識を明確化する。 （オムニバス方式／全23回） （20 荻野夏子／10回） 統合失調症の理解と看護援助、精神科における基本症状、精神科アセスメントなどについて概説する。 （48 山本賢司、91 前原瑞樹／4回） 精神医学の概論、病理、疾病論、治療論について教授する。 （20 荻野夏子、48 山本賢司、91 前原瑞樹／9回）（共同） 当事者の体験を語っていただく機会を設けた後、必要な看護とは何かについてグループワークを行い、精神科看護に対する理解を深める演習を精神疾患患者の看護過程を展開しながら学ぶ。	オムニバス方式
		精神看護学実習	精神保健上の問題をもつ人々を理解するため、これまで学習した知識を統合し実践する。対象者のセルフケア能力の向上を目指し、対象者をアセスメントし看護援助をおこなう。対象者とのかかわりの過程で生じるさまざまな心理的葛藤から、人間関係のダイナミクスや自己理解を深めることも重要な学習課題となる。可能な範囲で学生自身をケアの道具として活かしながら、幅広い場での応用が可能な心理社会的なケアについて学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康維持増進支援	母性看護学概論	(概要) 母性看護の対象は、妊産婦と子ども、将来子供を産み育てる女性および過去においてその役割を果たした女性であるが、現代社会の女性は多種多様な価値観を有し女性の役割も拡大している。したがって、身体的・心理的・社会的特徴を理解しながら、ライフステージに沿って健康上の問題を学習すると共に、女性を取り巻く家族も含めた人々が、より望ましい健康的な生き方をすることができるようなヘルスプロモーションの方法を考える。また、現代社会の遺伝を含む生殖をめぐる課題や子供の病気・死など家族に起こりうる問題についても理解することが目的である。 (オムニバス方式／全23回) (9 横山寛子／11回) 母性看護学の歴史と対象について、妊産婦以外の思春期・更年期の女性の特徴とヘルスプロモーションの方法さらに女性を取り巻く社会とその支援についての講義と紙上事例を担当する。 (1 石井美里／7回) 成熟期女性の特徴とヘルスプロモーションの方法について、さらに女性をとりまく家族についての講義と紙上事例を担当する。 (29 矢口ゆり／2回) 就労女性のヘルスプロモーションの方法や子供を亡くした女性の支援について講義と紙上事例を担当する。 (9 横山寛子、1 石井美里、29 矢口ゆり／3回) (共同) 紙上事例を用いて、母性看護学に特徴のある事例の看護過程展開を行い理解を深める。	オムニバス方式・共同 (一部)
		母性看護学	(概要) 母性看護とは、妊娠・分娩・産褥／育児期の女性および胎児・新生児を対象とし、出産／出生時期の母子に連続的な関わりをもつ領域である。周産期の母体変化や、母子および家族の各ライフサイクルにおける健康維持・増進や疾病予防ができるよう、基礎的な知識を習得することで、母子だけでなく家族も含めた看護実践が可能となるような学習を行う。演習では、紙上事例を用いて母子や家族への個別性のある看護過程を展開し、実践的な対象理解を深める。 (オムニバス方式／全23回) (1 石井美里／12回) 分娩・産褥・新生児の看護について、その特徴及び注意事項について教授する。 (9 横山寛子／5回) 妊娠期の看護について、その特徴及び注意事項について教授する。 (29 矢口ゆり／1回) 新生児の異常について教授する。 (86 佐柄祐介／1回) 周産期の感染症と治療に伴う看護について教授する。 (1 石井美里、9 横山寛子、29 矢口ゆり／3回) (共同) 紙上事例を用いて、妊娠期、産褥期(新生児含む)全般にわたる母性看護学の特徴と注意点について理解を深める。 (1 石井美里、9 横山寛子／1回) (共同) 既習内容の知識の確認とまとめを行い、理解の定着を図る。	オムニバス方式・共同 (一部)
		母性看護学実習	(概要) 「母性看護学概論」「母性看護学」で学習した基礎知識をもとに、周産期に関わる病院・施設での実習を行う。そこで妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の健康上の問題を把握し、それらに対する援助の必要性を明らかにすることを学ぶ。また、妊産褥婦とその家族を中心とした看護をすることで、母性看護学における基本的看護援助能力を培う。	
		地域精神保健福祉と看護	(概要) 精神医療福祉にかかわる社会的状況を幅広く学習する。そして地域社会における精神的健康の保持・増進及び精神障害のリハビリテーションに関する知識とケアの方向性や方法を学ぶ。精神障害の障害特性を理解し、地域生活を援助するための基礎知識を得る。 (オムニバス方式／全8回) (12 吉川隆博／4回) 精神医療をめぐる制度、歴史の講義および精神障害者の退院促進、地域移行援助について教授する。 (12 吉川隆博、27 北村周美／4回) (共同) 紙上事例を提示し、精神障害者の退院促進、地域移行援助についてグループワークを行い、精神障害者の看護について考える演習をおこなう。	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	健康維持増進支援	健康教育学	健康教育・保健指導の理論・技術を学ぶ。講義により、基本的概念、健康教育に関わる理論、対象のアセスメント、教育方法について知識を学ぶ。学習した健康教育理論を応用させて、個人および集団の特性に合わせた健康教育を企画し、指導案に基づく個別・集団への健康教育（ロールプレイ）を行う。講義・演習を通して、人々の行動変容に結びつく効果的な健康教育の技術について学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （17 吉野純子／8回） 健康教育の歴史と定義、健康教育理論と行動変容について学ぶ。また、学習した健康教育理論を応用・実践方法について学ぶ。 （17 吉野純子、7 錦戸典子、23 三橋祐子、28 島本さと子／7回）（共同） 個人および集団の特性に合わせた健康教育を企画し、指導案に基づく個別・集団への健康教育（ロールプレイ）を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		養護概説	本授業では、社会の変化と養護教諭の職務や役割の歴史の変遷を概観し、「養護」の本質や概念を考究する。講義、演習、模擬保健指導、現職養護教諭による講話や母校訪問等の多様な経験を通じ、職の基盤となる「養護観」を養うことを目指す。	
	健康維持増進支援	学校保健	（概要）学校における保健管理、健康評価、保健教育、組織、保健室の運営、心身の健康問題を取りあげ、学校保健の重要性について理解する。児童・生徒の身体・健康維持・増進における学校保健の役割について理解し、保健指導や健康障害への対応の具体的方法を知る。また、学校環境衛生の重要性と養護教諭としての具体的対応についても理解する。 （オムニバス方式／全15回） （9 横山寛子／5回） 学校保健の目的と内容の概要、学校保健法に基づく学校保健の歴史と制度、学校保健関係職員と学校保健組織活動、学校における性教育について教授する。 （52 内田匡輔／5回） 学校保健計画、学校環境衛生、児童・生徒の健康把握と評価について教授する。 （22 籠谷恵／5回） 児童・生徒にみられる疾患、心身の健康問題への支援、学校伝染病とその予防、学習指導要領に基づく保健教育、児童・生徒の食をめぐる今日的課題について教授する。	オムニバス方式
		家族看護学	家族という集団を対象とした看護のあり方を学習する。現代の家族を取り巻く社会的背景から家族の概念を理解し、家族理論、家族機能を基盤に家族看護の定義、家族看護過程へと展開していく。問題をかかえやすい小児期の家族、高齢者介護家族や終末期ケアでの家族事例から、家族看護を考える。最終的に患者と家族の生活支援方法やその在り方、今日的な家族の課題を踏まえ、社会における家族看護の役割、課題を考える。	
		公衆衛生看護技術論	（概要）保健師活動の基本となる地域診断について情報収集からアセスメント、計画策定と評価の一連について実習予定地域を対象に行う。さらに保健指導、健康相談、家庭訪問における看護技術を講義およびロールプレイにより習得し、「行政保健師実習」へつなげる。 （オムニバス方式／全15回） （23 三橋祐子、28 島本さと子 17 吉野純子／2回）（共同） 公衆衛生看護活動、特に地域診断、家庭訪問について、3年次に学んだ「行政保健師活動論」の復習を兼ねて学ぶ。 （23 三橋祐子、17 吉野純子、7 錦戸典子、28 島本さと子／4回）（共同） 各実習地域を対象とした地域診断の演習、および家庭訪問の事例演習とロールプレイを行う。 （23 三橋祐子、17 吉野純子、7 錦戸典子、28 島本さと子、95 榎悦子、92 上原京子／7回）（共同） 各実習地域を対象とした地域診断の演習（アセスメント・健康問題の予測・地区踏査の企画立案）を行う。 （23 三橋祐子、28 島本さと子／2回）（共同） 基礎知識の確認とまとめを行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	健康維持増進支援	公衆衛生看護学概論	(概要) 公衆衛生看護活動の理念、目的、基本概念、歴史、対象特性、活動特性および地域を視ることの意義について学習し理解を深める。地域における看護師・保健師の活動の場としての行政、学校、産業、各集団の特性や健康課題、保健活動の特徴や内容、活動方法について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (17 吉野純子／8回) 公衆衛生看護学の理念や目的、場、特徴について学び、社会環境の変化と健康課題との関係や対象となる住民の生活を視ることの意義について理解する。ライフサイクルに沿った保健活動の特徴と実際の活動内容について、実践者の体験談を交えながら学ぶ。 (22 籠谷恵／4回) 学校保健の概要、制度とシステム、養護教諭の役割や活動内容について、児童の身体面・心理面の健康課題を踏まえながら理解を深める。 (7 錦戸典子／1回) 労働安全衛生関係法規・制度、産業保健組織のあり方を踏まえたうえで、産業保健活動の実践について具体的に学ぶ。 (23 三橋祐子／1回) 産業保健活動の現状と課題について、地域・職域連携の視点から具体的な例を交えて理解を深める。 (28 島本さと子／1回) 産業保健の理念と意義、産業保健活動の主な活動内容とその背景について学ぶ。	オムニバス方式
		行政保健師活動論	(概要) 地域保健施策・活動の歴史、それに関連する法律や制度について学ぶ。また、対象別保健活動や保健師の役割について、様々な事例や社会問題を捉えた記事等を教材としながら具体的に学ぶ。さらに、個人、家族、集団、コミュニティを対象とした健康の保持・増進対策の展開や、保健師の地域支援システムの構築、連携・調整機能について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (23 三橋祐子／10回) 母子保健、高齢者保健、難病・障がい者保健、災害保健に関する地域保健施策・活動の歴史、それに関連する法律や制度について学び、保健活動や保健師の役割について、様々な事例や社会問題を捉えた記事等を教材としながら概説する。さらに、地区組織活動、地域支援ネットワークの構築、連携・調整機能について学ぶ。 (17 吉野純子／2回) 成人保健に関する地域保健施策・活動の歴史、それに関連する法律や制度、保健活動の内容や保健師の役割について概説する。さらに、地域診断の目的・概要・理論やそれに基づく地域保健計画の策定等について概説する。 (28 島本さと子／3回) 精神保健、感染症保健に関する地域保健施策・活動の歴史、それに関連する法律や制度、保健活動の内容や保健師の役割について概説する。	オムニバス方式
		産業保健看護学	(概要) 産業保健・看護活動の定義と意義、歴史的発展経緯、法体系・制度・関連機関、個人・集団・組織への支援方法（保健指導、健康教育・トータルヘルスプロモーション、職場巡視と環境改善、など）、有害作業対策、メンタルヘルス対策、過重労働対策、危機管理対策、女性の健康管理とワークライフバランスなどについての概要と保健師の役割を学ぶ。また、安全配慮義務、個人情報保護、多職種・多機関連携、および個人や職場集団・組織を対象としたアセスメント～評価のPDCAサイクルなど、活動上の留意点について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (7 錦戸典子／8回) 産業保健・看護活動の目的や発展経緯などを踏まえて、個人・集団・組織への支援方法や、メンタルヘルス対策・過重労働対策などについて、各課題別保健活動や保健師の役割について概説する。 (28 島本さと子／3回) 産業保健の法体系・制度・関連機関、女性の健康管理とワークライフバランスについて概説する。 (7 錦戸典子、23 三橋祐子、28 島本さと子／2回)（共同） 個別事例に対する保健指導案を各自作成し、個人に対する支援（健診後の保健指導・健康相談）のあり方を学ぶ。 (7 錦戸典子、23 三橋祐子、28 島本さと子、17 吉野純子、95 榎悦子／2回)（共同） 実習施設である企業のホームページから企業の概要を始め、健康管理に関連する情報を収集・アセスメントし、健康問題を推測する。また、産業看護職の役割・必要な能力について考える。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	健康維持増進支援	産業保健看護学実習	成人期にある労働者の健康課題と職場環境のアセスメント、健康支援目標の設定と各種健康支援活動の企画・実施・評価、産業看護職の役割、他職種との連携、などについて学ぶ。従業員個人・集団・組織への働きかけ、ならびに健康増進、疾病予防および就業治療・復職支援など1次～3次予防にわたる様々な健康支援の展開方法を理解する。	
		行政保健師実習	地域に暮らすあらゆる年代、様々な健康レベルの人々に対する行政保健師活動について理解を深める。また、保健所・保健センターの機能や保健師活動・事業の基盤としての根拠法令について学ぶ。さらに、地域診断により健康課題を抽出し、今後、必要な支援の方向性を検討する。個人・家族から地域全体への支援を関連させ、支援のしくみづくり、機関・職種間の連携について実例を通して学ぶ。	
	看護の統合	保健医療パートナーシップ総論	(概要) 専門性の高い看護実践者を目指すにあたり、看護職をはじめとする医療職や保健・福祉職の各職業への理解を深めることを目的とする。看護職を取り巻く多職種の存在と役割を理解することにより、看護職との連携の在り方や看護職者の果たすべき役割について考える機会とする。同時に保健医療福祉を受けている体験者の話を聞くことにより、現代医療社会の諸課題に関心を持ち、多面的・多角的に考察し続ける力を養う。 (オムニバス方式／全8回) (5 沓澤智子、43 松本英夫／4回) (共同) 医学部の歴史及び看護学科の理念と歴史、看護学科で学ぶべき事柄について概説する。 (30 飯田政弘／1回) 医学部付属病院長から特定機能病院の果たすべき役割等について概説する。 (46 山崎清之／1回) 医用生体工学科の視点から、ヒューマニズムと科学技術の融合について概説する。 (41 堀越由紀子／1回) 福祉職の仕事について概説する。 (31 和泉俊一郎／1回) 医学の歴史を概説する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		看護管理論	医療機関の設立目的や運営方法を基礎に、看護部門の組織化と権限、責任を明らかにするとともに、あらゆる看護実践における、よりよい看護サービスの発展を目指した組織的サービス提供の仕組み、および組織運営に必要な知識を得る。また、臨地場面における様々な事案を通して、医療安全、職業上の看護観・倫理観について理解するとともに、自らの考えを深める。	
		国際看護論	(概要) 国際看護の目的、方法を学び、世界の人々のよりよい健康維持のために看護職者として何ができるか、それを実施するにはどのような能力が求められるかを考える。国籍、人種、信条、皮膚の色、年齢、性、政治あるいは社会的地位に制約されないという看護の哲学や看護の国際性について認識を深める。 (オムニバス方式／全15回) (106 添田英津子、25 森屋宏美／4回) (共同) 国際看護の概念について初回講義を行う。国際的に活躍してきた講師を迎えた実践に関する講義の後、概念と実践を統合するためのグループワークを実施する。 (17 吉野純子／2回) 国際看護の概念が具体的にどのように実践されるのか、東南アジア系の国々での経験を踏まえた講義を行う。 (110 西尾浩美／2回) 国際看護の概念が具体的にどのように実践されるのか、欧米系の国々での経験を踏まえた講義を行う。 (58 木ノ上高章／7回) 青年海外協力隊、赤十字をとおした国際保健活動、移植看護、国による保健医療制度や看護師教育制度の違いなどを講義する。国際看護の目的、方法を学び、世界の人々のよりよい健康維持のために看護職者として何ができるか、それを実施するにはどのような能力が求められるかを考える。国籍、人種、信条、皮膚の色、年齢、性、政治あるいは社会的地位に制約されないという看護の哲学や看護の国際性について認識を深める。	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専 攻科 目	看護 の統 合	看護情報学	看護記録に記載する看護用語の標準化・体系化、医療情報のIT化・電子カルテシステム、個人情報の保護と倫理、エビデンスに基づく看護実践の支援について理解する。また、臨床・管理・教育・研究・政策と様々な看護実践の場において、効果的に情報を活用するための基礎を身につける学習をする。	
		医療経済学	医療経済学の意義を理解するために、経済学における医療経済学の位置づけ、医療経済学の歴史と近年の動向について教授する。各論として、医療経済学における基本的なトピックについて経済学的な考え方や実証研究で得られた知見を解説する。また、看護行為の診療報酬（対価）の現状と看護に対する診療報酬化に関する課題を具体例により検証する中で、日本の社会保障制度を展望し、医療経済と看護との関係について深く考える。	
		看護教育学	看護における教育の意義を理解し、基礎教育におけるカリキュラムの特徴や現任教育の動向を理解するとともにわが国と諸外国の看護教育制度の特徴や課題についても概観する。さらに学習者としての自己を振り返りながらキャリアデザインの機会とする。	
		国際コミュニケーションA（国内）	看護学科の教育目標の一つである国際的な視野を持つ看護職者の育成を具現するものである。看護活動の中でよく使われる医学用語ならびに看護用語を習得し、英語による看護コミュニケーション能力を養う。	
		国際コミュニケーションB（ハワイ）	国際的な視野を持つ看護職者の育成するための初期段階の科目である。英語による看護コミュニケーション能力を養うためハワイ東海インターナショナルカレッジにおいて集中開講の授業を受講したり、ハワイの歴史や文化体験をしたり、ハワイ大学の学生との交流などを通じて国際視野をもった看護観を養う。	
		国際看護基礎演習A	「国際看護演習A（デンマーク）」を履修する学生が、デンマークでの研修を行うのに先立ち、デンマークについての国勢や歴史的背景、保健医療福祉制度、施策について既存の資料や文献を用いて明らかにすることを目的とする。調べた知識を研修参加者間で発表し、討議することで、学生自らの研修目的を明確化することができる。	
		国際看護演習A（デンマーク）	健康や看護に対する国際的な考え方を体験し、看護に対する関心と興味を高める主体的な短期海外研修を目的とする。デンマークにおける医療保健福祉政策について、医学科の学生等と共に専門職連携のありかたを先進例の施設や教育現場を見学し、討議することで日本の看護を考えることができる。	
		国際看護基礎演習B	「国際看護演習B（メイヨ）」を履修する学生が、研修を行うのに先立ち、米国の保健医療システムや看護システム、メイヨメディカルセンターのシステムについて既存の資料や文献を用いて明らかにすることを目的とする。調べた知識を研修参加者間で発表し、討議することで、学生自らの研修目的を明確化することができる。	
		国際看護演習B（メイヨ）	健康や看護に対する国際的な考え方を体験し、看護に対する関心と興味を高める主体的な短期海外研修を目的とする。米国の看護の専門性についてメイヨメディカルセンターで、教育体制についてルーサーカレッジにおいて学生間の交流を通じて体験する。看護の専門職業人としての自己成長にむけて、新たな課題を得る機会とする。	
		保健医療パートナーシップ演習	チーム医療を視野におき、それぞれの職種がどのような機能と役割を担っているかについて、理解を深めることを目的とする。医学科、医用生体工学科等の学生達と課題に取り組むことを通して、それぞれの専門職の特徴やあり方を知り、将来協働して働く者として、より良い保健医療福祉社会の実現のために貢献する力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	看護の統合	救急・災害看護論	救急医療と災害医療は同列で論じられるものではない。しかし、緊急の対応を要する切迫した状況であることは共通であり、そこでの適切な看護師の判断と行動が明暗を分けることもある。本講義では、救急医療と災害医療の違いを学び、それぞれの場合に必要な看護、そして災いを予防・軽減する看護の知識と技術を身につけることを目標とした学習をする。	
		退院支援・在宅ケアマネジメント論	(概要) 在宅ケア移行期のケアマネジメント、退院支援に関する基本概念を、事例演習と文献学習を組み合わせながら学ぶ。利用者が主体的に在宅生活を再構築するためのサポートとしてのチームアプローチの具体的な方法とその中での看護職の果たすべき役割を理解することを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (11 岡部明子／2回) 退院支援の基本概念・制度と現状、諸外国のケアマネジメントと看護の役割について教授する。 (18 石原孝子／3回) チームアプローチ・ケアチーム構築、ケアマネジメントの基本概念、制度と現状について教授する。 (11 岡部明子、18 石原孝子／9回) (共同) 事例を用いて退院支援・ケアマネジメント過程を展開し、発表、共有し、支援ネットワーク構築における看護職の役割の理解を深める。 (98 乙坂佳代／1回) 病院から在宅療養への移行期における看護職としての支援の実際と課題について教授する。	オムニバス方式・共同 (一部)
		公衆衛生看護管理論	(概要) 公衆衛生看護管理の基本と留意点、住民や労働者など地域ニーズに沿った保健事業計画の立案・実施・評価、および施策化や社会資源開発・調整の意義と方法について、地域・職域連携の視点を含めて、総合的に学ぶ。さらに、行政保健師実習から得た学びを総括し、住民ニーズに沿った新たな保健事業計画についての計画立案・発表・討議を行う。 (オムニバス方式／全8回) (7 錦戸典子／2回) 公衆衛生看護管理手法に基づく、住民や労働者など地域ニーズに沿った保健事業計画の立案・実施・評価、および施策化や社会資源開発・調整の意義と方法について具体的に学ぶ。 (17 吉野純子／1回) 行政保健師活動に関して、公衆衛生看護管理の観点から、具体的に学ぶ。 (23 三橋祐子／2回) 公衆衛生看護管理の基本と留意点、および地域・職域連携活動について、具体的に学ぶ。 (28 島本さと子／1回) 産業保健師活動に関して、公衆衛生看護管理の観点から、具体的に学ぶ。 (7 錦戸典子、17 吉野純子、23 三橋祐子、28 島本さと子／2回) (共同) 「行政保健師実習」での地区診断・アセスメント結果を踏まえて、地域の健康課題にそった学生独自の事業計画の立案・発表・討議を行う。	オムニバス方式・共同 (一部)
		統合実習	看護教育終了時に持つべき看護技術について個別に評価し、卒業時の看護技術到達度を確認するとともに、他職種との連携および看護のリーダーシップ能力について学習する。本実習は、本学における看護の実践的な学習の集大成となる実習である。	
		看護研究概論	(概要) 論理的・科学的思考に基づく看護の研究方法について学習する。量的研究、質的研究、実験研究、事例研究、文献研究等、それぞれの特徴を理解し、自分の研究テーマを導き出すための文献クリティークを演習する。本科目は専門看護ゼミナール履修のための準備科目として位置づけ、研究計画書作成へとつなげる。 (オムニバス方式／全8回) (3 井上玲子／4回) 看護研究の特徴と種類、研究のプロセス、文献クリティークの必要性、質的研究について、研究テーマの選定方法について、概説する。 (12 吉川隆博／1回) 事例研究と文献研究について概説する。 (2 石野知子／2回) 研究倫理の重要性について、実験研究について、概説する。 (8 松木秀明／1回) 量的研究について概説する。	オムニバス方式
		専門看護ゼミナール	これまでの学習 (含実習) において疑問に思ったことや関心を持った看護現象について、科学的・論理的な理解を深めることを目的として最終学年を対象に開講する科目である。自分で文献を調べ、臨地で看護の対象者や看護職を含む保健医療職者に確認や助言を受け、教員の指導を個別に受けながらレポートにまとめる。	

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	アジア文明学科		60	—	240	
	ヨーロッパ文明学科		70	—	280	
	アメリカ文明学科		60	—	240	
	北欧学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	55	—	220	
		東洋史専攻	40	—	160	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	文芸創作学科		55	—	220	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
広報メディア学科		110	—	440		
心理・社会学科		100	—	400		
政治経済学部	政治学科		150	—	600	
	経済学科		150	—	600	
	経営学科		150	—	600	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640	
		社会環境課程				
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360	
		美術学課程				
		デザイン学課程				
国際学科		80	—	320		
体育学部	体育学科		100	—	400	
	競技スポーツ学科		130	—	520	
	武道学科		55	—	220	
	生涯スポーツ学科		100	—	400	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	—	220	
理学部						
	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		150	—	600	
	動力機械工学科		200	—	800	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	—	400	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
	医学部	医学科		118	—	708
健康科学部	看護学科		75	3年次：20	340	
	社会福祉学科		85	3年次：10	360	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	
農学部	応用植物科学科		80	—	320	
	応用動物科学科		80	—	320	
	バイオサイエンス学科		70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	
	国際コミュニケーション学科		80	—	320	
	デザイン文化学科		70	—	280	
生物学部	生物学科		70	—	280	
	海洋生物科学科		70	—	280	
計			6,758	30	27,328	

平成30年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
	歴史学科	日本史専攻	<u>50</u>	—	<u>200</u>		定員変更(Δ5)
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
英語文化コミュニケーション学科		90	—	360			
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
文化社会学部	<u>アジア学科</u>		<u>70</u>	—	<u>280</u>		学部の設置(届出)
	<u>ヨーロッパ・アメリカ学科</u>		<u>70</u>	—	<u>280</u>		
	<u>北欧学科</u>		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	<u>文芸創作学科</u>		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	<u>広報メディア学科</u>		<u>100</u>	—	<u>400</u>		
	<u>心理・社会学科</u>		<u>90</u>	—	<u>360</u>		
政治経済学部	政治学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経済学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経営学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640		
		社会環境課程					
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360		
		美術学課程					
		デザイン学課程					
国際学科		80	—	320			
体育学部	体育学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	競技スポーツ学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(10)
	武道学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
	生涯スポーツ学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
健康学部	<u>健康マネジメント学科</u>		<u>200</u>	—	<u>800</u>		学部の設置(届出)
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	コンピュータ応用工学科		100	—	400		
工学部	生命化学科		100	—	400		
	応用化学科		80	—	320		
	光・画像工学科		60	—	240		
	原子力工学科		40	—	160		
	電気電子工学科		140	—	560		
	材料科学科		80	—	320		
	建築学科		200	—	800		
	土木工学科		120	—	480		
	精密工学科		80	—	320		
	機械工学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(Δ10)
	動力機械工学科		<u>150</u>	—	<u>600</u>		定員変更(Δ50)
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	<u>90</u>	—	<u>360</u>		定員変更(Δ10)
		航空操縦学専攻	50	—	200		
	医用生体工学科		60	—	240		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320		
	経営システム工学科		80	—	320		
	通信ネットワーク工学科		80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320		
	環境社会学科		80	—	320		
	海洋地球科学科		80	—	320		
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80		
		海洋機械工学専攻	60	—	240		
	医学部	医学科		118	—	708	118名は平成31年度入学生まで
<u>看護学科</u>		<u>85</u>	—	<u>340</u>		学科の設置(届出)	
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		150	—	600		
	観光ビジネス学科		80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320		
	医療福祉工学科		60	—	240		
農学部	応用植物科学科		80	—	320		
	応用動物科学科		80	—	320		
	バイオサイエンス学科		70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440		
	国際コミュニケーション学科		80	—	320		
	デザイン文化学科		70	—	280		
生物学部	生物学科		70	—	280		
	海洋生物科学科		70	—	280		
計			<u>6,773</u>	<u>0</u>	27,328		

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30	
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
計			557	—	1,272	

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
食物栄養学科	100	—	200	
児童教育学科	100	—	200	
計	200	—	400	

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
看護学科(3年制)	80	—	240	
計	80	—	240	

平成30年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30		
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
計			557	—	1,272		

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
食物栄養学科	100	—	200		
児童教育学科	100	—	200		
計	200	—	400		

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
看護学科(3年制)	80	—	240		
計	80	—	240		

東海大学 湘南校舎
(位置関係図)



東海大学 湘南校舎
(最寄の駅 経路図)



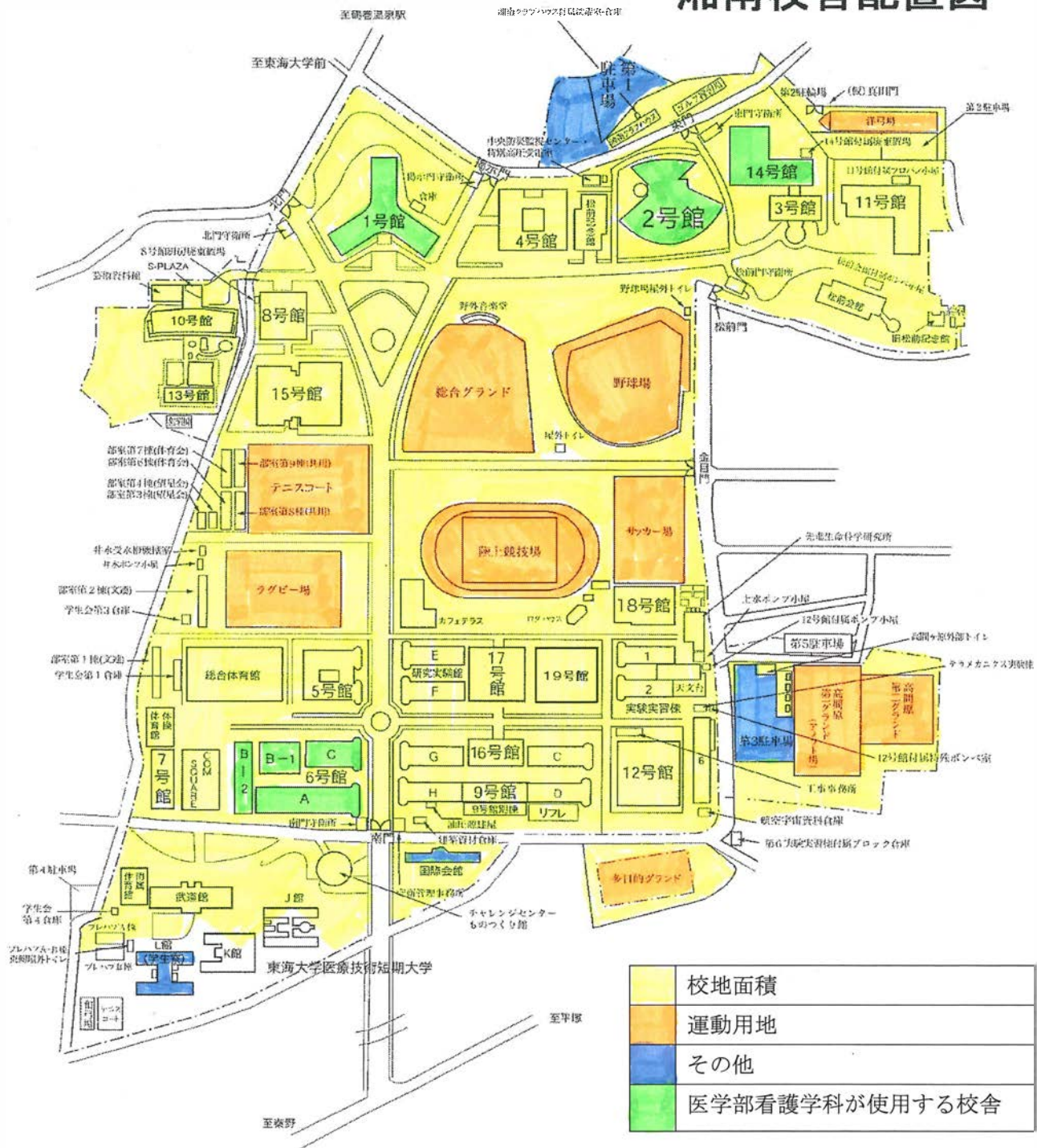
東海大学 伊勢原校舎
(位置関係図)



東海大学 伊勢原校舎
(最寄の駅 経路図)



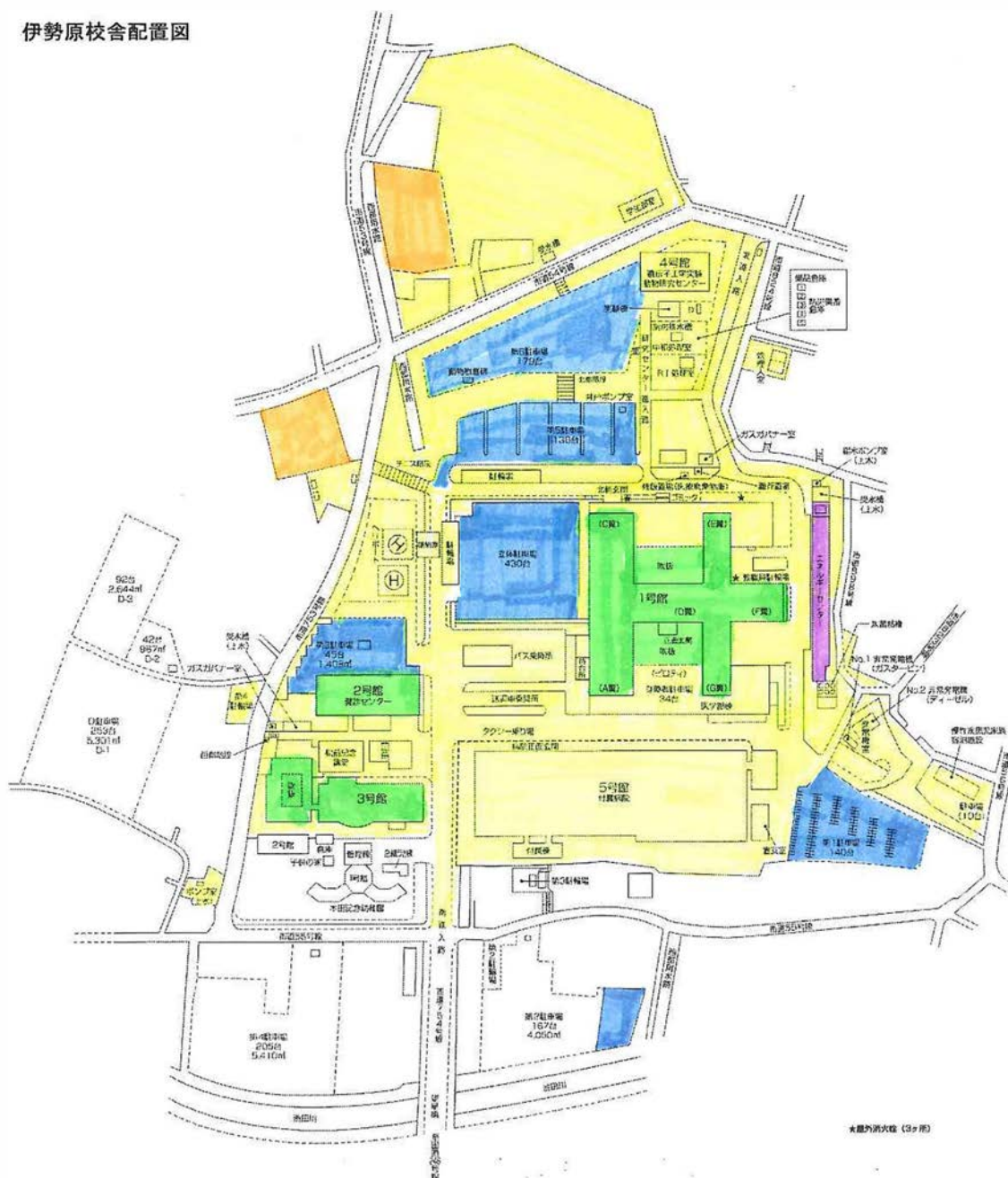
湘南校舎配置図



湘南校舎 校地・校舎面積

校地等	区分	専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
	校 舎 敷 地	364,255.50 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	364,255.50 m ²
	運 動 場 用 地	188,505.70 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	188,505.70 m ²
	小 計	532,761.20 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	532,761.20 m ²
	そ の 他	14,699.03 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	14,699.03 m ²
校 舎	合 計	547,460.23 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	547,460.23 m ²
	専 用	302,482.41 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	302,482.41 m ²
		(302462.41 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(302462.41 m ²)

伊勢原校舎配置図



伊勢原校舎 校地・校舎面積

区分	専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
校 舎				
校舎敷地	118260.91 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	118260.91 m ²
運動場用地	4725.90 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	4725.90 m ²
小 計	122986.81 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	122986.81 m ²
そ の 他	12691.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	12691.00 m ²
合 計	135677.81 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	135677.81 m ²
校 舎				
専 用	90797.24 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	90797.24 m ²
(90,797.24 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(90,797.24 m ²)

校舎等敷地 (校地面積)
運動用地 (校地面積)
その他 (校地外面積)
伊勢原校舎から除外される敷地
医学部看護学科が使用する校舎

設置の趣旨等を記載した書類
医学部看護学科

【本文目次】

- ① 設置の趣旨及び必要性…p.2
- ② 学部・学科等の特色…p.3
- ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称…p.4
- ④ 教育課程の編成の考え方及び特色…p.4
- ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色…p.8
- ⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件…p.9
- ⑦ 施設・設備等の整備計画…p.11
- ⑧ 入学者選抜の概要…p.13
- ⑨ 取得可能な資格…p.13
- ⑩ 実習の具体的計画…p.14
- ⑪ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画…p.19
- ⑫ 管理運営…p.20
- ⑬ 自己点検・評価…p.20
- ⑭ 情報の公表…p.21
- ⑮ 教育内容等の改善のための組織的な研修等…p.25
- ⑯ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p.26

① 設置の趣旨及び必要性

平成 7 (1995) 年に健康科学部看護学科として開設し、23 年が経過した。この間、少子高齢化がますます加速し、健康問題を取り巻く状況も急激な変化を遂げている。このような社会情勢の中、より高い実践能力を有する看護職の育成が喫緊の課題であり、専門看護師・認定看護師さらに特定行為に係る看護師の育成が急がれている。このような情勢の中、質の高い看護師養成を続けていく必要があり、その基礎能力を培うために充実した看護基礎教育が必要である。本学科は既に 1,893 人の卒業生（平成 29 (2018) 4 月現在）を輩出しており、県内県外のみならず海外で活躍している卒業生がいる。

一方本学が位置している神奈川県は、東京に次いで全国第 2 位の人口を有するが、人口を安定的に維持する合計特殊出生率の水準が 1.31（平成 22 (2010) 年現在）で大幅に低い。逆に同じ年の高齢化は 20.2%であり、平成 37 (2025) 年には 26%になると推計されており、全国の高齢化を上回るスピードで超高齢社会に移行すると予測されている。その中で、平成 24 (2012) 年に医療提供体制の確保に関する基本方針が策定され、従来言われていた、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の 4 疾病に加え、精神疾患と居宅等における医療（在宅医療）に関する医療連携体制に対する計画が出された。この背景には、精神疾患患者の増加と、人口 10 万人あたりの医療施設数及び病床数は全国の数値より低い現状がある。このような状況の中で、看護師の離職率が東京に次いで全国 2 位を推移しており、人口 10 万人当たりの就業看護職員数は全国で最も少ない(平成 22 (2010) 年現在)。県内の看護師教育において養成数確保と質の担保のために看護教員育成強化、民間の養成施設開設と定員増の促進、修学資金援助、准看護師教育廃止、就業環境改善、再就業の促進等の施策が出されている。

本学科に近接する医学部付属病院は特定機能病院であり、神奈川県西部の周産期救急医療の基幹病院、災害拠点病院として大変重要な役割を担っている。このような環境の中で看護基礎教育の時から、恵まれた学習環境が整備されている医学部に看護学科を移設することにより、医学部の豊富な人的・物理的資源を活用して「基礎的な医学知識を充実させる」こと、「基礎的な医学知識と看護の専門科目との連携を密にすること」が可能となり、根拠のある臨床判断のできる看護師の養成を目指す必要がある。従来の教育課程では、既習科目の知識が分断されがちで、臨地実習に赴き看護援助を行う際に患者のアセスメント、援助計画・評価の一連の学修過程の中において基礎的な医学知識が十分活用しきれていない現状があった。そこで、今回の教育課程において、解剖学・生理学を基盤に病態学と各看護学との連携が図りやすい科目設定とし、系統的に学習できるよう改善を図った。また、医学部医学科との連携科目の設置や、医学部付属病院に設置されている「患者支援センターとの連携強化」を目的にした科目を充実させることにより、より一層、多職種との連携強化を図る。

以上のような趣旨のもと、時代の要請に合わせて「人々の健康問題の情報を捉え、いち早く応えることができる能力」を身につけた人材の育成を目指し、医学部医学科との連携を深め、より質の高い看護師養成を目的としている。

② 学部・学科等の特色

本学科の前身である健康科学部看護学科は、開設（平成 7（1995）年）以来、本学の理念のもと、ヒューマニズムと科学の融和、自然と人間の調和をめざし、人道主義の理念のもとに複雑で多様化していく人々の健康ニーズに対応していくために、より高度な医療・保健・福祉の知識、技術を有する看護職の育成を目指してきた。大きな方針は変更せず「様々な健康レベルの人が、あらゆる場で、その人らしい生活を営むための看護ケアが実践でき、時代の変化に応じた新しい看護を創造できる医療・保健の専門職の育成」を目指す。そのために豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力の向上を図り、看護職者を通じて、社会貢献機能を担う人材育成と、高度専門職業人の礎となる人材育成に繋がる教育を行う。

豊かな人間性を育むために、本学では多分野の教養教育が履修でき、他学部他学科の学生との交流の機会も多くある。学生らしい生活を営む中で常に 4 つの力を（「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」）を意識する機会が多く、それらの能力が培われる教育環境にある。また、専門科目においても全ての科目において、他者を理解すること、自己を理解することについて考える機会を多く設け実施する。入学時の導入教育を始めとし、意見交換をする時間を設け、友人との共同作業を通して自己理解、他者理解を実感していく方法を取っている。また、一方的に受け身の授業形態ばかりではなく、参加型の演習を行うことによって自らの適格性に気づき克服していく過程を踏む経験をしながら、自己理解をより一層深める機会を設けている。さらに臨地実習での学習により、少人数グループを教員が指導する体制のため、学生は受け持ち患者についての看護についてじっくりと話しあい理解を深めるとともにグループメンバーとのカンファレンスにおいて議論することを通して、自分の思考の幅を広げる機会を設けている。このプロセスの中で学生自らの成長を実感しながら、ともに学ぶ友人の存在の重要性に気づき、更なる自己の目標や課題を見出す機会となっている。看護学科は看護の専門職者を目指す学生に対し、科学的根拠に基づく看護、学際的視野をもって看護を考え実践できる基礎づくりが可能となる教育内容をもって教育を行っている。つまり、看護の対象論、目的論、方法論の学習と共に、関連する解剖学・生理学、病態学、心理学、情報科学、栄養学、他の学びを統合し、論理的思考により科学的・学問的に証明され、評価された看護を探究する姿勢を育成することである。従来、医学科の学生と学ぶ機会があったが、今回医学部看護学科になるにあたり、医学科の学生と議論しながら学ぶ機会を科目として立てることにより、多職種連携の一端を意識して看護職の役割と機能について考える機会を設ける。

看護師・保健師・養護教諭の看護の専門職者の養成を一つの学科で行い、共通する教育内容とそれぞれの専門分野の教育内容を統合して学ぶカリキュラム編成により、専門職者としての広い視野をもち、実践力のある専門職者を養成する。保健師養成数は 30 名、養護教諭は「希望者全員のうち必要な教職科目の履修がされている者」を養成する。一方、看護学科は学術研究分野において、同系列の医学部付属病院 4 つと医療技術短期大学との共同により「東海大学看護研究会」を運営しており、共同研究、学術集会開催、多くの研修会を実施し、近隣の病院関係者の出席も得ている。専門職者向けの研修に学生は患者役やお手伝いとして参加し、看護職としての将来像を身近

に感じ、緊張感とともに強い動機付けとなっている。また、開設以来、秋学期の約 3 か月間、実習指導者講習会（40 名定員）を学科内で開催しており、専門職者の専門性の一環に寄与してきている。

さらに、学科の教員が携わっている伊勢原市との連携事業はもとより、本学が設置されている平塚市、秦野市との地域連携プロジェクト研究を通し、より一層の住民との連携強化を推進するなかで、学生の参加を促しており、学生への教育還元を図っている。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

学部・学科及び学位の名称は、前述した教育研究上の理念及び目的、特色を踏まえ、以下のとおりとする。

【日本語名称】

学部名称：医学部

学科名称：看護学科

学位名称：学士（看護学）

【英訳名称】

医学部 : Undergraduate School of Medicine

看護学科 : Faculty of Nursing

学士（看護学） : Bachelor of Nursing

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。本学では、日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「教育による政治革命—教育の力によって、長い時間をかけて平和と理解の中に革命を進行させ、それを通じて新しい理想に向かって歩む」（本学創設者松前重義の言葉）を実現するための取り組みとして、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行う。

主専攻科目（専門科目）の教育課程は、様々な健康レベルの人が、病院から施設・在宅に至るあらゆる場で、その人らしい生活を営むための看護ケアが実践でき、時代の変化に応じた新しい看護を創造できる医療・保健の専門職を育成する。温かな人間性と謙虚さ、幅広い教養を持ち、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる

人材育成を目指すことを教育目標とし、達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づいている。

1) カリキュラム・ポリシー

- コミュニケーション能力の重視
- 看護専門職の自覚を高める
- 実践の場に即した看護実践力の育成
- 自己学習力の育成
- 東海大学の強みを活かした国際的視野の育成

なお、看護学科の教育課程と看護師・保健師の国家試験受験資格に関わる指定規則との対比表は、(資料1)のとおりである。

2) 科目区分の設定及びその理由

(1) 現代文明論

「現代文明論」は、社会や文化の変容や流動化にともないこれまでの制度や思考様式では解決法の探求が難しくなっている現代的な課題、科学やテクノロジーが発展し浸透する時代にこそ問い直される倫理の問題などについて、講義をとおして、学生一人ひとりが、現代社会の問題を歴史的な文脈、世界的な文脈に位置づけて、これからの自分の生きかた、社会への貢献のしかたを考えていく、本学の基幹となる科目である。

この現代文明論は、現代教養科目と学科の専門科目の基礎を学んだ2年次に開講される必修科目であり、各学問の基本的な知識と考え方の統合、文理融合的な視野の育成、自ら考える力の礎を気づくことを目的としており、教養科目と専門科目の融合を図る意味でもカリキュラム上の基幹となる科目である。

(2) 現代教養科目

現代教養科目は、現代に必要とされる“教養”を基礎教養、発展教養、健康スポーツの3分野に分け、学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野など、大学生活だけでなく、大学卒業後に必要な力の礎を養う科目区分である。

具体的には、基礎教養科目（「人文科学」「社会科学」「自然科学」と発展教養科目（「シティズンシップ」「ボランティア」「地域理解」「国際理解」）健康スポーツ科目（「健康・フィットネス理論実習」と「生涯スポーツ理論実習」）により構成される必修科目であり、基礎教養科目では、知の力の修得を念頭に置き、発展教養科目では、実践力の修得を念頭に置いて、いずれも市民としての教養につながる導入的な授業を展開していく。この基礎教養科目を基に、さらに現代文明論、学部学科の主専攻科目や他の教養科目などを学び、本学で実施しているチャレンジプロジェクト活動などとも連携することにより、東海大学の教育目標の達成に向かっていく基盤となる科目である。

健康スポーツ科目は、単に運動を身に付けることを目的とするのではなく、

健康・体力の保持増進を図るための能力を養い、好ましい人間関係や社会的な行動を認識させるスポーツ活動を“生活化”し、「学生に将来の人生を豊かにできるようなライフスタイルを身につける」ことから「広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成する」ことにつなげていく。

（３）英語科目

英語科目は、発展する国際化への対応という意味だけでなく、その文化や風習の違いを理解し、専門教育の教育効果をより高めることを目指した科目区分である。

具体的には、英語コミュニケーション科目（「英語リスニング&スピーキング」「英語リーディング&ライティング」）とグローバル人材育成科目（「グローバルスキル」「アカデミック英語」）により構成される必修科目であり、英語コミュニケーション科目は４種類の技能を受信と発信の能力（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）として組み合わせ、受信した情報を発信へと繋げる英語力を養っていく。グローバル人材育成科目は、学部教育と連動し、主専攻科目（専門科目）で必要な能力や知識を加え、専門教育との連動をより意識した英語教育を実践する。

（４）主専攻科目（専門科目）

専門科目である主専攻科目は、教養科目で得た知識や自ら考える力などを発展しつつ、高度な専門知識を効果的に身に付けていく。この主専攻科目（専門科目）においては、各種資格を取得するための科目を、必修科目 97 単位、選択科目 6 単位として配置している。科目の構成としては、学科目を 7 つの区分（「人間」「健康」「社会/環境」「日常生活支援」「療養生活支援」「健康維持増進支援」「看護の統合」）に分類し、確実な知識と技能を持った看護師を養成していくことを目的に、必修科目の開講時期を軸として順序性を保ちながら学修を進めていく。それぞれの区分の授業科目は以下のとおりである。

ア．人間

表現技法の基礎、人体の構造と機能 1（細胞生物学）、人体の構造と機能 2（解剖生理学）を必修科目として設定し、ENGLISH OF NURSING STUDY ABROAD、人間工学、保健医療行動学を選択科目として設定し、人間という存在について身体的な側面と社会的な側面から学修することとしている。

イ．健康

感染と防御、薬理学、看護の基礎理科、栄養と代謝、健康科学論、健康障害と栄養、公衆衛生学を必修科目として設定し、高大連携科目として看護の基礎理科を据え、特に生物学・物理学・数学の基礎力を確認する。

さらに、健康を支える栄養学、感染防御のシステムの理解や薬理学の基本を学ぶ科目として、人々の健康問題を多角的に学修する健康科学論を配している。

ウ. 社会/環境

保健医療情報学 1 (情報科学)、保健医療情報学 2 (医療統計)、保健医療関係法規、社会保障論、保健医療福祉行政論を必修科目として設定し、生活環境論、社会福祉論、疫学、臨床工学を選択科目として設定している。情報社会に必須の科目を配し、社会福祉制度や法制度（特に保健医療に特化した法制度）への理解を促す科目や生活そのものを工学的な視点から捉える科目を配している。

エ. 日常生活支援

看護学概論、看護コミュニケーション論、ヘルスアセスメント、基礎看護技術演習、看護過程論、基礎看護学実習 1 (看護の対象理解)、基礎看護学実習 2 (生活援助)、精神看護学概論、成人老年看護学概論 A、成人老年看護学概論 B、小児看護学概論、小児看護学実習 A (健康な小児の看護) を必修科目として設定し、看護援助に関わる基礎的な科目を始め、コアとなる概論科目を配している。また、実習科目として、基礎看護学の実習と健康な小児への看護を主にした小児看護学実習を配している。

オ. 療養生活支援

臨床看護技術演習 1 (治療・処置)、臨床看護技術演習 2 (薬物療法・検査)、疾病と看護 A (消化器)、疾病と看護 B (呼吸器・循環器)、疾病と看護 C (腎・泌尿器・皮膚)、疾病と看護 D (神経・運動器)、疾病と看護 E (代謝・免疫・感覚器)、疾病と看護 F (周手術期)、在宅看護学概論、在宅看護学、在宅看護学実習、小児看護学、小児看護学演習、小児看護学実習 B (健康障がいのある小児の看護)、老年看護学演習、成人看護学演習、成人看護学実習、老年看護学実習 A (健康障害を持つ高齢者の看護)、老年看護学実習 B (施設で生活する高齢者の看護)、精神看護学、精神看護学実習を必修科目として設定している。療養生活を余儀なくされている人々の看護援助について基本的な知識技術を修得したあと、それぞれの実習科目に繋がるように構成している。また、代表的な疾病の理解とそれらの疾病の理解を踏まえた看護を繋げ、それぞれの系統別に科目立てを配している。

カ. 健康維持増進支援

母性看護学概論、母性看護学、母性看護学実習、地域精神保健福祉と看護、健康教育学、家族看護学、公衆衛生看護学概論、を必修科目として設定している。また、養護教諭を目指す者は、養護概説、学校保健を履修しなければならない。さらに保健師国家試験受験資格を得る予定の学生は、

公衆衛生看護技術論、行政保健師活動論、産業保健看護学、産業保健看護学実習、行政保健師実習を履修しなければならない。人間の性を理解する科目、精神的な側面からの人間の理解を深める科目及び地域やコミュニティを対象とし理解する科目を配している。

キ. 看護の統合

保健医療パートナーシップ総論、看護管理論、保健医療パートナーシップ演習、統合実習、看護研究概論、専門看護ゼミナールを必修科目として設定し、国際看護論、看護情報学、医療経済学、看護教育学、国際コミュニケーション A (国内)、国際コミュニケーション B (ハワイ)、国際看護基礎演習 A、国際看護演習 A (デンマーク)、国際看護基礎演習 B、国際看護演習 B (メイヨ)、救急・災害看護論、退院支援・在宅ケアマネジメント論、公衆衛生看護管理論を選択科目として設定している。医学科の学生との連携科目を始め、国際的視野を広める科目、災害時の看護や在宅支援に関する科目を配し、学修してきた看護について視点を変えて捉える科目を配し、総まとめの実習として統合実習、また看護学学修のまとめとして専門看護ゼミナールにおいて、研究論文のクリティーク及び自分のテーマを追究した研究計画書（場合によっては、データ収集まで）作成を行い、論理的思考、探求心等を育成する科目を配している。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1) 教養系科目の考え方と特色

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養系の科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養系科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。なお、現代文明論、現代教養科目（基礎教養科目、発展教養科目）については、「現代教養センター」、現代教養科目（健康スポーツ科目）については、「一般体育」、英語科目については、「国際教育センター」が行っている。

2) 専門科目の教員組織編成の基本的考え方

医学部看護学科の教員組織は、これまでの教育・研究の実績を活かし、既設の健康科学部看護学科から移行する。新設の医学部看護学科専任教員 29 人は、大学院健康科学研究科の教員を併任し、新設の看護学科の教育・研究の質的向上を図ることとしている。

各専門分野の授業科目及び単位数に応じて相応の教育経験、教育研究業績、実務経験を有する教授、准教授、講師、助教を適切に配置している。

3) 教員配置

教員組織は、教授 9 人、准教授 8 人、講師 9 人、助教 3 人の合計 29 人の専任教員で編成する。

年齢構成は、30～39 歳が 3 名、40～49 歳が 10 名、50～59 歳が 10 名、60～64 歳が 5 名、65～69 歳が 1 名となっており、教員の教育成果と学部運用の継続性を加味して、各年代に教員を配置している。

完成年度までに定年齢を超える教員が 4 名いるが、教育研究上の業績により、本学の学校法人東海大学教職員定年規程（資料 2）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて定年を延長する計画である。この 4 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していく。

⑥ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

1) 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学においては、平成 30 年度より教養科目を刷新し、パブリック・アチーブメント型教育による教養系科目と専門科目の融合の実現を目指す。セメスター制度により、学生の選択の自由度を高めているが、特に 1 年次から 2 年次の学修については、順序性を定め、教育効果を高めていく計画である。

具体的には、第 1 セメスターから第 2 セメスターにおいては、現代教養科目の基礎教養科目（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）において学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野の礎を育成する。同時に発展教養科目において「全人的な教育」と「社会的実践力」を効果的に養っていく。これを具現化する科目が、米国で開発されてきた「パブリック・アチーブメント型教育」を実践する、現代教養科目の発展教養科目（「シティズンシップ」、「ボランティア」、「地域理解」、「国際理解」）である。これらの科目により学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、社会の持続的な発展に向けた取り組みを促進する。これを礎に、2 年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」と、学科での専門科目の学修について、より実践的に知識を吸収し、社会への展開を自ら考えて、積極的に学びを深めていく実践的な学修へとつなげていく。

また、英語科目については、従来、4 技能（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）を段階的に学修していく方式であったが、平成 30 年度からは、基礎的な 4 技能を 1 年次に行い、2 年次には、学部・学科での専門教育と融合して連動性を深めて展開していく。

以上の教養科目は全て必修科目であり、現代文明論科目、現代教養科目については、科目ごとに定める適切な人数（現代教養科目は約 80 名）で履修登録前には学生のクラスを確定し、英語科目については、授業開始前のガイダンス期間に行う基礎学力テストにより、能力別のクラス編成を行い、適切な人数（約 35 名）で学生のクラスを確定していく。

また、これらの教養科目の授業については、グループワーク等も取り入れ、初回の授業でシラバスの説明をし、授業の進行方法等を学生と教員が共有することで、より効果的な学修を行っていく。

2) 教養科目に基づく専門科目の展開と教育方法

区分Ⅳ主専攻科目においては、教養科目で得た知識や自ら考える力などを発展しつつ展開していく。実習科目に直結する、ほぼ全ての授業科目について、“講義・演習・実習”という連続性を授業形態として組み入れ、本学が育成してく 4 つの力である「自ら考える力」「集う力」「挑み力」「成し遂げ力」を身に付けるカリキュラムとしている。また、主専攻科目の授業の多くは、複数教員担当制を取り、チームで授業運営を図り、教育効果の向上と、高いレベルでの継続性を維持している。

また、確実な知識と技能を育成することを目的に多くの必修科目を設定していることに加え、必修科目の開講時期を軸として順序性を保ちながら、本学科の目的である質の高い看護師の養成に直結した学修を進めていく。

なお、学生は短期目標を達成しながら学修成果を上げるため、1 学年を春学期・秋学期の 2 学期制（セメスター制）とし、学期ごとに学修成果を評価・確認しながら教育を展開していく。

3) 履修指導方法と履修者数の管理

(1) ガイダンスの実施と履修者数の管理

本学では入学生は、はじめに約 1 週間のオリエンテーション期間を設け、冊子(キャンパスガイドや授業要覧)を用いて、本学部学科の教育目標と学修全般に関するガイダンスを行い、大学での学び方や学生生活を送る上でのルールと注意事項、課外活動と学修との調整をどのように計画するかについて、大学生活をイメージしやすいように教員からの説明に加え在学生からのアドバイスをする時間を設けている。さらに、履修計画については、学科の教務委員から概略の説明を受けた後、指導教員により個別にアドバイスを受け、取得したい資格についても、意識化して履修計画を立てるようにしている。また、在学生に対しても春学期と秋学期の始めにガイダンス日を設け、履修計画の見直しや修正、取得したい資格の確認、自己の適性、将来の進路等を指導教員との面談を通して、明確化させている。

なお、高度な専門知識を確実に身に付けていく必要性から、多くの科目が必修科目であり、履修者数についても、その授業科目ごとに適切な人数を定めている。したがって、学生に対しては予め受講するクラスを指定するなどの方法が可能であり、この方法によって適切な人数で授業を実施する。

(2) シラバスの提示

本学ではすべての授業科目についての統一した形式において、シラバス（Web 版と紙版）を作成し、学生がいつでも履修の進捗状況を把握できるよう支援している。シラバスの内容は、授業概要、教育目標、授業スケジュール、授業内

容（事前学習課題、事後学習課題を含む）、評価方法、参考文献、科目担当教員の連絡先等を明示している。

（３）指導教員制

本学では、学生生活の指導担当教員として指導教員制をとり、配置している。指導教員は、学業、進路、その他学生生活全般について助言する役割がある。入学時に決定され、４年卒業まで継続する。指導教員は春学期及び秋学期の始めに学生全員と面談をし、学期の成績評価を基に履修計画の確認や見直しを行う。学生 20 人に 1 人の指導教員配置を取っており、相談がある場合はオフィスアワーやメールでの相談にのっている。相談内容によっては学生相談室やキャリアサポート担当者と連携して支援している。

４）卒業要件

医学部看護学科においては、卒業に必要な単位数は区分Ⅰ現代文明論 2 単位、区分Ⅱ現代教養科目 12 単位、区分Ⅲ英語科目 8 単位、区分Ⅳ主専攻科目 103 単位の計 125 単位である。

必修科目は区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲの 22 単位と専門科目 97 単位であり、豊かな人間性と高い倫理性、健康問題解決のための看護実践能力を育成するものである。選択科目は区分Ⅳの 6 単位であり、人間の生活環境や人間工学、社会福祉関係科目、英語能力向上のための科目、地域や国際的視野を広める科目から選択をし、科学的思考、学際的視野、地域・国際社会の理解を促すことをねらっている。

５）履修モデルと履修の上限

履修モデルは（資料 3）に示すとおりである。

履修登録上の上限として、本学は学生の授業時間外の主体的な活動を推進していることと、十分な学修時間確保のため、履修登録できる単位数の上限を、一定の期間に集中する実習や講義を除いて、1 学期 24 単位と定めている。なお、卒業要件に含めない単位についてはこの限りではない。

⑦ 施設・設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

医学部看護学科は、神奈川県伊勢原市に所在する伊勢原校舎に設置される。

伊勢原校舎の校地面積は、122,986.81 m²、完成年度における伊勢原校舎の学部最大の受入定員は 1,168 人であり、大学設置基準の必要校地面積を十分満たしている。また、学生コミュニケーションセンター（3 号館）等の学生厚生施設が整えられているため、新たな校地、運動場の整備計画はない。

イ 校舎等施設の整備計画

医学部看護学科は、既設の健康科学部看護学科を基礎に設置される。実質的には

そのまま移行する設置となる。

既設の健康科学部看護学科は、現在、伊勢原校舎において専任教員研究室や授業を実施する教室、図書館を専用・共用として確保・利用している。

校地・校舎等の図面が示す通り、医学部看護学科開設後も、引き続き現状の施設・設備を確保・利用することから、教育研究上の必要性を満たすものである。したがって、校舎等施設の新たな整備計画はない。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備について

医学部看護学科の学問領域に関わる図書資料として、図書 68,156 冊を所蔵しており、医学部看護学科設置後も、引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集し、充実させる予定である。

2) 学術雑誌の整備について

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」(資料4)の通り、医学部看護学科に関して、多数の学術雑誌を所蔵しており教育研究に支障はない。

3) オンライン・文献データベース及びその他の電子媒体の整備について

オンライン・文献データベースは既に整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用して24時間検索を実現している。

4) 図書館の施設整備について

医学部看護学科の学生が利用する伊勢原校舎の図書館の面積は 3,215 m²、席数は 441 席であり、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

5) 他大学図書館との協力について

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。

また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

⑧ 入学者選抜の概要

1) アドミッション・ポリシー

医学部看護学科では、次のアドミッション・ポリシーを定めている。

看護学科の教育目標である「様々な健康レベルの人が、あらゆる場で、その人らしい生活を営むための看護ケアが実践でき、時代の変化に応じた新しい看護を創造できる医療・保健の専門職の育成」に共感できる人材を育成することを教育目標としている。

この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求める。

2) 入試選抜の方法・体制について

選抜方法として、以下の入学試験を実施する予定である。

- ・ 付属推薦入学試験（対象：全国の東海大学付属高等学校）を実施する。
- ・ 指定校推薦入学試験（大学が高等学校を指定し一定の枠内で入学試験を行う）を実施する。
- ・ 公募制推薦入学試験（学校長が推薦した者）を実施する。
- ・ 大学入試センター試験利用入学試験（前期）を実施する。なお、実施については、別途、文部科学省及び大学入試センターへの手続きを行う予定である。
- ・ 一般入学試験として、一般入学試験A方式（受験日自由選択）と一般入学試験B方式（複数学科併願可能）を実施する。
- ・ 留学生入学試験は一般入学試験と推薦入学試験を実施する。

なお、募集定員の割合は、概ね、推薦入学試験系 30%、一般入学試験系 70%とする予定である。

入学試験における判定は、入試判定委員会によって実施される。入試判定委員会は、学長を委員長、副学長、当該学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学部等の主任、教学部長、事務部長等により構成される。

⑨ 取得可能な資格

医学部看護学科では、以下の科目が取得可能である。

【医学部看護学科で取得可能な資格】

- ・ 看護師国家試験受験資格（国家資格）
- ・ 保健師国家試験受験資格（国家資格）
- ・ 養護教諭一種免許状（国家資格）

※看護師国家試験受験資格は、卒業要件に含まれる科目の修得により取得可能である。

※保健師国家試験受験資格は、卒業要件に含まれる科目のほか、保健師関連科目の修得が必要である。

※養護教諭一種免許状（国家資格）は、卒業要件に含まれる科目のほか、教職関連

科目の修得することで、国家資格である教育職員免許状の取得が可能となる予定である。

⑩ 実習の具体的計画

【看護師・保健師】

ア 実習計画の概要

1) 実習内容

実習の目標として次の6件を定める。

- (1) あらゆる健康レベル・発達段階にある人々に対する基本的な看護実践能力を養う。
- (2) 事象や現象を正しく判断していくためのクリティカル・シンキングの能力を養う。
- (3) 看護の対象を包括的に捉え、対象の変化に対応した看護援助ができるような応用力を養う。
- (4) 保健・医療・福祉チームの一員として行動する意識や態度を養う。
- (5) 多様な価値観をもつ人間を尊重し、倫理的判断に基づく行動をとるための能力を養う。
- (6) 対人関係を通して自己理解を深める。

以上の目標に基づき、看護師国家試験受験資格のみ取得する学生は、「基礎看護学実習1（看護の対象理解）」1単位、「基礎看護学実習2（生活援助）」2単位、「小児看護学実習A（健康な小児の看護）」1単位、「在宅看護学実習」2単位、「小児看護学実習B（健康障がいのある小児の看護）」1単位、「成人看護学実習」6単位、「老年看護学実習A（健康障害を持つ高齢者の看護）」3単位、「老年看護学実習B（施設で生活する高齢者の看護）」1単位、「母性看護学実習」2単位、「精神看護学実習」2単位、「統合実習」2単位の実習科目を修得する。

なお、保健師国家試験受験資格を加えて取得する学生は、上記の実習に加え、「産業保健看護学実習」1単位、「行政保健師実習」4単位を修得する。

2) 実習先の確保の状況

実習先施設は、「実習施設一覧」（資料5）のとおり、本学医学部付属病院、総合病院、精神科病院等の医療機関に加え、老人介護福祉施設、地域包括支援センター、保健所、市町村、健診機関、訪問看護ステーション等である。上記実習施設は、高度先端医療を提供する特定機能病院と地域の基幹病院、専門性の高い病院や施設が多く、実習目的に適応した施設を確保している。

医学部看護学科は、健康科学部看護学科を基礎として設置されるが、既に健康科学部看護学科において、実習施設との連携体制が構築されており、医学部看護学科に移行してもこれまで通りの協力が得られる見込みである。さらに、多くの健康科学部看護学科卒業生が実習施設に就職し、臨地実習指導者に任命されており、卒業生が学生（後輩）を育て、就職していくという望ましい循環

が確立されている。加えて、付属病院及び神奈川県の見護職員確保に貢献していることから、実習施設受け入れについて協力的であり、医学部看護学科として、確実に実習施設を確保できる見込みである。

3) 実習水準の確保の方策

医学部看護学科に「教務関連委員会」を置き、その下部組織として「実習委員会」を設置する。「教務関連委員会」は各領域の代表者で構成し、実習教育の基本方針の見直しと実習計画の概要を策定する。

実習委員会は、実習生の配置、当該学年の学生全体への実習オリエンテーションの企画運営、各実習領域別のオリエンテーション調整等の実施を通じて、実習に関する問題対応やきめ細かな指導を行う体制を整える。

4) 実習先との契約内容

実習施設と事前に実習計画や実習内容について協議し、実習の協定を締結する。必要に応じて実習に必要な事柄（個人情報保護を含む）に対する誓約書や受け持ち患者と取り交わす同意書、予防接種状況等の各種書類を取り交わしている（資料 6）。

5) 実習前の準備状況

学生に対して、「看護学実習要項」（資料 7）をあらかじめ配付している。学生は、これに基づいて実習への理解を深め、準備を進める。

また、学生は、入学時に学校保健安全法に定められた定期健康診断を受ける際に免疫検査（麻疹・風疹・水痘・ムンプス・B 型肝炎）を行い、抗体価が陰性あるいは偽陽性の場合、B 型肝炎以外は 1 年次の 6 月・7 月・11 月に順次予防接種を実施する。HBs 抗体が基準値未満者については、2 年次に 3 回予防接種を実施する。教員に対しても抗体価検査を実施し、現状把握に努める。

実習期間中の保険の加入に関しては、大学が取りまとめて、「傷害保険」（損害保険ジャパン日本興亜株式会社）に加入し、実習施設への移動、実習中の災害や事故発生に対応できる体制を整える。

イ 実習指導体制と方法

1) 実習指導教員の配置

実習を行うグループは、「臨地実習計画表」（資料 8）のとおり、1 グループ 7 人～8 人を基本とした、12 グループの編成（A①～D⑫）としている。各グループには、専任教員・非常勤教員（兼任）を配置する。

巡回指導を実施する科目は、「在宅看護学実習」、「行政保健師実習」、「産業保健看護学実習」である。

「在宅看護学実習」は、神奈川県内の訪問看護機関において行い、学生は週 2 ～3 回、1 回につき数時間、教員の指導を受ける体制である。教員は、専任教員、非常勤教員ともに複数名体制で連携協力して指導を行う。

「行政保健師実習」は、神奈川県下の政令市または県域の保健福祉事務所と市町村において、「産業保健看護学実習」は、東京都、神奈川県内の大手企業において行う。学生は週2～3回、1回につき数時間～半日程度は直接、教員の指導を受ける体制である。これについても、教員は、専任教員、非常勤教員ともに複数名体制で連携協力して指導にあたる。

2) 学生の各段階における指導計画

学生は、学年進行に伴い、病院施設の見学実習から患者受け持ち実習に進み、最後に複数受け持ちや夜間実習を行うように科目配置を行う。

1 年次の病院施設の見学実習直前に学生ガイダンスを行い、実習目的・目標、実習方法は当然のことながら、実習に臨む姿勢（ユニフォーム姿の確認を含む）、留意事項、学生自身の健康状態維持に対する注意等を行う。

2 年次は初めて受け持ち患者を通して看護過程を展開するため、1 年次の実習ガイダンス内容に加え、受け持ちをすることに伴う留意事項について説明する。

3 年次秋学期から 4 年次春学期までの間の実習については、3 年次秋学期開始時に一斉の実習ガイダンスを実施するとともに各実習科目ガイダンスを設け、それぞれの実習における特徴的な事項の知識・技術の確認を実施する。

4 年次の複数受け持ちや夜間実習を行う統合実習においては、多職種連携を意識し、看護専門職として目指す看護師像を意識させる。

実習終了後においては、学生と臨床実習指導者及び担当した指導教員による面接を実施し、実習評価をする。また反省会を行い実習の振り返りや実習先への要望等も聞き、次年度以降の改善点につなげる。同時に学生には実習アンケートに記入してもらい、学生からの意見を集約する。

ウ 大学と実習施設との連携体制と方法

1) 実習施設との連携体制

実習施設ごとに連絡調整の責任者を置き、施設の看護部や教育担当者との連絡調整を明確にしている。この責任者が実習時期と受け入れ学生人数の調整を行うが、複数の実習科目を受け入れている一部施設においては、実習委員会が調整を行う。

実習施設の中で、本学付属病院とは、実習指導者説明会、看護研究会等の機会を通じて、実習指導に関連した情報交換等を行っている。その他の施設とは、年度末に各実習において合同で実習反省会を開催し、当該年度の評価や課題、次年度の実習依頼に際しての情報交換を行うことで緊密な連携体制を構築する。

なお、施設側の臨床実習指導者には、可能な限り実習指導者講習会修了者を配置していただくよう調整する。

臨床実習指導者の指導力の確保に関して、各実習施設において、実習指導者講習会の修了者に指導者を依頼することで水準を確保する。また、実習開始前に実習指導者会議や実習病棟に実習指導教員が赴いて、実習目的・目標、実習方法、指導方法、指導教員と臨床実習指導者の役割について説明を行い、理解

を得てから実施する。

2) 実習における連携

実習依頼について、「基礎看護学実習 1（看護の対象理解）」、「基礎看護学実習 2（生活援助）」では、各担当教員が実習依頼を行い、これ以降の実習については、実習委員会を中心として、学生の配置を決定したうえで実習依頼を行う。

本学付属 4 病院への実習依頼は看護学科としてとりまとめて行い、これ以外施設への依頼は、各実習科目担当教員が実習先への依頼を行う。

実習開始前には、当該実習受け入れ施設へ担当教員が赴き、実習目的・目標、実習方法、学生の人数等の情報交換及び実習先からの要望等について打ち合わせを行う。

実習中においては、施設側の臨床実習指導担当者との連絡調整を行いながら、各学生の学習進度に合わせた実習を展開する。実習終了時には、臨床実習指導者と教員と学生による評価面接を行い、学生がとらえた実習についての考えを踏まえ、建設的に次の実習につながるような指導場면을設ける。

また、学生には無記名で実習に対するアンケートの記載を求め、実習終了後に評価を行い、結果を臨床実習科目担当者に返却する。施設側の臨床実習指導者からの実習に対する意見等を把握し、次年度の実習指導に活かす。

エ 単位認定等評価方法

単位認定は、当該実習科目の実習への取り組み状況や課題への取り組み状況、実習記録の完成度、レポートの完成度などをもとに、当該実習科目担当教員が成績評価を行い、当該実習科目構成員の専任教員が協議をして可否の単位認定を行う。

(1) 臨地実習評価体制

実習の単位認定は、原則として講師以上の科目担当専任教員が行う。実習科目の評価は、実習目標の到達度の評価基準に基づいて行う。非常勤教員が実習指導にあたる場合、専任教員は日々の学生の実習状況の報告を聞き、最終判断を行う。施設側の実習指導者の意見も参考にする。

(2) 単位認定方法

単位認定は、当該実習科目の実習時間数の 3 分の 2 以上出席し、実習指導教員の評価面接を受けた者を認定する。評価対象は、実習目的・目標の達成度、実習記録、レポートや課題等であり、それらを総合して評価する。100 点をもって満点とし、60 点以上を合格としている。成績の評価は、100 点～90 点：S、89 点～80 点：A、79 点～70 点：B、69 点～60 点：C、60 点未満：E とする。

オ 教育課程と指定規則等との対比表

(資料 1) のとおりである。

カ その他特記事項

(1) 受け持ち患者や家族、対象者への倫理的配慮

学生が臨地実習においてどのような行動をとるべきかについては、入学当初から「看護専門職者を目指す者の姿勢」として十分説明を行う。さらに、1年次・2年次の基礎看護学実習ガイダンス、及び3年次から始まる各論実習ガイダンスにおいて、十分説明を行う。また、実習施設で学生が受け持つ患者には、「臨地実習にあたっての受け持ち患者様への説明事項」の書面を用いて、依頼期間、安全を保つための学生の準備と指導体制、学生の受け持ちに対する辞退はいつでもできること、個人情報务必守ることを説明し、承諾が得られた場合に受け持ちをさせていただく。受け持ち患者本人の承諾が得られない場合は、代諾者の承諾を得る。倫理的配慮に関しては、臨地実習指導者と指導教員が連携して対応する。

(2) 個人情報の取り扱い方

個人情報保護について、実習に関する留意事項の重要な項目として、1年次の実習から「守秘義務」を指導する。また、実習記録用紙には、患者氏名・患者の年齢・施設名は記載しないこととしている。日々の記録は鉛筆書きであるが、レポート作成はパソコン使用を許可している。その際も個人が特定されるような情報（施設名・患者氏名（イニシャルも不可）・年齢）は記載しないように指導している。また、すべての実習施設ではないが、いくつかの施設からの要請により、学生の実習に臨む姿勢、施設側の規則を守ること、個人情報保護、マナー等、学生が遵守すべき項目が書かれている「誓約書」に対して、学生に署名捺印させ、提出させてから実習に入る施設もある。

(3) ヒヤリ・ハットレポート

実習中に発生した“ヒヤリ・ハット”に関しては、学生への教育として、発生した事象についてのみではなく、その原因についても考察を深めてもらうためにレポートとして提出させる。最も多いのは実習記録等の置き忘れや紛失であるため、カンファレンス時のテーマにし、持ち物管理も個人情報保護に関連することを意識付ける。

【養護教諭】

養護教諭免許状の取得に係る「養護実習」の計画は以下の通りである。

ア 実習先の確保の状況

医学部看護学科が設置される東海大学伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）の近隣の公私立中学校・高等学校及び東海大学付属高等学校より、養護実習の受入れ承諾をいただいている（資料9）。

イ 実習先との契約内容

実習の契約が必要な場合は単年度ごとに交わすこととし、契約に際しては、

実習に関する大学側の責任と実習校の責任をそれぞれ明確にする。

ウ 実習水準の確保の方策

実習担当教員と実習校の指導教員との打合せによる指導に加え、実習校における事前ガイダンスで指示された養護教諭の役割と機能に関する事前指導、実習担当教員による実習校での保健指導の参観と事後指導を行うことで、実習生に対する指導の充実を図り、実習水準の確保につなげる。

エ 実習先との連携体制

教育校との連絡調整等を行うため、看護学科教務関連委員会を設置し、緊密な連携体制を構築する。

オ 実習前の準備状況

大学が取りまとめて保険に加入しており、万一、実習実施中に事故が起きた場合には、必要かつ適切な処置を講じる。

カ 事前・事後における指導計画

事前指導においては、実習生に対して、中学校あるいは高等学校学校長による養護実習に関する指導・助言を行い、実習における指導案の作成について指導する。

事後指導においては、実習生による、「養護実習生記録簿」等に基づく養護実習の振り返りや実習の成果に基づくグループ討議を踏まえ、担当教員等による講評、指導・助言等を行う。

キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員による実習校保健指導の参観時に指導を行う。
実習校研究授業担当者は、医学部看護学科の教員で構成しており、教員の授業実施に支障が出ない体制とする。

ク 実習施設における指導者の配置計画

実習校は、担当教諭を配置して指導を行う。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

事前指導・事後指導、「養護実習生記録簿」「養護実習生成績評価表」を総合して成績評価を行う。

⑪ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

上記④で説明しているとおり、本学ではパブリック・アチーブメント型教育を実践しており、伊勢原校舎の学生も、教育効果を高めるため他学部の学生とも交流しながら

ら、教養系の科目（科目区分Ⅰ～Ⅲ・必修科目22単位）を湘南校舎で受講する。

運用方法として、1年次（第1、第2セメスター）の曜日を指定（1週間の内2日間）して湘南校舎にて教養科目を受講し、他の曜日（1週間の内4日間）に伊勢原校舎で専門科目を受講することから、教育研究上に加え学修上の問題が生じることはない。

教員については、湘南校舎と同様に、センター等の組織に所属する教員が受け持つため、適切な人数と配置にて授業を行っていく。また、図書館等の施設、教学面での窓口、保健センター等についても伊勢原校舎同様に利用することが可能であることから、大学生活面での問題も生じることはない状況を構築している。なお、湘南校舎で授業を担当する医学部看護学科の教員はいない。

なお、現在も基礎となる学科（健康科学部看護学科）において、同様の方法で2校地での教育体制を運用しているが、問題は生じていない。したがって、実績面から見ても問題がない状況を構築している。

⑫ 管理運営

医学部看護学科の管理運営は基本的には医学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月1回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

医学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に係る「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

⑬ 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1) 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。

学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2) 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況についてWebを利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3) 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成22（2010）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、平成29（2017）年度が予定されている。

このような認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記1) 及び2) などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

⑭ 情報の公表

本学は、「学校教育法施行規則」（平成 23 年 4 月 1 日施行）に基づき、以下の通り、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ>大学案内>学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト<大学案内><東海大学について>において、「教育・研究組織」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの<学部・大学院>において公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称：トップ>大学案内>教育・研究組織

「学部・学科」「研究科・専攻」の名称：トップ>学部・大学院

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和59年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年1回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの<取り組み>において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの<大学案内><東海大学について>において、「教職員数」として公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの<学部・大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの<研究・産官学連携>において、研究活動・ライセンス検索（教員研究活動情報の検索）から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」：トップ>取り組み>教育研究活動>教育研究年報

「教職員数、教員年齢構成」：トップ>大学案内>東海大学について>教職員数

「教員が有する学位及び業績」：トップ>学部・大学院>学科トップ>教員紹介

「教員研究活動情報」：トップ>研究・産官学連携>研究活動・ライセンス検索
>教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数に

については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞東海大学について＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜キャリア・就職＞において、「各種データ」として公表している。

また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学案内＞理念・歴史＞理念・憲章＞アドミッション・ポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ＞大学案内＞東海大学について＞学生数

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ＞キャリア・就職＞各種データ

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞の各学部・研究科のトップページにおいて「シラバス」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各学部トップ＞シラバス

「大学院」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各研究科トップ＞シラバス

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」

トップ＞学部・大学院＞各学科トップ＞カリキュラム

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（研究科・専攻）」

トップ＞学部・大学院＞各専攻トップ＞カリキュラム

キ 校地・校舎などの施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞において、「キャンパス案内」として、その概要をキャンパスごとに公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ＞大学案内＞キャンパス案内

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「学部学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ＞大学案内＞学部学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生が目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ＞学生生活＞教育サポート、学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ＞キャリア・就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ＞大学案内＞組織紹介＞関連機関・施設＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://www.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキ

ュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「理念・憲章」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜理念・歴史＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則、東海大学専門職大学院学則を、それぞれ掲載している。

設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜情報の公表＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成 22 年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞＜教育研究活動＞において、「自己点検評価」として掲載している。

⑮ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

医学部看護学科では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善について PDCA のサイクルを実施する。

また、FD 委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとした FD 研究会を実施する。更に FD 委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FD の講演会を定期的を開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。更に、学部において MSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCA サイクルを実現する。

なお、東海大学は、組織的・継続的な F D 活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。

教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「F D ・ S D 研修会」を開催している。この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1) 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。

本学科においては、教育内容の特性上、看護師養成のための実習など、地域との連携を含めて実践的な教育が不可欠であり、パブリック・アチーブメント型教育と連動して、専門科目を運営している。

2) 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している 4 つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身に付ける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3) 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担う T o o - C o l l a b o を軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担う T o o - C o l l a b o により、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類
医学部看護学科

【資料目次】

- 資料 1 教育課程と指定規則との対比表
- 資料 2 学校法人東海大学教職員定年規程
- 資料 3 履修モデル
- 資料 4 学術雑誌所蔵一覧
- 資料 5 看護師・保健師 実習施設一覧
- 資料 6 抗体価ならびにワクチン接種証明書（フォーム）
- 資料 7 看護学実習要項
- 資料 8 臨地実習計画表
- 資料 9 養護教諭 実習施設一覧

指定規則の教育内容							別表3																計			
							基礎分野	専門基礎分野	専門分野						統合分野	臨地実習						統合分野				
									専門分野							専門分野										
									I	II	I	II	I	II		I	II	I	II	I	II					
区 分	授業科目	配当 年次	単位数	1単位当 りの時間 数	履修方法 及び 卒業要件	科学的 思考の 基盤	人間と 人間の 生活の 理解	人体の 構造と 機能	基礎 看護学	成人 看護学	老年 看護学	小児 看護学	母性 看護学	精神 看護学	在宅 看護論	看護の 統合と 実践	I 基礎 看護学	成人 看護学	老年 看護学	小児 看護学	母性 看護学	精神 看護学	在宅 看護論	看護の 統合と 実践		
						13	21	40						23						97						
論明文代現Ⅰ							○	○																	2	
Ⅱ現代 教養科目	人文科学	1秋	2	15		○	○																		2	
	社会科学	1春	2	15		○	○																		2	
	自然科学	1秋	2	15		○	○																		2	
	シティズンシップ	1秋	1	15		○	○																		1	
	ボランティア	1秋	1	15		○	○																		1	
	地域理解	1春	1	15		○	○																		1	
	国際理解	1春	1	15		○	○																		1	
	健康・フィットネス理論実習	1春	1	30		○	○																		1	
	生涯スポーツ理論実習	1秋	1	30		○	○																		1	
	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1春	2	30		○	○																	2	
英語リーディング&ライティング	1春	2	30		○	○																		2		
グローバル人材育成科目	グローバルスキル	1秋	2	30		○	○																	2		
アカデミック英語	1秋	2	30		○	○																		2		
小計							22	22	0	0						0						22				
Ⅳ主専攻 科目	人間	表現技法の基礎	1春	1	15		○	○																	1	
		人体の構造と機能1（細胞生物学）	1春	2	15				○	○																2
		人体の構造と機能2（解剖生理学）	1秋	2	30				○	○																2
		ENGLISH OF NURSING STUDY ABROAD	2・3春	1	30		○	○																		
		人間工学	1・4秋	1	15																					
	健康	保健医療行動学	2・3春	1	15					○																
		健康科学論	1春	1	15					○	○															1
		看護の基礎理科	1春	1	15		○	○																		1
		栄養と代謝	1春	1	30				○	○																1
		健康障害と栄養	2秋	1	15					○	○															1
		公衆衛生学	2春	2	15					○	○															2
		感染と防御	2春	2	15					○	○															2
	薬理学	2秋	2	15				○	○																2	
	社会／ 環境	保健医療福祉行政論	2春	1	15					○																1
		保健医療情報学Ⅰ（情報科学）	1春	1	30						○															1
		保健医療情報学Ⅱ（医療統計）	1秋	1	30						○															1
		保健医療関係法規	2秋	1	15						○															1
		社会保障論	2春	1	15						○															1
		生活環境論	1春	2	15						○															
		社会福祉論	2春	2	15						○															
疫学		3春	2	15						○	○															
臨床工学	2・3・4春	1	15						○																	
小計							22	2	20	0						0						22				
							(選択2単位を含む)													(選択2単位を含む)						
Ⅳ主専攻 科目	日常生活 支援	看護学概論	1春	1	30					○	○	○	○	○	○	○									1	
		看護コミュニケーション論	1秋	1	30					○	○	○	○	○	○	○	○									1
		ヘルスアセスメント	1秋	2	30					○	○	○	○	○	○	○	○									2
		基礎看護技術演習	1秋	2	30					○																2
		看護過程論	2春	1	30					○	○	○	○	○	○	○	○									1
		基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象理解）	1秋	1	45														○							1
		基礎看護学実習Ⅱ（生活援助）	2春	2	45														○							2
		精神看護学概論	1秋	1	15										○											1
		成人老年看護学概論A	2春	1	15						○	○														1
		成人老年看護学概論B	2秋	1	15						○	○														1
		小児看護学概論	2春	1	15								○													1
		小児看護学実習A（健康な小児の看護）	3秋	1	45																○					1
		臨床看護技術演習Ⅰ（治療・処置）	2春	2	30					○																2
		臨床看護技術演習Ⅱ（薬物療法・検査）	2秋	1	30						○															1
	療養生活 支援	疾病と看護A（消化器）	2春	2	30				○		○	○														2
		疾病と看護B（呼吸器・循環器）	2春	2	30					○	○	○														2
		疾病と看護C（腎・泌尿器・皮膚）	2春	2	30					○	○	○														2
		疾病と看護D（神経・運動器）	2秋	2	30					○	○	○														2
		疾病と看護E（代謝・免疫・感覚器）	2秋	3	30					○	○	○														3
		疾病と看護F（周手術期）	2秋	2	30					○	○	○														2
		在宅看護学概論	3春	2	15											○										2
		在宅看護学	3春	2	15						○	○	○	○	○	○										2
		在宅看護学実習	3秋	2	45																	○				2
		小児看護学	2秋	2	30								○													2
		小児看護学演習	3春	1	30								○													1
		小児看護学実習B（健康障がいのある小児の看護）	3秋4春	1	45																○					1
		老年看護学演習	3春	1	30							○														1
		成人看護学演習	3春	2	30						○															2
成人看護学実習	3秋4春	6	45																○					6		
老年看護学実習A（健康障害を持つ高齢者の看護）	3秋4春	3	45																	○				3		
老年看護学実習B（施設で生活する高齢者の看護）	3秋	1	45																○					1		
精神看護学	3春	2	15										○											2		
精神看護学実習	3秋4春	2	45																		○			2		

教育課程と指定規則との対比表

(看護師学校) (東海大学) (医学部看護学科)

指定規則の教育内容 教育課程						別表3																	計										
						基礎分野	専門基礎分野	専門分野						統合分野	臨床実習						統合分野												
								Ⅱ							専門分野																		
								科学 的思 考の 基 礎	人 間 と 人 間 生 活 の 理 解	人 体 の 構 造 と 機 能	病 害 の 成 り 立 ち と 回 復 の 基 礎	病 害 支 援 と 社 会 保 護 制 度	基 礎 看 護 学		成 人 看 護 学	老 年 看 護 学	小 児 看 護 学	母 性 看 護 学	精 神 看 護 学	在 宅 看 護 論		看 護 の 統 合 と 実 践		Ⅰ 基 礎 看 護 学	成 人 看 護 学	老 年 看 護 学	小 児 看 護 学	母 性 看 護 学	精 神 看 護 学	在 宅 看 護 論	看 護 の 統 合 と 実 践		
区 分	授業科目	配当 年次	単位数		単位当り の時間 数	履修方法 及び 卒業要件	13	21	40						23						97												
			必修	選択																													
IV 主専攻科目	健康維持増進支援	母性看護学概論	2秋	2	15										○																	2	
		母性看護学	3春	2	15											○																2	
		母性看護学実習	3秋4春	2	45																	○										2	
		地域精神保健福祉と看護	3春	1	15												○	○														1	
		健康教育学	2秋	1	15							○	○	○	○	○	○	○														2	
		家族看護学	4秋	1	15							○	○	○	○	○	○	○														1	
		公衆衛生看護技術論	4春	2	15																												
		公衆衛生看護学概論	2春	2	15																											2	
		行政保健師活動論	3春	2	15																												
		産業保健看護学	3春	2	15											○																	
		産業保健看護学実習	3秋4春	1	45																												
		行政保健師実習	3秋4春	4	45																												
	看護の統合	保健医療パートナーシップ総論	1秋	1	15																											1	
		看護管理論	4春	1	15																											1	
		国際看護論	2春	2	15																												
		看護情報学	2・3春	1	15																												
		医療経済学	2・4秋	1	15																												
		看護教育学	4秋	1	15																												
		国際コミュニケーションA(国内)	2春	1	30																												
		国際コミュニケーションB(ハワイ)	1・2春	1	30																												
		国際看護基礎演習A	2・3秋	1	30																												
		国際看護演習A(デンマーク)	2・3秋	2	30																												
		国際看護基礎演習B	3秋	1	30																												
		国際看護演習B(メイヨ)	3秋	2	30																												
		保健医療パートナーシップ演習	2秋	1	30																											1	
		救急・災害看護論	4秋	2	15																												
		退院支援・在宅ケアマネジメント論	4春	2	15																												
		公衆衛生看護管理論	4秋	1	15																												
		統合実習	4春秋	2	45																										○	1	
		看護研究概論	3春	1	15																												1
		専門看護ゼミナール	4春秋	2	30																												2
小計						81 (選択4単位を含む)	0	13	45						23						81 (選択4単位を含む)												
卒業要件単位数(合計)						125	24	33	45 (選択科目4単位を含む)						23						125												
指定規則に対する増単位数							11	12	5						0						28												

資料 2 学校法人東海大学教職員定年規程

(制定 昭和28年 6 月 1 日)

改訂	昭和43年 4 月 1 日	昭和63年 4 月 1 日
	1991年 6 月17日	1994年 4 月 1 日
	2000年 4 月 1 日	2003年 4 月 1 日
	2004年 4 月 1 日	2006年 4 月 1 日
	2007年 4 月 1 日	2011年 4 月 1 日
	2012年 4 月 1 日	2013年 4 月 1 日
	2017 年 4 月 1 日	

第 1 条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資 格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職 1 種・2 種	65
			中級職 1 種・2 種	62
			一般職 1 種	62
		助教諭	一般職 2 種	60
	2004 年 4 月 1 日以 後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職 1 種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1 等級～ 4 等級	65
			5 等級～ 7 等級	62
			8 等級以下	60

	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65
			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

資料3-1 医学部看護学科 履修モデル 看護師

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
Ⅰ 現代文明論科目				○現代文明論	2												
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	○社会科学	2	○人文科学	2												
				○自然科学	2												
	発展教養科目	○地域理解	1	○シティズンシップ	1												
				○ボランティア	1												
	健康スポーツ科目	○健康・フィットネス理論実習	1														
				○生涯スポーツ理論実習	1												
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	○英語リスニング&スピーキング	2														
		○英語リーディング&ライティング	2														
	グローバル人材育成科目			○グローバルスキル	2												
				○アカデミック英語	2												
Ⅳ 主専攻科目		○表現技法の基礎	1	○人体の構造と機能2(解剖生理学)	2	○感染と防御	2	○薬理学	2	○在宅看護学概論	2	○小児看護学実習A(健康な小児の看護)	1	○看護管理論	1	○家族看護学	1
		○人体の構造と機能1(細胞生物学)	2	○保健医療情報学2(医療統計)	1	○公衆衛生学	2	○健康障害と栄養	1	○在宅看護学	2	○在宅看護学実習	2	○成人看護学実習	6	○専門看護ゼミナール	2
		○看護の基礎理科	1	○看護コミュニケーション論	1	○社会保障論	1	○保健医療関係法規	1	○小児看護学演習	1	○小児看護学実習B(健康障がいのある小児の看護)	1	○母性看護学実習	2	×人間工学	1
		○栄養と代謝	1	○ヘルスアセスメント	2	○保健医療福祉行政論	1	○成人老年看護学概論B	1	○老年看護学演習	1	○老年看護学実習A(健康障害を持つ高齢者の看護)	3	○統合実習	2	×救急・災害看護論	2
		○健康科学論	1	○基礎看護技術演習	2	○看護過程論	1	○臨床看護技術演習2(薬物療法・検査)	1	○成人看護学演習	2	○老年看護学実習B(施設で生活する高齢者の看護)	1	×臨床工学	1	×看護教育学	1
		○保健医療情報学1(情報科学)	1	○精神看護学概論	1	○成人老年看護学概論A	1	○疾病と看護D(神経・運動器)	2	○精神看護学	2	○精神看護学実習	2	×公衆衛生看護技術論	2	×公衆衛生看護管理論	1
		○看護学概論	1	○基礎看護学実習1(看護の対象理解)	1	○小児看護学概論	1	○疾病と看護E(代謝・免疫・感覚器)	3	○母性看護学	2	×国際看護基礎演習B	1	×退院支援・在宅ケアマネジメント論	2		
		×生活環境論	2	○保健医療パートナーシップ総論	1	○臨床看護技術演習1(治療・処置)	2	○疾病と看護F(周手術期)	2	○地域精神保健福祉と看護	1	×国際看護演習B(メ3)	2				
		×国際コミュニケーションB(ハワイ)	1			○疾病と看護A(消化器)	2	○小児看護学	2	○看護研究概論	1						
						○疾病と看護B(呼吸器・循環器)	2	○母性看護学概論	2	×ENGLISH OF NURSING STUDY ABROAD	1						
						○疾病と看護C(腎・泌尿器・皮膚)	2	○健康教育学	1	×保健医療行動学	1						
						○公衆衛生看護学概論	2	○保健医療パートナーシップ演習	1	×疫学	2						
						○基礎看護学実習2(生活援助)	2	×医療経済学	1	×行政保健師活動論	2						
						×国際看護論	2	×国際看護基礎演習A	1	×産業保健看護学	2						
								×国際看護演習A(デンマーク)	2	×看護情報学	1						

資料3-3 医学部看護学科 履修モデル 看護師・養護教諭1種

[illegible]

資料4 学術雑誌所載一覧

医学部看護学科

No.	誌名
1	Expert Nurse
2	ICNR : intensive care nursing review
3	Infection Control
4	JJNスペシャル : A to Z nursing
5	Neonatal Care
6	Nursing Business
7	Nutrition Care
8	Ope Nursing
9	Uro-Lo : 泌尿器care&cure
10	安全衛生のひろば
11	安全と健康
12	エマージェンシー・ケア
13	エンド・オブ・ライフケア
14	隔月刊こどもケア
15	家族看護学研究
16	家族療法研究
17	看護
18	看護学生
19	看護技術
20	看護実践の科学
21	看護展望
22	看護のチカラ
23	看護白書
24	緩和ケア
25	学校保健研究
26	眼科ケア
27	がん看護
28	救急看護ケア・アセスメントとトリアージ
29	クリニカルスタディ
30	継続看護時代の外来看護
31	健康管理
32	健康づくり
33	月刊ナーシング
34	月刊ナースマネジャー
35	高齢者のケアと行動科学
36	呼吸器ケア
37	呼吸・循環ケア
38	コミュニティケア
39	産業衛生学雑誌
40	産業保健と看護
41	死の臨床
42	社会福祉学
43	週刊社会保障
44	周産期医学
45	手術看護エキスパート
46	主任看護師 : 管理・教育・業務
47	重症集中ケア
48	循環器ナーシング
49	消化器外科nursing
50	小児看護
51	助産師
52	整形外科看護
53	精神医療
54	精神科看護
55	精神保健福祉
56	地域保健
57	地域連携 : 入退院支援
58	千葉看護学会会誌
59	チャイルドヘルス
60	透析ケア
61	糖尿病ケア
62	ナーシングケアQ&A

No.	誌名
63	ナース専科 Nurse senka
64	難病と在宅ケア
65	日本看護学教育学会学術集会講演集
66	日本看護学教育学会誌
67	日本看護技術学会誌
68	日本救急看護学会雑誌
69	日本災害看護学会誌
70	日本在宅ケア学会誌
71	日本精神保健看護学会誌
72	日本褥瘡学会誌
73	日本地域看護学会誌
74	日本難病看護学会誌
75	日本認知症ケア学会誌
76	ハートナーシング
77	ブレイン・ナーシング
78	プチナース
79	プロフェッショナルがんナーシング
80	へるすあっぷ21
81	ペリネイタル・ケア
82	保健の科学
83	ホスピスケアと在宅ケア
84	リハビリナース
85	臨床栄養
86	臨床助産ケア：スキルの強化
87	臨床薬理
88	臨床老年看護
89	老年看護学
90	老年精神医学雑誌
91	Journal of Occupational Health
92	Nursing Times : NT

プリントジャーナル 国内 90種 国外 2種

資料5 看護師・保健師 実習施設一覧

施設名	所在地	受入可能人数												
		基礎看護学実習1 （看護の対象理解）	基礎看護学実習2 （生活援助）	小児看護学実習A （健康な小児の看護）	在宅看護学実習	小児看護学実習B （健康障がいのある小児の看護）	成人看護学実習	老年看護学実習A （健康障害を持つ高齢者の看護）	老年看護学実習B （施設で生活する高齢者の看護）	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実習	行政保健師実習	産業保健看護学実習
東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	85				85	85			45		29		
東海大学医学部付属東京病院	東京都渋谷区代々木1-2-5							6				6		
東海大学医学部付属大磯病院	神奈川県中郡大磯町月京21-1		11					40				6		
東海大学医学部付属八王子病院	東京都八王子市石川町1838		16							20		7		
独立行政法人国立病院機構 神奈川病院	神奈川県秦野市落合666-1		15											
独立行政法人国立病院機構 相模原病院	神奈川県相模原市南区桜台18-1		16											
厚木市立病院	神奈川県厚木市水引1丁目16番36号		16											
大和市立病院病院	神奈川県大和市深見西8丁目3番6号		11											
東京通信病院	東京都千代田区富士見2-14-23							18						
鶴巻温泉病院	神奈川県秦野市鶴巻北1-16-1							21						
晃風園	神奈川県大和市草柳2-15-1								6			3		
晃風園ぬくもり	神奈川県大和市深見1736-2								9			3		
湘南老人ホーム	神奈川県秦野市下大槻1169-2								14					
たまぐら一ざ倶楽部	神奈川県横浜市青葉区元石川町3697-1								30			4		
らんの里	神奈川県伊勢原市沼目6-1257								12					
医療法人徳州会湘南藤沢徳州会病院	神奈川県藤沢市辻堂神台1丁目5-1									20				
医療法人社団青木末次郎記念会相州病院	神奈川県厚木市上荻野1683-3										55	9		
公益財団法人積善会 曽我病院	神奈川県小田原市曽我岸148										30			

資料5 看護師・保健師 実習施設一覧

[illegible]

資料5 看護師・保健師 実習施設一覧

[illegible]

○○○○○病院

病院長 殿

東海大学医学部長

貴院にて病院実習を行う看護学生の抗体価について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学の教育に関しまして、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴院にて実習を行う学生の抗体価（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）ならびにワクチン接種状況を別紙資料の通りご報告させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先：〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

東海大学医学部看護学科

学科事務宛て

TEL：0463-93-1121（内線 4029）

FAX：0463-93-1157

担当教員連絡先： 東海太郎

TEL：0463-90-1111

e-mail：・・・・@tokai-u.jp

実習学生の抗体価ならびにワクチン接種状況の詳細

1. 実習施設

〇〇〇〇病院

2. 実習名

〇〇〇〇看護学実習

3. 対象となる学生（〇〇名）

陰性 2.0 未満、偽陽性 2.0～3.9、陽性 4.0 以上

学籍番号	名前	風疹 IgG (EIA 価)	麻疹 IgG (EIA 価)	水痘 IgG (EIA 価)	ムンプス IgG (EIA 価)
〇B 1111	東海太郎	16	32	8	16
〇B 1112	東海花子	4	64	8	8
・ ・ ・	・ ・ ・				

4. 陰性者のワクチン接種状況

学籍番号	名前	風疹	麻疹	水痘	ムンプス
〇B 1112	東海花子	13.5.16 接種	非該当	非該当	非該当
・ ・ ・	東海伊勢原	非該当	非該当	13.5.16 接種	非該当
・ ・ ・					

上記相違ございません。

東海大学医学部看護学科
担当教員：東海太郎

看護学実習要項

学生証番号：

氏 名：

東海大学

医学部看護学科

2018年発行

目 次

I.	臨地実習の目的.....	1
II.	臨地実習の目標.....	1
III.	実習方法.....	1
IV.	実習評価.....	4
V.	倫理的事項.....	4
VI.	実習を行うにあたっての留意事項.....	6
VII.	感染予防と感染症が発生した場合の対応.....	9
VIII.	事故防止と事故発生時の対応.....	15
IX.	緊急時の連絡系統.....	17
	臨地実習にあたっての受け持ち患者様への説明事項.....	18
	ヒヤリ・ハットレポート 東海大学医学部看護学科.....	19
X.	臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準.....	21

この看護学実習要項には、東海大学医学部看護学科の学生として、実習を行う上で理解しておくべきことや、注意しなければならないことが記載されています。また、この要項とは別に、実習科目毎に「実習要項」が配布されますので、実習にあたってはこれらを熟読し、実習効果をあげるために活用してください。

I. 臨地実習の目的

看護の対象に看護理論や技術を活用し、実践を通して看護の本質を探究する。

II. 臨地実習の目標

1. あらゆる健康レベル・発達段階にある人々に対する基本的な看護実践能力を養う。
2. 事象や現象を正しく判断していくためのクリティカル・シンキングの能力を養う。
3. 看護の対象を包括的に捉え、対象の変化に対応した看護援助ができるような応用力を養う。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として行動する意識や態度を養う。
5. 多様な価値観をもつ人間を尊重し、倫理的判断に基づく行動をとるための能力を養う。
6. 対人関係を通して自己理解を深める。

III. 実習方法

1. 実習時期・期間・場所

表1「セメスター別実習構成表」(p.2)を参照。

2. 実習科目別実習方法

各実習科目についての実習方法は、各実習科目から提示される「実習要項」を参照。

各実習科目の「実習要項」は、実習開始時期のセメスターに配布。

表 1 セメスター別実習構成表

セメスター	実習科目	時期	期間	単位	実習場所	ケアの対象	実習目的
2	基礎看護学 実習 1 (看護の対 象理解)	2 月	1 週間	1	・ 病院	・ 入院患者	看護の場における対象の生活を 理解し、保健医療チームや看護の役 割を学ぶ。
3	基礎看護学 実習 2 (生活援助)	8 月下旬 ～9 月上旬	2 週間	2	・ 病院	・ 入院患者	日常生活行動の援助を看護のプロ セスを通じて、実践の中で学 ぶ。
6	小児看護学実習 A (健康な小児の看 護)	9 月～10 月 1 月	1 週間	1	・ 保育園 ・ 幼稚園	・ 保育園児 ・ 幼稚園児	(対象である)健康な子どもを理解 し、日常生活援助の方法を学ぶ。
6 ・ 7	成人看護学実習	実習配置表 に従い 各領域をロー テーションで実施す る。 (後日配付)	6 週間	6	・ 高度医療 ・ 専門ケア施設 ・ 病院	・ 入院・外来患者	成人期・老年期にある対象を統合 的存在として理解し、健康問題解 決のための具体的な援助方法を 習得する。
	小児看護学実習 B (健康障がいのある小児の看護)		1 週間	1	・ 病院	・ 健康障害のある 子どもとその家族	健康障害のある子どもとその家 族に対する看護を理解する。
	母性看護学実習		2 週間	2	・ 病院	・ 妊婦、産婦、褥婦 及び 新生児とその家族	女性の性と生殖にかかわる特性 を実践の中で学び、家族中心の妊 産褥婦及び胎児・新生児の看護を 理解する。
	精神看護学実習		2 週間	2	・ 病院 ・ 地域事業所	・ 精神保健上の問題を 抱えている人びと ・ 精神障害を基にして 生活上の困難を抱 えている人びと	精神障害者の特性および生活上 の困難を理解し、学生が自らの資 質を生かしながらかかわることを 学ぶ。
	老年看護学実習 A (健康障害を持つ 高齢者の看護)		3 週間	3	・ 病院	・ 入院患者 (高齢者)	看護実践を通して疾病や障害を 持つ高齢者の特性を理解し、老年 看護のあり方を考える。
	老年看護学実習 B (施設で生活する 高齢者の看護)		1 週間	1	・ 介護老人福祉 施設	・ 施設入所高齢者	施設で生活している高齢者と関 わる中で高齢者の理解を深めると ともに、高齢者の暮らしを支える 生活支援のあり方を考える。
	産業保健看護学実 習(選抜者のみ)		1 週間	1	・ 事業場	・ 働く人びと	産業保健活動・産業看護活動につ いて、体験を通して理解を深め る。
	行政保健師実習 (選抜者のみ)		4 週間	4	・ 市町村 ・ 保健所	・ 地域で生活している あらゆる発達段 階・健康レベルの人 びと	地域保健活動についての体験を 通して理解を深める。
	在宅看護学実習		2 週間	2	・ 訪問看護施設 ・ 診療所	・ 在宅で療養する療養 者とその家族	訪問看護活動について体験を通 して学ぶ。
7・8	統合実習	6 月上旬～ 10 月下旬	2 週間	2	・ 病院 ・ 施設 ・ 事業所 他	・ 入院患者 ・ 施設利用者 ・ 在宅療養者 他	卒業時の看護技術到達度の確認、 他職種との連携について学ぶ。

3. 実習指導体制

実習指導は、大学教員と臨地実習指導者が連携をとりながら指導を行うが、それぞれの役割は以下の通りである。

<実習科目における教員と臨地実習指導者の役割>

大学教員	実習のプロセス	臨地実習指導者
①「実習要項」に基づき、効率のよい実習となるよう、関連機関との連絡や調整を行う。 ②学生の学習到達レベル（知識、技術、態度を含む）を確認する。 ③「実習要項」に基づき、学内で実習の詳細について説明を行う。	1)実習準備 2)科目別実習ガイダンス	①大学の実習目的・目標をスタッフへ伝達し、円滑な実習となるよう、調整を図る。（環境整備や物品の準備を含む）。
①学生個々の能力や特性・レディネスを把握し、対象の選定について実習指導者と十分に相談を行う。 ②学生にリストアップされた対象を提示し、学生が受持ち対象を決定する際に助言を行う。	3)受け持ち対象の決定	①実習目標に適した対象を教員と十分に相談した上でリストアップし、提示する。 ②学生の受け持ちとなる対象をスタッフに伝達する。 ③家族を含む対象に、学生が受け持つことについての了解を予め得る。
①学生がその実習段階や領域における自己の課題を明らかにすることができるよう助言を行う。	4)実習オリエンテーション	①施設・設備に関するオリエンテーションを行う。 ②学生をスタッフや対象に紹介し円滑な実習になるよう対人関係面での調整を図る。
①情報源や情報収集の方法について助言を行う。	5)受け持ち対象に関する情報収集	①対象の情報収集に関する学生の質問に対し、助言を行う。
①行動計画が学習目標および対象者の看護目標と一致しているかどうかを判断し、指導や助言を行う。	6)行動計画の立案と発表	①行動計画が対象に適しているかを判断し、助言を行う。 ②施設のシステムを前提とした計画立案のために、業務に関する情報などを提供する。
①直接・間接ケアに関して指導や助言を行うと共に、役割モデルとなる。 ②実習における学習過程で問題を発見・把握した場合は、指導や助言を行う。	7)看護の実現場面	①直接・間接ケアに関して助言と援助を行うと共に、役割モデルとなる。 ②実習における看護過程で問題を発見・把握した場合は、教員と共に指導や助言を行う。 ③チームの一員として活動できるように調整を行う。
①実習全般に関する記録の確認と助言を行う。 ②実習終了時の最終的なレポートを受け取る。	8)記録と報告	①対象に関する報告事項および看護記録への記載の確認と助言を行う。
①カンファレンス・事例報告会の計画、運営に関する指導や助言を行う。 ②資料の作成と必要物品の準備の際に、指導や助言を行う。	9)カンファレンス・事例報告会	①カンファレンス・事例報告会への協力や参加を行う。
①実習についての評価を加え、評点化を行う。 ②最終的な単位認定を行う。	10)評価	①実習の評価についての情報を提供する。

IV. 実習評価

1. 実習評価の意義

実習評価とは、看護の実践場面で学習した成果を実習目標と照らし合わせて、総合的に判断し、示したものである。すなわち、各実習目標に掲げられている目標の達成度を確認し、課題を明確にして、その後の学習を効果的に進める上で不可欠なものである。

2. 評価基準

〔成績の評価〕

「学修に関する規則第2章第18条」による	90点以上 100点	:S
	80点以上 89点以下	:A
	70点以上 79点以下	:B
	60点以上 69点以下	:C
	59点以下	:E (不合格)

3. 評価の方法

- 1) 評価方法はそれぞれの実習科目によって異なる。具体的な評価内容は、各実習科目別「実習要項」を参照すること。
- 2) 評価の評定は、東海大学学修に関する規則第2章第17条(単位認定)、第18条(成績評価)に則って行われる。E評価を受けた場合には、次年度再履修する。

V. 倫理的事項

看護学生は臨地実習において責任ある行動をとることが求められる。看護師として責任ある行動とは何か、責任ある行動をとるためにはどのようにふるまうことが求められるのか、そのようにふるまうことの価値は何かなどについて「考えること」、責任ある行動をとるために「実際に決断すること」である。これらの能力は、臨地という現場でより深く学ぶことが可能である。さまざまな倫理的判断を必要とする場面やジレンマを感じる場面に遭遇した場合には、臨地実習指導者や教員に相談するとともに、カンファレンスで取り上げて積極的に取り組む姿勢が必要である。

1. 学修姿勢

- 1) 看護学生としての立場であっても、保健・医療・福祉チームの一員であるという自覚をもって行動する。
- 2) 自分の言動に責任を持ち、自らの判断をしっかりと表現することを大事にする。ただし、自己判断や学生同士の判断のみで行動せず、教員・臨地実習指導者等の指導のもとに実習を行う。(「実習科目における教員と臨地実習指導者の役割」p.3 参照)
- 3) 実習中に遭遇した出来事に対してその意味や関係性に関心を払い、疑問点については自問と同時に文献検索や教員・実習指導者等に対して質問を行う。
- 4) 講義や演習で学習した知識や技術が、実際の看護の場面でどのように活用可能かを自らの体験を通

して考える。

5) 既存の定説にとらわれない柔軟な思考を大切にする。

2. 受け持ち対象者への説明と同意

1) 実習にあたっては、受け持ち対象者へ受け持たせていただくことの説明と同意が必要である。

2) 実習施設により実習内容が異なるので、説明の方法については実習先と指導教員が調整して行う。

「臨地実習にあたっての受け持ち患者様への説明事項」 p.17 参照。

3. 援助の実施

対象者の人格を尊重した態度で接し、対象者の権利を侵さないよう十分配慮する。(患者の権利の尊重)

4. 看護記録について

施設が管理している書類について、原則として学生は記述及び署名は行わない。

5. 実習上知り得た個人情報の取り扱いについて

現在、個人情報の取り扱いに関わる制度は、以下のようにある。

個人情報の保護に関する法律の制定 (2005 年施行、2009 年 法律第 49 号 : 最終改正)

看護記録および診療情報の取り扱いに関する指針 (2005 年)

保健師助産師看護師法 第 42 条の 2 (2001 年追加)

医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン (2010 年)

したがって実習では、受け持ち対象者の個人情報を扱うため、以下の点に十分注意し取り扱う。

1) 実習中に得た個人情報は漏らさない。SNS への書き込みは絶対にしてはならない。

2) 実習施設にある対象に関する記録は指定された場所でのみ見る。

3) 実習記録・メモ類は実習場所の内外を問わず、学生が責任を持って管理し紛失しない。

4) 実習記録・メモ類には対象が特定されないよう匿名化して記述する(具体的な記述方法は、各実習領域の教員の指示に従う)。

5) 実習終了後の実習記録、レポート類の取り扱いについては、各実習領域の教員の指示に従う。

6) 対象について討議する場合は、指定された場所・メンバーで行う。

《参考文献・資料》

・ 日本看護協会監修『新版 看護者の基本的責務(定義・概念／基本法／倫理)』日本看護協会出版会,2006.

・ サラ T. フライ『看護実践の倫理』日本看護協会出版会, 1988.

VI. 実習を行うにあたっての留意事項

1. 連絡報告事項

- 1) やむを得ず、遅刻・欠席・早退をする場合。
- 2) 実習時間内に実習場所を離れる場合。
- 3) 医療事故や器物の破損、紛失などの問題が生じた場合。
- 4) 判断・対応に困った場合。

2. 健康管理

- 1) 下記の理由により、実習の時期、場所、方法などに特別な配慮を必要とする場合は、事前に実習担当教員または指導教員に申し出ること。

理由：アレルギー体質、病気、けが、妊娠・出産・育児、身体機能制限など

- 2) 体調が不良なときは、早めに申し出て対処する。

保険証(またはコピー)および学生証を実習場所へ持参する。

3. 抗体検査およびワクチン接種について

実習を行うに当たり麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体検査結果およびワクチンの接種歴の提出を求められる施設があるため、要求された場合は提出できるようにしておくこと。入学時の健康診断にて上記 4 疾患の抗体価を測定しており、この結果はキャンパスライフエンジン内にある保健情報システムから閲覧（閲覧方法は別紙参照）、プリントアウト可能となっている。また、抗体検査の結果、抗体価が陰性である疾患がある学生は健康推進室の指示に従い、ワクチンを接種しておくことが望ましい。上記 4 疾患の抗体価が陰性でワクチンを未接種であった場合は、実習に参加できなくなる病院／施設があるため十分に注意すること。

注意事項：上記 4 疾患のワクチンはいずれも生ワクチンであるため、ワクチン接種から一定の期間は抗体を保有していない者に罹患させる恐れがある。抗体保有者の少ない領域の実習（小児看護学実習 A 及び B、母性看護学、在宅看護学、行政保健師実習）には原則参加できない。ワクチン接種する者は低学年（1～2 年）次に接種しておくこと。なお、ワクチン接種後 2 か月間は妊娠を避けるように十分注意する。

4. 実習時の身だしなみについて

実習時の身だしなみについては原則として以下の通りとし、清潔感のあるものとする。その他については領域の指示に従うこと。

1) ユニフォーム着用時の髪型

(1) 長さ・髪型

- ① 男女ともに、短髪は肩につかない長さにし、頭部の形に沿わせるように整える。
- ② 長髪は後頭部に乱れないように工夫してコンパクトにまとめる。
- ③ 顔を下に向けた時にサイドの髪が落ちないようにする。
- ④ 前髪は眼にかからないようにする。

(2) 原則としてヘアピンは使用せず、整髪剤を使用して頭髮が乱れないように整える。やむを得ずヘアピンを使用しなくてはならない場合は、黒いスナップピンを使用し、地肌に留める。

(3) 髪の色は黒またはダークブラウンとする。

スナップピン



2) アクセサリー

すべて禁止とする。

(華美なデザインの眼鏡やカラーコンタクトも不可)

3) ユニフォーム

(1) ユニフォーム着用時は、ロッカー室内で常に髪型・靴まですべて整える。

(2) 大学指定のユニフォームを着用する場合は以下の通りとする。

- ① 青ケーシーと、白のパンツ(キュロット可)。
- ② 青ビブエプロンと、白で飾りのない襟付きワンピースまたはツーピース。

(3) ユニフォーム着用時の下着は色・柄物に注意して着用する。

(4) ユニフォームのパンツの裾は全周を床につかない長さに白い糸で縫い上げる。

(5) 靴下は、パンツスタイルの場合、肌色のストッキングまたは無地の白のソックスを着用し、それ以外は肌色のストッキングを着用する。なお、靴下は、脛部を十分覆える長さのものとする。

(6) 寒い時期の防寒着は、黒・紺・グレー・白のカーディガンとする。防寒着の着用可能区域については、各領域の実習の指示に従う。なお、長袖Tシャツの上に半袖のユニフォームを重ね着することは認めない。

【注意】 外傷もしくは皮膚疾患があり血液や体液の浸出が認められる場合は、被覆保護材にて創部を覆うこととするが、保護材がユニフォームの外にはみ出していて目立つ場合のみ、白い長袖Tシャツの着用を認める。長袖Tシャツ着用の可否の判断は各実習の科目責任者と相談すること。

(7) ナースシューズは白で足全体を被い、機能的で、歩行時に音のしないものを選び、実習専用とする。

4) 化粧その他

(1) 化粧をする場合は薄化粧とする。

(2) つけまつげなど清潔区域に落下する可能性のあるものは、使用を禁止する。

(3) 男子学生は髭を剃る。

5) 外部実習および移動時の服装

- (1) 原則としてスーツを着用する。
- (2) 靴は足全体を被う革靴とする。

5. その他

- 6) 実習に必要な持ち物以外は実習場所に持参しない。
- 7) 実習施設では身だしなみや言葉遣いに配慮する(TPO をわきまえる)。
- 8) 対象およびその家族からの金品は一切受け取らない。
- 9) 対象およびその家族に学生の住所や電話番号、メールアドレス等を伝えない。
- 10) 実習は指定された時間内に行うことを原則とする。
- 11) 学生が直接、対象やその家族と電子媒体や電話、ファックス等による情報交換を行わない（対象や家族が医療情報を誤解した場合、学生の責任能力を超える重大な事態になる可能性があるため）。
実習時間以外に対象と接触をもつ必要が生じた場合は、事前に実習担当教員・臨地実習指導者に相談をする。

VII. 感染予防と感染症が発生した場合の対応

学生の対応

1. 感染症予防行動および適切な个人防护具の装着

マスク、ゴーグル、エプロンを適切な場面で装着し、入院患者や施設の利用者と接した際には手洗い（手指衛生）を必ず実施する。

【注意】 学生自身の血液や体液を他者（学習対象者）に伝播させないために个人防护具／それに準じるものを装着するケースもある。遵守できない場合はケアに参加できないこともあるので、留意する。

2. 手洗い、うがい、規則正しい生活、バランスのとれた食事等の個人衛生に留意し、健康管理に努める。 混雑場所への外出は極力ひかえ、食中毒等が懸念されるような飲食物の摂取にも注意する。

3. 学習対象者および学生自身の感染防御のために、常にユニフォームは清潔なものを着用する。

1) 臨地実習で身につけたユニフォームを、自宅で洗濯する場合は、他の洗濯物と別に扱う。

ユニフォームへの血液汚染、吐物汚染等を防ぐために、ディスポエプロンの着用をする。万が一汚染した場合は、クリーニングに出すことが望ましい。やむを得ず自宅で洗濯する場合は、手袋を装着し汚染部分を流水で洗った後、95 度の熱湯にすべての汚染部分を 15 分以上浸ける。その後、他の洗濯物とは別に洗濯する。

2) 学内のクリーニングシステムを活用する場合は以下の手順をふむ。

3 号館地下 2 階のランドリーボックスに入れる→ノートに記入→出来上がったら 5 号館地下 1 階のクリーニング店で受け取る。

4. 感染症が疑われた場合の対応

発熱、咳嗽、悪寒、吐き気、嘔吐、下痢症など感染症が疑われる症状のある学生は速やかに担当教員へ申し出て、指導教員の指示に従うこと。なお、実習場にて指導教員の指示を仰ぐ学生は必ずマスクを装着して施設へ向かうこととする。

5. 感染症が確認された場合の対応

学生は以下 7-1)の情報連絡ラインを参考に実習担当教員および健康推進室に連絡を行う。

学校保健安全法（p13）に記載のある疾患およびそれ以外の感染性疾患に罹患した場合も、実習場所への報告が必要となるため、情報連絡ラインで必ず報告を行う。治癒と診断された場合でもウイルスを排出している場合や接触者を確認する必要があるため、必ず報告すること。

過去の報告例：ヘルペス、伝染性膿痂疹（とびひ）、感染性胃腸炎（下痢症腸炎）、インフルエンザ、細菌性肺炎（マイコプラズマなど）、手足口病、流行性角結膜炎（麦粒腫などの疑い例を含む）

6. 血液、体液（吐物・唾液等）に直接触れた時、あるいは飛沫が飛んだ時の対応

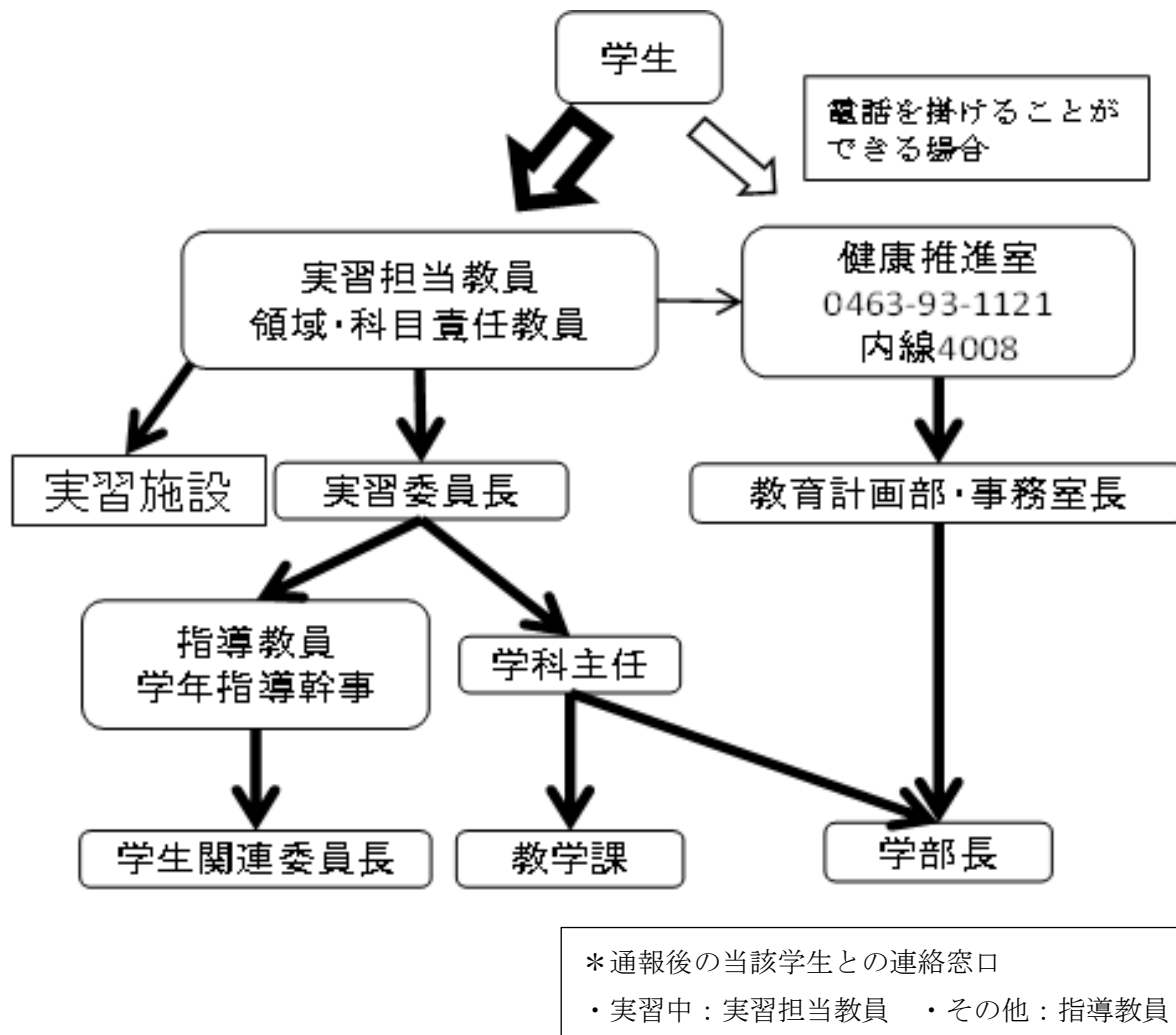
学生は以下 8-1)の情報連絡ラインを参考に実習担当教員および健康推進室に連絡を行う。

教員の対応

7. 学科内感染症者が発症した場合の連絡対応マニュアル

教員は学生から感染症が発症した連絡が入った場合には、以下の項目を参照して対応する。

1) 情報連絡ライン



2) 対応マニュアル

(1) 連絡を受けた実習担当教員の対応

学生に健康推進室[0463-93-1121(内線 4008)]に電話連絡をしたかどうかを確認すると同時に、以下の状況を把握する。

<確認事項>

- ① 発生時の経緯(感染源と考えられる場所・出来事・発症日時と経過)
- ② 現在の症状
- ③ 発症前後に濃厚接触のあった本学学生の有無と学年・氏名
- ④ 医療機関受診の有無、診断結果、治療状況、外出自粛期間

(2) 実習担当教員または指導教員の対応

- ① 上記項目について連絡をうけた教員から情報を得た後、必要なら当該学生と連絡を取り、できる限り速やかに上記(1)の確認事項及び指示事項について報告書「緊急連絡票」*に記入し学科主任に提出する(学科主任不在時は学生関連委員長または実習委員長に提出)。

*「緊急連絡票」は、Webの学園コミュニティ⇒プロジェクト・委員会⇒緊急対応マニュアル(危機管理委員会)の項に保存してある。

- ② 濃厚接触可能性のある学生に連絡し以下の指示を出す。
インフルエンザの場合は、p.13の「インフルエンザの場合の対応原則」に従う。その他の場合は、潜伏期間や症状に応じて指導教員または実習担当教員が指示を出す。
- ③ 指示を出した後は当該学生や他の学生の情報入手に努め、実習委員長(不在時は学科主任)に報告する。

(3) 感染拡大防止の対応(実習担当教員、実習科目責任者、実習委員長、学年指導幹事)

<実習担当教員>

- ① 実習科目同一グループ学生の健康状況の情報確認を行う。
- ② 実習施設への状況説明と対応を行い、当該実習科目責任者に報告する。
- ③ 大学側の対応方法の連絡を受け、実習施設に対し説明を行う。

<実習科目責任者>

- ① 実習担当教員と情報確認を行い、実習委員長に報告する。
- ② 大学側の対応方法の連絡を受け、実習担当教員と実習施設への説明を行う。

<実習委員長>

- ① 実習科目責任者(実習担当教員含む)との連絡を密に取り、学科主任に報告するとともに、感染拡大防止のために健康推進室と対応方法について協議する。
- ② 必要時、学科主任と学部長に報告および対応方法を協議する。
- ③ ①と②の協議の結果、対応が必要な事案になった場合、直ちに関連する教員(実習科目責任者あるいは実習担当教員、学年指導幹事あるいは指導教員)に対応方法について連絡する。

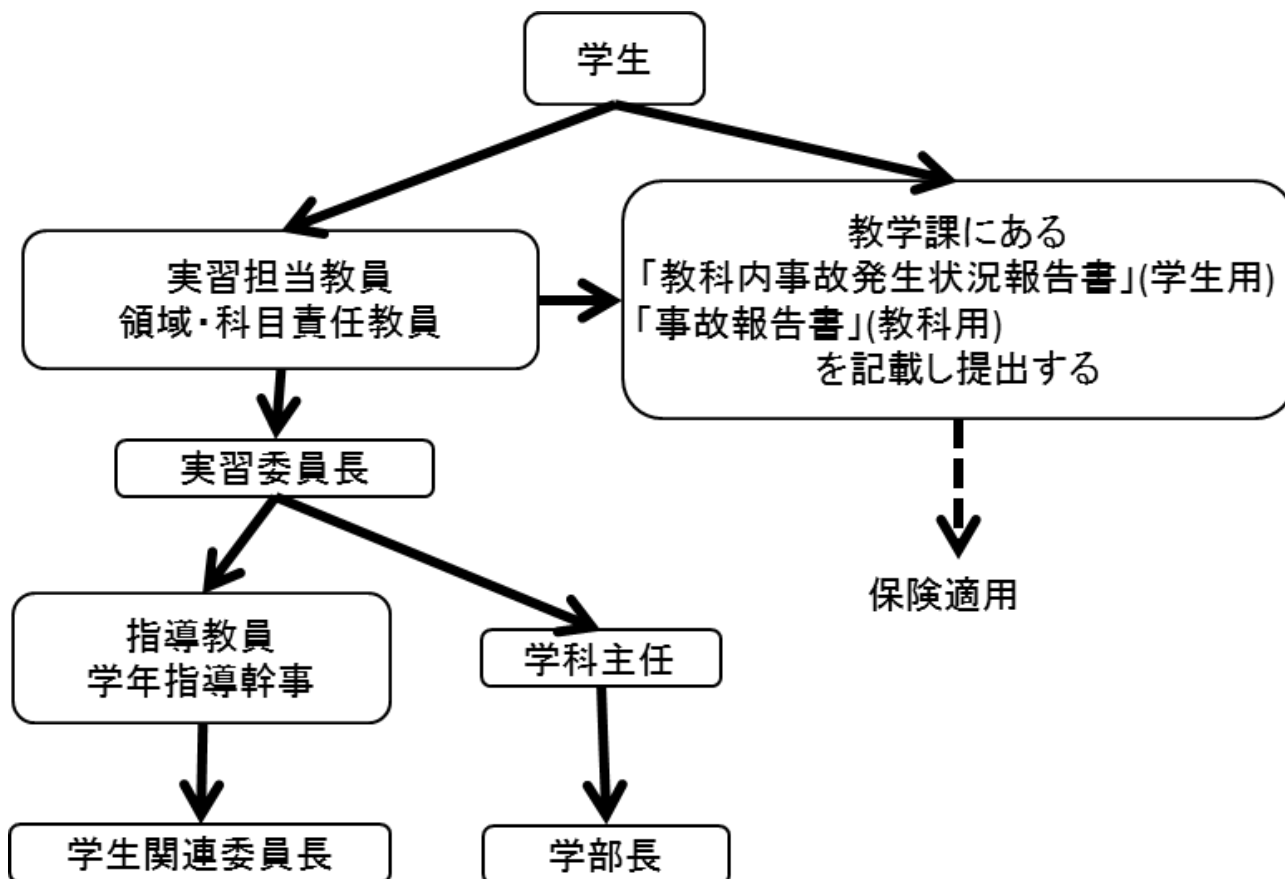
<学年指導幹事>

- ① 学生への注意喚起および対応方法について指導教員に連絡し、学生に情報を伝える。

8. 針刺し等体液暴露対応マニュアル

教員は学生から、針刺し事故または患者の血液や体液等に暴露（可能性も含む）したとの報告があった場合には、以下の項目を参照して対応する。

1) 情報連絡ライン



2) 対応マニュアル

(1) 連絡を受けた実習担当教員の対応

7-2)-(1)の＜確認事項＞に沿って情報収集する。

(2) 実習担当教員または指導教員の対応

- ① 学生が患者の血液や体液に暴露したもしくはその可能性のある場合、速やかに実習施設の実習指導者、および責任者に報告し施設の指示に従う。
- ② 伊勢原校舎外での実習において血液や体液等に暴露(可能性を含む)した場合、感染の有無確認のため速やかに医療機関を受診し、フォローを依頼する。別途、教学課に申し出、教科内事故報告書(教科用と学生用)を記載する。報告書の承認後保険適用となる。

看護学実習時の健康観察

前 週	月日	/	/	/	/	/	/	
	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	
	体調 管理	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()
	月日	/	/	/	/	/	/	
	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	
	体調 管理	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()
	月日	/	/	/	/	/	/	
	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	
	体調 管理	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()
	月日	/	/	/	/	/	/	
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃		
体調 管理	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	☐ 発疹 ☐ 咳 ☐ 下痢 ☐ 嘔気 ☐ 腹痛 ☐ その他 ()	

*この用紙は、各領域ガイダンス等で適宜配布される。教員の指示に従って活用すること。

インフルエンザの場合の対応原則

I	(37.5℃以上)発熱している 発熱していなくても疑わしいインフルエンザ様症状があった場合	・実習施設には行かず、自宅で自己隔離を徹底する。 ・またその事実を速やかに実習指導教員へ連絡する。 ・伊勢原健康推進室 電話 0463-93-1121 内線 4008 に速やかに連絡する。 ・健康推進室の対応に従って受診し、医師の指示に従い療養する。 ・インフルエンザを発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで、登校を見合わせる。
II	同居者に症状がある場合	・その事実を速やかに実習指導教員へ連絡する。 ・学生に発熱がなく、インフルエンザ様症状がなく、体調が良いことを確認できた場合には、常時サージカルマスクを着用し、手指衛生を徹底して実習を行う。 ・自宅ではなるべく発症した家族と同室を避け、感染しないように気をつける。
III	グループ内の学生に症状がある場合	・その事実を速やかに実習指導教員へ連絡する。 ・同グループ内の他学生については、発熱がなく、インフルエンザ様症状がなく、体調が良いことを確認できた場合には、サージカルマスクを着用し、手指衛生を徹底して実習を行う。

学校保健安全法施行規則 第3章 第18条、19条より抜粋

感染症の種類	第一種	エボラ出血熱、クリミアコンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)及び鳥インフルエンザ(病原体が H5N1 に限る)
	第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ H5N1 を除く)、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
	第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（マイコプラズマ感染症、ヘルペス・帯状疱疹、化膿性膿瘍[とびひ]、感染性胃腸炎[ノロウイルス、ロタウイルス 他]など)
出席停止の期間の基準	第一種	治癒するまで。
	第二種	以下の期間(結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く)。ただし、病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めたときは、その限りではない。 ① インフルエンザ(鳥インフルエンザ H5N1、及び新型インフルエンザ等の感染症を除く)にあつては、発病した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで。 ② 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。 ③ 麻疹にあつては、解熱した後 3 日を経過するまで。 ④ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。 ⑤ 風疹にあつては、発疹が消失するまで。 ⑥ 水痘にあつては、すべての発疹が痂皮化するまで。 ⑦ 咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後 2 日を経過するまで。
		結核及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染症の恐れがないと認めるまで。
		第一種もしくは第二種の感染症患者のある家に居住する者はまたは、これらの感染症にかかっている疑いがある者については、予防処置の施行の状況その他の事情により、学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。
		第一種または第二種の感染症が発生した地域から通学する者については、その発生状況により必要と認めたとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。
		第一種または第二種の感染症の流行地を旅行した者については、その状況により必要と認めたとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。

* 学生または実習指導教員の家族がインフルエンザ以外の上記に定める感染症を発症した場合、実習施設に報告し調整する。

VIII. 事故防止と事故発生時の対応

1. 実習時の事故の種類

- 1) 学生が対象に与えた医療事故
- 2) 学生が施設に与えた事故(器物破損等)
- 3) 学生が受けた学業上の事故(感染事故等)
- 4) 学生が受けた移動時(合理的通学経路上)の事故

2. 事故防止のための行動責任と義務について

保健医療の場では、今日多くの事故が発生しており人々の関心が高まっている。

学生であっても臨地実習の場では保健医療チームの一員であり、事故防止のために行動する責任と義務がある。日頃よりどんな小さなことも見逃さずに、事故防止のための気づきを生かしていく姿勢が求められる。

事故は誰でも、いつでも、どこでも起こす可能性がある。

3. 事故防止のための心がまえ

- 1) 対象の状態(認知・活動レベル・治療状況など)の把握を的確に行う。
- 2) 実施予定の援助の手順・留意点に関しての事前学習を十分に行う。
- 3) 思いこみで判断せず、常に自分の手と目と耳で確認する。
- 4) 初めて行う援助は、教員、臨地実習指導者・受け持ち看護師とともに行う。
- 5) 判断や対応に自信がない場合には、必ず実習指導教員・臨地実習指導者に相談する。
- 6) 自分が行ったことに責任を持ち、誤りがないかを確認する。
- 7) 誤りに気づいたときは、すぐに実習指導教員・臨地実習指導者に報告する。
- 8) 事故は他人事ではなく、自分も起こす可能性があることを認識する。

4. 事故直後の対応

- (1)その場を離れることなく助けを求める。**
- (2)対象の安全を確保・確認する。**
- (3)実習指導教員または臨地実習指導者に報告する。**

その後の対応は教員または臨地実習指導者の指示に従う。

5. 事故後の諸手続

- 1) 学生は、実習時および通学途上にかかわらず、事故が生じた場合は直ちに臨地実習指導者と実習担当教員に報告し指示に従う。教員の不在等の場合は、臨地実習指導者に報告し、指示に従う。
- 2) 賠償責任保険の手続きや学生が受けた事故によるその後の健康管理の方法については、教学課の指示に従う。

<実習担当教員の役割>

- 1) 実習担当教員は臨地実習指導者と実習科目責任者に報告を行う(実習担当教員は緊急連絡系統にしたがう)。
- 2) 事故の実態を把握し、事故発生の原因・誘因を明らかにして再度の事故を防ぐため、学生に状況を聞き教学課所定の事故報告書を作成し提出する。
- 3) 施設に対しては所定の事故報告書もしくは施設に備えられた事故報告書を作成し提出する。

6. 実習に関わる賠償責任保険について

- 1) 東海大学では、上記事故に対して、(株)日本興亜損害保険の賠償保険、傷害保険に加入しており、実習中のこれらの事故に対して適用される。
*賠償適用範囲や保険金額は、ケース毎の過失の程度により決められる。
- 2) 学生自身の傷病一般診療については、学生健康保険互助組合による保険が適用される。それぞれの保険制度については、キャンパスガイドをよく読んでおくこと。
- 3) 通学途上であっても、途中寄り道をした場合などは賠償適用外となることがある。

7. 実習施設内での事故発生時の報告について

1) 実習時のヒヤリ・ハットレポート作成の意義

事故防止対策の一環として、学生は実習中に「ヒヤリ・ハット」した内容に関して、レポートを作成し報告を行う(様式は p.18-19 を参照すること)。この目的は、報告した本人の落ち度を批判するのではなく、他の学生や教員、臨地実習指導者と内容を共有することにより、次に同じ過ちをしないための教材にすることである。したがって実習時のヒヤリ・ハットレポート作成は以下の意義をもつといえる。

- (1) 状況を詳しく再現することで、ヒヤリ・ハットの原因について自身の言動を振り返る。
- (2) 事故の行動を反省し、今後の行動で留意すべき点に気づく機会とする。
- (3) 事故につながる危険性のある状況のデータを蓄積し、今後の事故防止に役立てる。

2) ヒヤリ・ハットレポートの記入について

- (4) レポートの記入にあたっては、実習担当教員、臨地実習指導者の指導を受け 1)-(1)~(3)を考えながら記述する。
- (5) p.18 学生記入欄には、事象発生の事実経過とその問題点について具体的に記述する。
- (6) p.19 学生記入欄には、問題を引き起こしたと考えられる原因・要因をチェックしながら検討し今後の対策を記述する。
- (7) レポート用紙は p.18-19 のヒヤリ・ハットレポートをコピーしボールペンで記入し、ホチキスで留めて提出する。

IX. 緊急時の連絡系統

1. 緊急時の対応

緊急時とは、以下の実習に支障をきたす事故にあった場合や感染症を発生した場合、様々な災害に遭遇した場合をいう。各項目の対応方法に従う。

1) 事故等

(8) 通学途中、実習場所で、受診を必要とする事故に遭遇した場合。

(9) 実習中に対象者・対象物に対して、治療・賠償を必要とする事故が発生した場合。

(10) 実習中の行動により、今後の実習に支障をきたすおそれのある指導を受けた場合。

2) 感染症の発生

「p.8-VII.感染予防と感染症が発生した場合の対応」を参照

3) 災害

(11) 生命の危険・道路交通状況の障害などにより身動きが取れないような災害に遭遇した場合。

① 台風等、気候の変化時

i. 実習領域毎に、緊急時連絡網等の確認を事前に行っておくこと。

ii. 自宅から実習施設までの気象情報、交通情報を確認し、以下の場合には実習担当教員に報告し指示に従う。

- ・ 気象庁より実習施設周辺地域までの経路に「警報」が発令されており、外出が危険である。
- ・ 実習施設までの交通機関の運行が停止している。

iii. 実習中止および実習再開に関しては、実習担当教員の指示に従う。実習担当教員は緊急連絡系統に従う。

② 実習場で災害に遭遇した場合

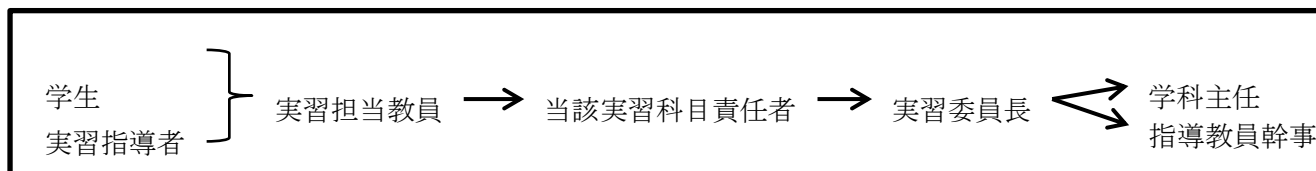
i. 実習場で、災害(地震・火災・津波など)が発生した場合は、原則としてその実習指導者の下で、自己の安全確保に努める。また、実習指導者の指示に従い、場合によっては救護活動にも参加する。

ii. 連絡手段が可能であれば(になれば)、実習担当教員へ連絡し、安否、所在を伝え、その後の行動について教員の指示に従う。

iii. 安全の確認と交通手段が確保できるまでは、原則その場にとどまる。

2. 連絡方法

緊急時の連絡は、下記連絡ルートとする。実習中止の決定は当該実習科目責任者の指示に従う。



＊逆ルートもあり。各段階で必要がある場合は、教学課にも連絡する。

看護学科事務への連絡方法

東海大学医学部付属病院(代表)から内線を経由して、教学課内看護学科事務に連絡する。

東海大学医学部付属病院 代表 TEL 0463-93-1121 (看護学科事務内線 4029)

臨地実習にあたっての受け持ち患者様への説明事項

(例：東海大学医学部付属病院用)

東海大学医学部付属病院・東海大学医学部付属大磯病院・東海大学医学部付属八王子病院は文部科学省、厚生労働省の認可をうけた医師や看護師の教育・研修病院として、東海大学医学部看護学科や医療技術短期大学の看護学実習を行っています。

私は()で、看護学生の実習指導を担当しています。このたび()看護学実習として、 日から 日の 日間、診療の見学や看護師の指導のもとで日常生活の援助などを看護させていただきたく、お願い申し上げます。

学生が実習するにあたって、次の点をお約束いたします。

1. 実習では、()様の治療と回復を最優先いたします。
2. 受け持つことをお断りになっても、ご承諾いただいた後で、途中でお断りになってもけっこうですし、ご承諾いただいたとしても、学生が申し出た一つ一つの援助をお断りになっても差し支えございません。
()様が、学生の実習や学生の援助をお断りになっても病院の看護師は最善をつくすことには変わりなく、なんの不利益も生じません。
3. 学生が何らかの援助を提供する時には、まず学生が説明いたします。どうぞご遠慮なく疑問点など学生や指導者にご質問ください。ご了解いただけましたら、実施いたします。
4. 学生が援助する時には、事前に実習担当教員・臨床実習指導者が、知識や技術を確認し、指導のもとに患者様の安全を最優先いたします。
5. 学生は法律（保健師助産師看護師法第42条の2「秘密保持義務」）に基づいて、患者様やご家族様のプライバシーをお守りします。

以上のことをお約束いたしますので、ご協力をお願いいたします。

【記録】

〇〇年〇月〇日〇時〇分臨床実習指導者〇〇が〇〇様とご家族に受け持ちに関する5つの事項を説明し、看護学実習の受け持ちについての承諾を得た。

2013. 1 月 改訂

* 上記内容を看護記録等に明記していただくよう、臨地実習指導者にお願ひする。

ヒヤリ・ハットレポート

東海大学医学部看護学科

[illegible]

学 生 記 入 欄	前ページで捉えた問題を引き起こしたと考えられる原因・要因について、 次の内から関係すると思われる□にチェックし、その他の場合は（ ）に記述して下さい。	
	1. 本人 <u>知覚</u> <u>認知</u> <u>判断</u> <u>実行</u> <u>エラーの検出</u>	その時、自分の状態はどのようなものでしたか。 ☐ 睡眠不足 ☐ あせっていた ☐ 緊張していた ☐ その他（ ） ☐ 知識の不足 ☐ 知識の誤り ☐ 他のことに気を取られていた ☐ エラーを予測できなかった ☐ その他（ ） ☐ アセスメント不足 ☐ 大丈夫だと思った ☐ 判断に誤りがあった ☐ その他（ ） ☐ 手技が未熟 ☐ 手技の誤り ☐ イメージトレーニング不足 ☐ その他（ ） ☐ 確認不足 ☐ チェック忘れ ☐ その他（ ）
	2. 設備・物品 機器	問題につながる設備や配置はありましたか。 ☐ 物品・機器の取り扱い困難 ☐ 物品・機器が不備 ☐ その他（ ）
	3. 説明書・手順	手順書、チェックリストなどソフトウェアに問題はありませんでしたか。 ☐ 手順が決まっていなかった ☐ その他（ ）
	4. 環境	騒音、湿度、温度などの作業環境に問題はありませんでしたか。 ☐ 見えづらかった ☐ 聞こえづらかった ☐ 作業動線に問題 ☐ 作業中断 ☐ 機器の配置不適當 ☐ その他（ ）
	5. 教員・指導者 他の看護職ら	教員・指導者・他の看護職との間に問題はありませんでしたか。 ☐ （教員・指導者の）指示不足 ☐ 意思疎通不足 ☐ その他（ ）
	6. 管理	マネジメント（管理）上の問題はありませんでしたか。 ☐ 事前の説明不足 ☐ 指導者がその場に不在 ☐ 連絡体制不足 ☐ その他（ ）
	7. 対象者	患者の状態はどうでしたか。 ☐ 患者の意思を尊重 ☐ 患者の行動・心理特性を把握不足 ☐ その他（ ）
	同じ問題が起きないようにするには、今後どのようにしていったらよいと思いますか。	
教 員 記 入 欄	今後の実習に向けて	

X. 臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準

1. 目的

本学科では、学生が自らの看護基礎技術の習得状況を振り返り、さらなる技術習得の動機付けを行うことを目的とし、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に示されている「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」（142 項目）をもとに、「臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準」（82 項目）を設定した。

2. 利用方法について

- 1) 「臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準」を次ページ以降に示した。これらの看護基礎技術項目については、臨地実習中に適宜習得状況を振り返り、「A：実習指導者や教員の指導・助言を受けて、1人で実施した」、「B：実習指導者や教員の指導・監督のもとで、実施した」、「C：看護師などの実施場面を見学した」、「D：実施、見学、いずれもしなかった」の自己評価を行う。卒業時までに到達基準を達成できるよう、各自これらの技術の習得に努めること。
- 2) 学生の看護基礎技術習得状況の把握のため、以下の3つの時期において「臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準」をもとにしたアンケート調査を実施する。

[調査時期]

- ① 看護基礎実習2終了後
- ② 7セメスターガイダンス時
- ③ 8セメスター内（全臨地実習終了後）

3. 留意事項

- 1) 「臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準」は、自らの看護基礎技術の習得状況の把握が目的であり、成績評価には含まれません。
- 2) アンケート調査において個人が特定される情報が含まれる場合がありますが、それらは実習委員会により厳密に管理されます。

臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準 (1)

	技術項目	到達基準	メモ
1	患者にとって快適な病床環境を作ることができる *1	A	
2	基本的ベッドメイキングができる	A	
3	臥床患者のリネン交換が実施できる *2	B	
4	患者の状態に合わせた食事介助（嚥下障害患者を除く）が実施できる	A	
5	患者の食事摂取状況の観察ができる	A	
6	経管栄養法を受けている患者の観察ができる	A	
7	患者の疾患に応じた食事内容の指導が実施できる	B	
8	患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	B	
9	経鼻胃カテーテルからの流動食の注入を実施できる	B	
10	自然な排便を促すための援助が実施できる	A	
11	自然な排尿を促すための援助を実施できる	A	
12	患者の ADL や安静度に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	A	
13	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	A	
14	ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	B	
15	患者のおむつ交換を実施できる	B	
16	膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、ルート確認、感染予防の管理ができる	B	
17	入眠を促す基本的な援助を計画できる	A	
18	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助を実施できる	A	
19	臥床患者の体位変換を実施できる	B	
20	患者の歩行・移動介助を実施できる	A	
21	車いすでの患者の移送を実施できる	A	
22	患者の状態に合わせて、ベッド⇄車いすの移乗を実施できる	B	
23	廃用症候群のリスクの程度を観察できる	A	
24	患者のベッド⇄ストレッチャーへの移乗を実施できる	B	
25	患者のストレッチャー移送を実施できる	B	

*1：温度、湿度、換気、採光、騒音、病室整備など、*2：リネンとはシーツ類をさす。寝衣は除く。

<経験のレベル>

- A：実習指導者や教員の指導・助言を受けて、一人で実施した。
- B：実習指導者や教員の指導・監督のもとで、実施した。
- C：看護師などの実施場面を見学した。
- D：実施、見学、いずれもしなかった。

臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準 (2)

	技術項目	到達基準	メモ
26	廃用症候群予防のための自動・他動運動を実施できる	B	

27	目的に応じた安静保持の援助を実施できる	B	
28	体動制限による苦痛の緩和を実施できる	B	
29	関節可動域訓練を実施できる	B	
30	患者の状態に合わせた部分浴（手浴・足浴）を実施できる	A	
31	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	A	
32	清拭援助を通して、患者の状態を観察できる	A	
33	洗髪援助を通して、患者の状態を観察できる	A	
34	口腔ケアを通して、患者の状態を観察できる	A	
35	患者が身だしなみを整えるための援助を実施できる	A	
36	輸液ラインなどが入っていない臥床患者の寝衣交換が実施できる	A	
37	入浴の介助が実施できる	B	
38	陰部の清潔保持の援助が実施できる	B	
39	臥床患者の清拭が実施できる	B	
40	臥床患者の洗髪が実施できる	B	
41	意識のない患者の口腔ケアが実施できる	B	
42	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	B	
43	輸液ラインなどが入っている患者の寝衣交換が実施できる	B	
44	酸素吸入を受けている患者の観察ができる	A	
45	酸素吸入療法を実施できる	B	
46	気管内加湿を実施できる	B	
47	患者の状態に合わせた温・冷罨法が実施できる	A	
48	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助が実施できる	A	
49	末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージが実施できる	A	
50	褥瘡発生のリスクの程度の観察ができる	A	

<経験のレベル>

A：実習指導者や教員の指導・助言を受けて、一人で実施した。

B：実習指導者や教員の指導・監督のもとで、実施した。

C：看護師などの実施場面を見学した。

D：実施、見学、いずれもしなかった。

臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準 (3)

	技術項目	到達基準	メモ
51	褥瘡予防のためのケアが実施できる	B	
52	患者の創傷の観察ができる	B	
53	経口薬の服薬後の観察ができる	B	
54	外用薬の投与前後の観察が実施できる	B	
55	直腸内与薬前後の観察ができる	B	
56	患者の意識状態の観察ができる	B	
57	緊急なことに遭遇した場合には適切な手段でチームメンバーへの応援要請ができる	A	
58	バイタルサインズの正確な測定が実施できる	A	
59	身体計測の正確な測定を実施できる	A	
60	患者の一般状態の変化が観察できる	A	
61	系統的な症状の観察ができる	B	
62	簡易血糖測定が実施できる	B	
63	正確な検査が行えるための患者の準備が実施できる	B	
64	検査の介助が実施できる	B	
65	検査後の安静保持の援助が実施できる	B	
66	検査前・中・後の観察ができる	B	
67	目的に合わせた採尿（一般尿、24時間蓄尿、尿培養等）の方法を理解し、指導のもとで尿検体を取り扱える	B	
68	スタンダードプリコーションに基づく手洗いが実施できる	A	
69	必要な防護器具（手袋・ガウン…）の装着が実施できる	B	
70	使用した器具の感染防止の取り扱いが実施できる	B	
71	感染性廃棄物の取扱いが実施できる	B	
72	確実な無菌操作を実施できる	B	
73	針刺し事故防止の対策が実施できる	B	
74	インシデント・アクシデントが発生した場合には、迅速な報告ができる	A	
75	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	A	

<経験のレベル>

A：実習指導者や教員の指導・助言を受けて、一人で実施した。

B：実習指導者や教員の指導・監督のもとで、実施した。

C：看護師などの実施場面を見学した。

D：実施、見学、いずれもしなかった。

臨地実習における看護基礎技術項目とその到達基準 (4)

	技術項目	到達基準	メモ
76	患者を誤認しないための防止策が実施できる	A	

77	患者の機能や行動特性に合わせて、療養環境を安全に整えることができる	B	
78	患者の機能や行動特性に合わせて、転倒・転落・外傷予防が実施できる	B	
79	放射線暴露の防止行動が実施できる	B	
80	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することが実施できる	B	
81	患者の安楽を促進するためのケアが実施できる	B	
82	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	B	

<経験のレベル>

A：実習指導者や教員の指導・助言を受けて、一人で実施した。

B：実習指導者や教員の指導・監督のもとで、実施した。

C：看護師などの実施場面を見学した。

D：実施、見学、いずれもしなかった。

資料8 臨地実習計画表

月	5月					6月				7月				8月			9月				10月					11月				12月		1月				2月	
週	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	
学年																																					
1年次																															基礎看護学実習1(看護の対象理解) [城生弘美教授、龍谷恵講師、森祥子講師、森屋宏美講師]						
2年次														基礎看護学実習2(生活援助) [城生弘美教授、龍谷恵講師、森祥子講師、森屋宏美講師]																							

資料9 養護教諭 実習施設一覧

■実習受入承諾にあたっては、以下の「教職課程認定基準」に基づいて承諾を得ている。

文部科学省「教職課程認定基準（一部改正 平成27年11月24日）」

1.1 教育実習、養護実習及び栄養教育実習

（１）教育実習及び養護実習については、以下に定めるところにより、入学定員に応じて、適当な規模・教員組織等を有する実習校が確保されていなければならない。

初等教育教員養成の場合 入学定員 5 人に 1 学級の割合
 中等教育教員養成の場合 入学定員 10 人に 1 学級の割合
 特別支援学校教員養成の場合 入学定員 5 人に 1 学級の割合
 養護教諭養成の場合 入学定員 5 人に 1 校の割合

（２）実習校については、当該学校の承諾を得ていなければならない（都道府県市によって特別の事情がある場合には、当該教育委員会の実習受入れ証明をもって代えることができる）

■承諾を得た学校一覧

近隣の学校（東海大学付属校含む）

学校名	所在地
横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県鎌倉市雪ノ下 3-5-10
横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	神奈川県鎌倉市雪ノ下 3-5-10
神奈川県立伊勢原高等学校	神奈川県伊勢原市田中 1008-3
神奈川県立伊志田高等学校	神奈川県伊勢原市石田 1356-1
自修館中等教育学校	神奈川県伊勢原市見附島 411
東海大学付属浦安高等学校・中等部	千葉県浦安市東野 3-11-1
東海大学付属相模高等学校・中等部	神奈川県相模原市南区相南 3-33-1
東海大学付属高輪台高等学校・中等部	東京都港区高輪 2-2-16

伊勢原市教育委員会（小学校 10 校 中学校 4 校）

学校名	所在地
伊勢原市立桜台小学校	神奈川県伊勢原市桜台 4-16-1
伊勢原市立緑台小学校	神奈川県伊勢原市高森 482
伊勢原市立大田小学校	神奈川県伊勢原市下谷 1471-1
伊勢原市立伊勢原小学校	神奈川県伊勢原市伊勢原 4-1-1
伊勢原市立石田小学校	神奈川県伊勢原市石田 1168-1
伊勢原市立成瀬小学校	神奈川県伊勢原市高森 1481-3
伊勢原市立比々多小学校	神奈川県伊勢原市神戸 521-1
伊勢原市立高部屋小学校	神奈川県伊勢原市西富岡 1090-1
伊勢原市立竹園小学校	神奈川県伊勢原市岡崎 6611-1
伊勢原市立大山小学校	神奈川県伊勢原市大山 209
伊勢原市立伊勢原中学校	神奈川県伊勢原市桜台 4-2-1
伊勢原市立成瀬中学校	神奈川県伊勢原市高森 2-22-1
伊勢原市立山王中学校	神奈川県伊勢原市上粕屋 804-2
伊勢原市立中沢中学校	神奈川県伊勢原市下糟屋 231-1

教職課程を置く、医学部看護学科の入学定員は 85 名であり、承諾いただいた上記の 22 校により基準を満たすことから、定員に応じた実習受入可能人数を確保している。

学生の確保の見通し等を記載した書類 医学部看護学科

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 新設する医学部看護学科の定員充足の見込み

① 本学既設学科における定員充足状況と定員増加に対する充足の見込み

平成 30 年度に新設する医学部看護学科は既設の健康科学部看護学科を基礎として設置する。入学定員は 75 名から 85 名となるが、過去 5 年間の既設学科の入学者数について定員を満たしていること、入学定員を大幅に超える受験者が存在することから、設定する入学定員を充足することが見込まれる（資料 1）。

② 高校生 2 年生を対象としたアンケート調査結果

平成 30 年度に大学進学対象となる高校 2 年生に対して、医学部看護学科の新設に関する入学意向アンケート調査を実施した。

アンケートの結果、医学部看護学科について、「第 1 希望として、入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 501 名であり、設定する入学定員 85 名に対し、約 5.89 倍であった（資料 2-p15）。

以上のことから、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生の数が設定する定員を上回っており、定員を充足できる見込みである。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の定員充足の見込み

（資料 3）

【基盤工学部電気電子情報工学科】

本学科の教育目標である「電気・電子・情報工学及びその応用分野へ適用可能な基盤知識を幅広く理解し、その専門技術を急速に発展している情報化に提供できる実践的技術の育成」を掲げ、広報を展開したが、受験生にとってやや捉えにくく、平成 25 年度の開設から平成 29 年度入試までは入学者数が定員を下回り、平成 28 年度入試までは毎年入学者が減少した。しかし、平成 29 年度入試では平成 28 年度に発生した熊本地震の影響があったにも拘わらず平成 26 年度入学者数に近い 55 人（充足率 68%）の入学者があった。

平成 25 年度の入学者数は 71 名（充足率 88%）であり、平成 30 年度カリキュラムでは情報分野、植物工場、ロボット等の科目を充実させ魅力ある学科としてアピールしており、入学定員 80 名を充足できる見込みである。

【国際文化学部デザイン文化学科】

国際文化学部デザイン文化学科は平成 24 年度に新設され、平成 24 年度の

入学者数は 67 名（充足率 95％）であった。

平成 25～平成 28 年度の入学者数は 30～40 名で推移したが、平成 29 年度の入学者数が 56 名（充足率 80％）となったことを考慮すれば、70 名の定員設定は適切と考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 「新設する学科の基礎となる学科の過去 5 年間の入試状況」（資料 1）

平成 25 年度入試～平成 29 年度入試における、新設する医学部看護学科の基礎となる既設学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

2) 「東海大学文化社会学部（仮称）、健康学部（仮称）、医学部看護学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート調査報告」（資料 2）

①目的

東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科への入学意向を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

②対象

東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1 都 1 道 1 府 26 県に所在する高等学校の在学者で、平成 30 年度大学進学対象となる高校 2 年生を調査対象とした。

③調査方法

平成 28 年 11 月から平成 29 年 1 月にかけて、高等学校 149 校に、34,925 人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。

なお、高等学校への発送、アンケート結果の回収、集計・分析は、本学が業務を委託した一般財団法人日本開発構想研究所により実施された

この結果、高校 2 年生 26,704 人から有効回答（有効回収率約 76.4%）があり、東海大学文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向を分析した。

3) 「既設大学等の状況」 定員超過率 0.7 倍未満の学科等の過去 5 年間の入試状況」(資料 3)

平成 25 年度入試～平成 29 年度入試における、「既設大学等の状況」 定員超過率 0.7 倍未満の学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

ウ 学生納付金の設定の考え方

1) 他学部等との比較

新設する医学部看護学科の学生納付金は、1,663,200 円(入学金 300,000 円、授業料 735,000 円、施設設備費等 569,000 円、諸会費 59,200 円/年)となっており(資料 2-p17, p19)、既設学部とも整合する金額の設定となっている。

2) 近隣の競合校等の状況との比較

医学部看護学科は東海大学伊勢原校舎(神奈川県)に設置される。そこで、関東圏に所在し、学部学科名称や教育内容が類似している、他大学の学部等の初年度学生納付金との比較を行った結果、ほぼ同水準であり、適切な金額設定と考えている(資料 2-p19)。

東海大学	比較する他大学の学部等
医学部看護学科 <u>1,663,200 円</u> 入学金 300,000 円、 授業料 735,000 円/年、 施設設備費等 569,000 円、 諸会費 59,200 円/年	杏林大学 保健学部 看護学科(東京都) <u>1,973,370 円(合計)</u> 北里大学 看護学部 看護学科(神奈川県) <u>1,900,000 円(合計)</u> 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科(東京都) <u>1,500,000 円(合計)</u>

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 新設する医学部看護学科の取組状況

受験生、保護者、高等学校等の教員を中心に周知活動を行う。

①オープンキャンパス

付属高校生向けに 9 月、一般受験生向けに、7 月、8 月(2 回)、11 月、3 月に開催を計画している。実際に学修を進めるキャンパスにおいて、直接教員の説明を聞くこと、質問することにより、より学部・学科を身近なものとして、志願者の確保につなげている。

②高校訪問

全国の高校を個別に訪問し、本学部・学科の広報を行う。

③大学説明会の開催

本学が開催する高校教員向けの説明会において、新設学部の説明を行う。

④パンフレットの作成

各種パンフレットを作成し、学科の案内と入学試験について周知を行う。

⑤ホームページの開設

新設学部の特設サイトを作成し、学科の案内を行う。

⑥各種媒体による広報

電車内の広告、進学情報冊子、Web 広告など、幅広く広報を行う。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の取組状況

【基盤工学部電気電子情報工学科】

現行カリキュラムでも既に実施しているアクティブラーニングの一種である PBL (Project Based Learning) を今後更に強化し、自ら考え行動する能力を育成し、製造業界から注目される人材を増やして行く予定である。平成 27 年度、平成 28 年度は数名の学部 3 年生が学会で口頭発表している。また、本学科が中心となりロボットコンテスト・マイコンカーラリー等のイベントも開催している。毎年高校生の参加数が増え、過去には数名マイコンカーラリーに参加した高校生が本学科に入学しており平成 29 年度も 1 名入学している。今年三月に第一期生が卒業したが、就職内定率は 100 %であり、高い内定率を得ることができた。

既に学科独自のホームページは開設しているが、今後は更に内容を充実させ、学生の学会発表やイベント開催の様子、就職内定先など随時情報を発信し、高校生が本学科に興味を持つような内容にする予定である。

【国際文化学部デザイン文化学科】

定員未充足の原因のひとつとして、受験生に対する、卒業後の進路に関する広報の不足があったと考えている。

2015 年度には国際文化学部デザイン文化学科として最初の卒業生を輩出したが、就職率（就職希望者に対する就職内定者の割合）は 100%に達した。また、就職先も学科で学んだデザイン・建築の知識とスキルを生かせる職種に多く就職した。

その卒業後の進路に関する成果を広報した効果もあり、平成 29 年度の入学人数は昨年度の 35 名から 56 名に増加し、入学定員に対する充足率も 80%まで回復した。

平成 30 年度の学生募集においては、卒業後の進路や作品受賞の実績といった教育の成果を高校に発信するなど、教育広報を強化することにより、70 名の定員を確保したい。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

教育課程は、様々な健康レベルの人が、病院から施設・在宅に至るあらゆる場で、その人らしい生活を営むための看護ケアが実践でき、時代の変化に応じた新しい看護を創造できる医療・保健の専門職を育成する。温かな人間性と謙虚さ、幅広い教養を持ち、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる人材育成を目指すことを教育目標とし、達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づいている。

<カリキュラム・ポリシー>

- コミュニケーション能力の重視
- 看護専門職の自覚を高める
- 実践の場に即した看護実践力の育成
- 自己学習力の育成
- 東海大学の強みを活かした国際的視野の育成

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

上記①について、「神奈川県医療保健計画（平成 25 年度～平成 29 年度）」（資料 4）のとおり、神奈川県内の看護師は不足状況にある。神奈川県においては、「県内の看護職員は現在大幅に不足しており、就業看護職員を増やすために、養成数の増加、定着対策の充実、再就業促進の 3 つの面から取り組んでいくことが必要」（資料 4-p4）という状況であり、本学科の人材養成にも期待していること、奨学金の貸付け（資料 4-p4）や、未就業看護職員の再就業を促進（資料 4-p5）している状況であることから、卒業生の進路も見込めるものと判断される。

以 上

資料1 新設する学科の基礎となる学科の過去5年間の入試状況

健康科学部看護学科

→【新設】医学部看護学科は入学定員85名で設置

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均入学定員超過率
入学定員	75	75	75	75	75	1.10
志願者数	665	871	639	1,205	1,004	
受験者数	618	797	613	1099	931	
合格者数	166	166	138	179	175	
入学者数	79	87	83	80	85	
入学定員超過率	1.05	1.16	1.1	1.06	1.13	

東海大学 文化社会学部（仮称）、健康学部（仮称）、
医学部 看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成29年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

（1） 調査目的

平成 30 年 4 月に予定している東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

（2） 調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1 都 1 道 1 府 26 県（東京都、北海道、大阪府、青森県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県）に所在する高等学校の在学者で平成 30 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

（3） 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校 149 校に 34,925 人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、高校 2 年生 26,704 人から有効回答（有効回収率約 76.4%）があった。

集計結果より、東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への入学意向を分析した。

（4） 調査実施期間

平成 28 年 11 月～平成 29 年 1 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 149 校 34,925 人

有効回答者数：高等学校 147 校 26,928 人の回答のうち、高校 2 年生 26,704 人

有効回収率：約 76.4%（有効回答者 26,704 人÷調査対象者 34,925 人）

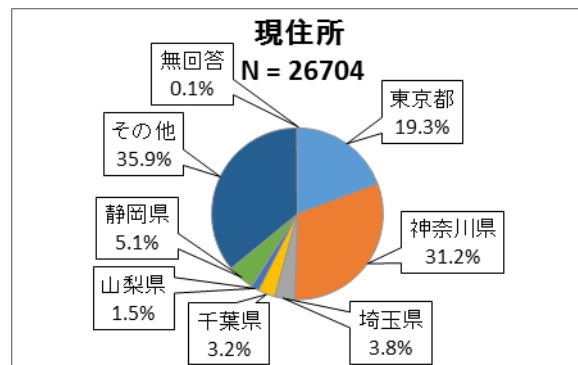
※東海大学にて設置を構想している文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、「その他」が9,579人（35.9%）と最も多く、次いで「神奈川県」8,343人（31.2%）、「東京都」5,147人（19.3%）、「静岡県」1,355人（5.1%）、「埼玉県」1,004人（3.8%）、「千葉県」866人（3.2%）、「山梨県」396人（1.5%）の順になっている。 ※「無回答」14人（0.1%）

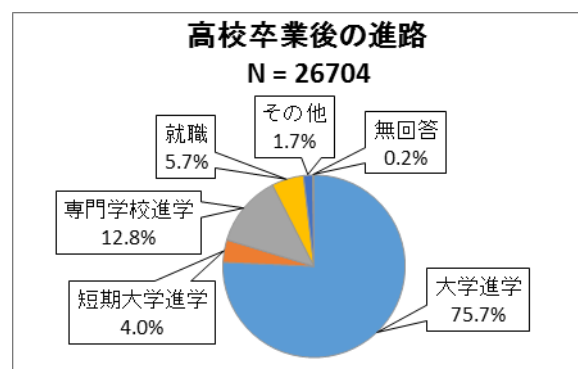
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、20,208人（75.7%）が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は1,069人（4.0%）、合わせて21,277人（79.7%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」3,413人（12.8%）を合わせると、24,690人（92.5%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100



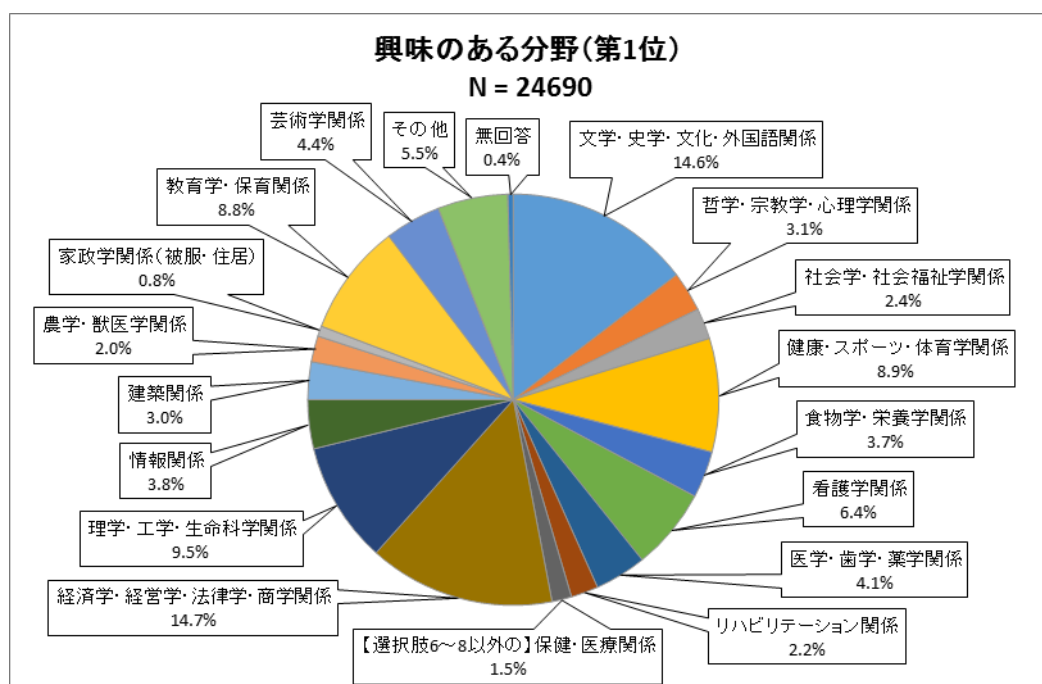
(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「経済学・経営学・法律学・商学関係」が 3,619 人（14.7%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」3,608 人（14.6%）、「理学・工学・生命科学関係」2,350 人（9.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,204 人（8.9%）、「教育学・保育関係」2,179 人（8.8%）、「看護学関係」1,588 人（6.4%）、「その他」1,363 人（5.5%）の順になっている。

※「無回答」105 人（0.4%）

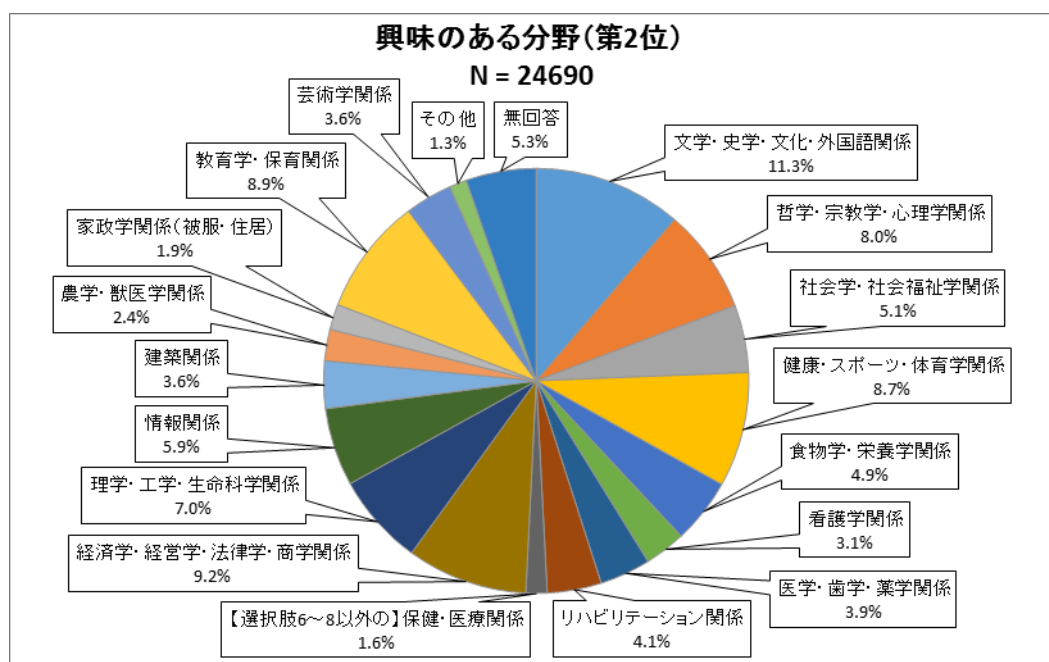
興味のある分野(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100



3-2 興味のある分野（第2位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「文学・史学・文化・外国語関係」が 2,784 人（11.3%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法学・商学関係」2,269 人（9.2%）、「教育学・保育関係」2,197 人（8.9%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,157 人（8.7%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,968 人（8.0%）、「理学・工学・生命科学関係」1,725 人（7.0%）、「情報関係」1,467 人（5.9%）、「社会学・社会福祉学関係」1,266 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」1,318 人（5.3%）

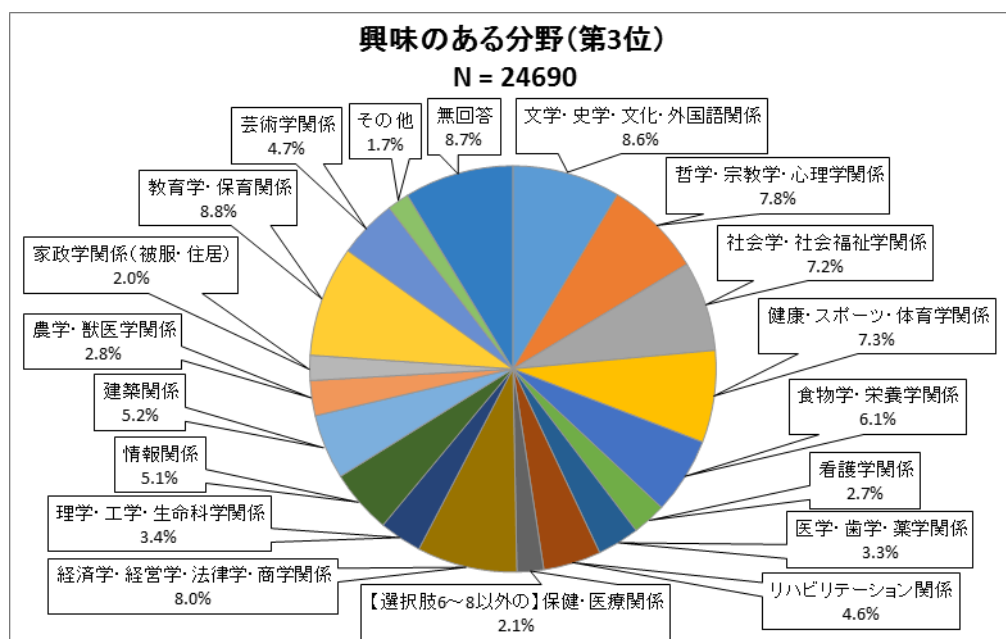
興味のある分野(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100



3-3 興味のある分野（第3位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第3位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「教育学・保育関係」が 2,177 人（8.8%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」2,122 人（8.6%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」1,967 人（8.0%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「健康・スポーツ・体育学関係」1,810 人（7.3%）、「社会学・社会福祉学関係」1,769 人（7.2%）、「食物学・栄養学関係」1,501 人（6.1%）、「建築関係」1,274 人（5.2%）、「情報関係」1,257 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」2,142 人（8.7%）

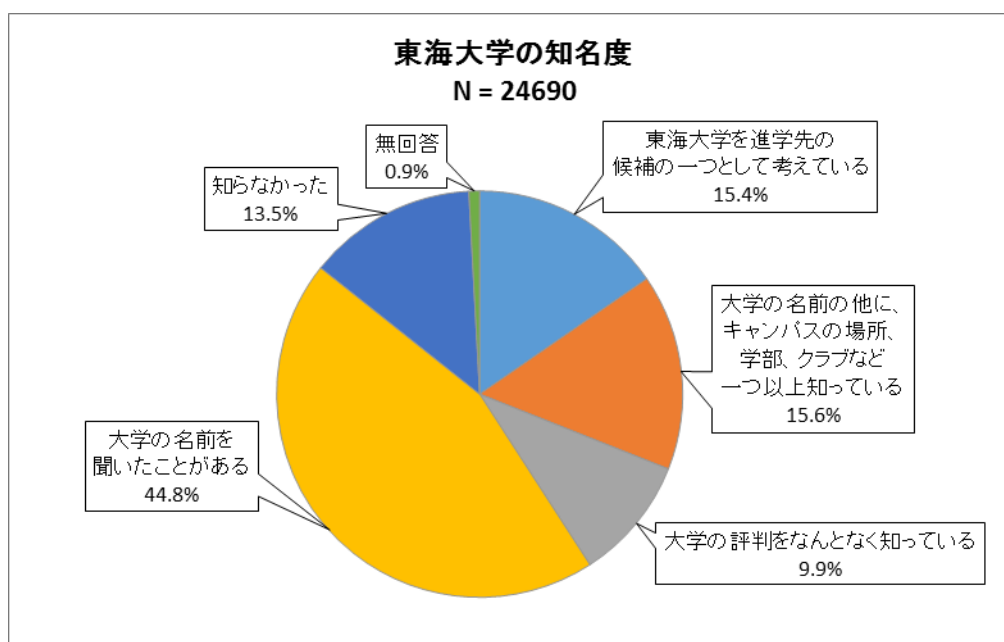
興味のある分野(第3位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



(4) 東海大学の知名度について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、東海大学の知名度について調査した。その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 11,066 人 (44.8%) と最も多く、次いで「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」3,856 人 (15.6%)、「東海大学を進学先の候補の一つとして考えている」3,799 人 (15.4%)、「知らなかった」3,325 人 (13.5%)、「大学の評判をなんとなく知っている」2,434 人 (9.9%) の順になっている。 ※「無回答」210 人 (0.9%)

東海大学の知名度			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100

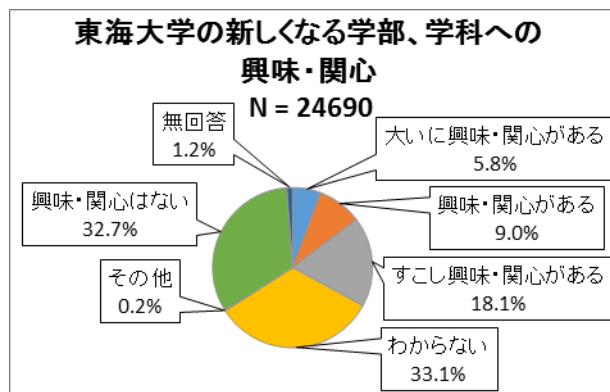


(5) 新学部・新学科への興味・関心について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人のうち、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 1,421 人（5.8%）である。また、「興味・関心がある」2,214 人（9.0%）、「すこし興味・関心がある」4,480 人（18.1%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 8,115 人（32.9%）が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



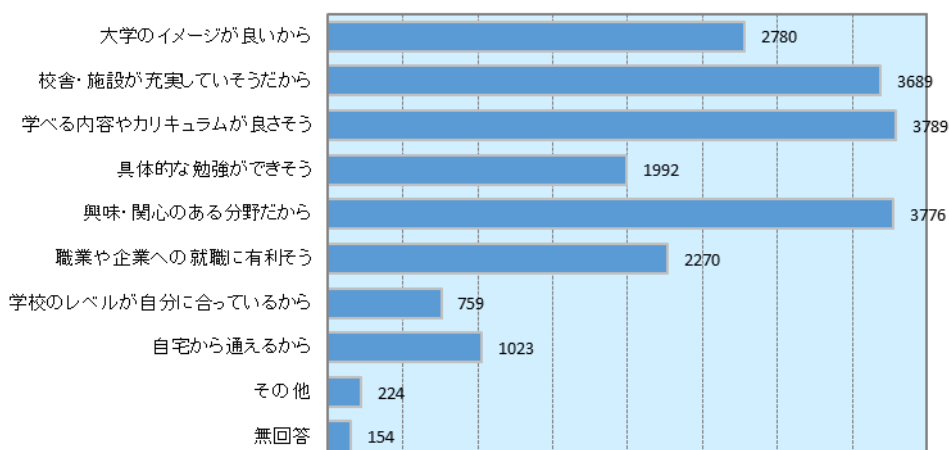
(6) 興味・関心の理由について（複数回答）

興味・関心の理由については、「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味・関心を示した 8,115 人のうち、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が 3,789 人（46.7%）、と最も多く、次いで「興味・関心のある分野だから」3,776 人（46.5%）、「校舎・施設が充実していそうだから」3,689 人（45.5%）、「大学のイメージが良いから」2,780 人（34.3%）、「職業や企業への就職に有利そう」2,270 人（28.0%）、「具体的な勉強ができそう」1,992 人（24.5%）、「自宅から通えるから」1,023 人（12.6%）、「学校のレベルが自分に合っているから」759 人（9.4%）、「その他」224 人（2.8%）の順になっている。 ※「無回答」154 人（1.9%）

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



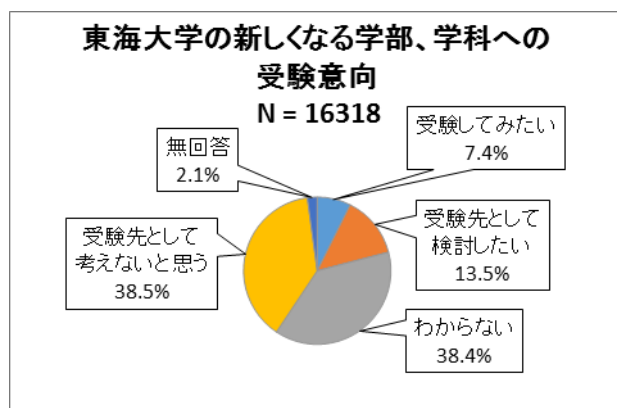
(7) 新学部・新学科への受験意向について

「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」の回答者のうち、「興味・関心はない」と回答した者を除いた 16,318 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」1,210 人 (7.4%)、「受験先として検討したい」2,211 人 (13.5%) の合計 3,421 人 (20.9%) が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100



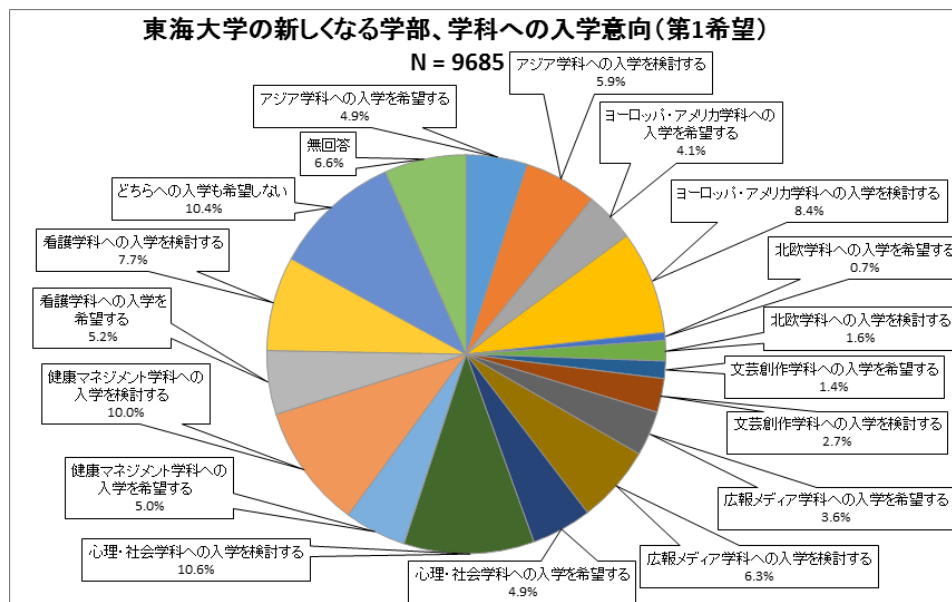
(8) 新学部・新学科への入学意向について

8-1 新学部・新学科への入学意向（第1希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第1希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

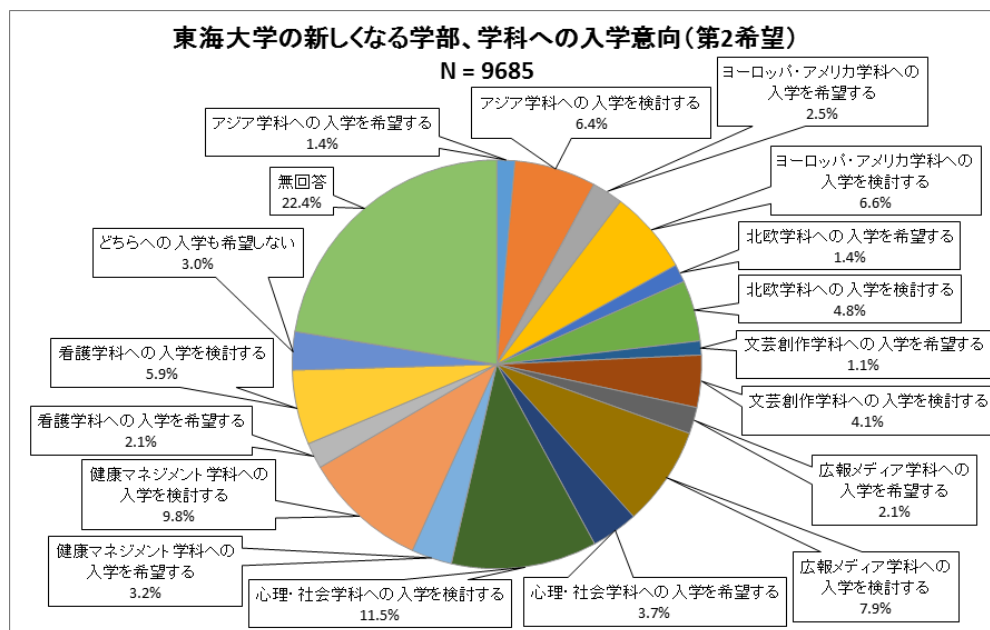


8-2 新学部・新学科への入学意向（第2希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第2希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



3. 調査結果のまとめ

「(8) 新学部・新学科への入学意向について 8-1 新学部・新学科への入学意向（第 1 希望）について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向（第 1 希望）について調査した結果は以下の通りである。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

① 文化社会学部アジア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,049 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 14.98 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 479 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 6.84 倍の入学意向を示している。

② 文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,203 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 17.18 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 393 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 5.61 倍の入学意向を示している。

③ 文化社会学部北欧学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 222 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、3.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 63 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、1.05 倍の入学意向を示している。

④ 文化社会学部文芸創作学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 402 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、6.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 137 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、約 2.28 倍の入学意向を示している。

⑤ 文化社会学部広報メディア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 959 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、9.59 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 352 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、3.52 倍の入学意向を示している。

⑥ 文化社会学部心理・社会学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,498 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 16.64 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 474 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 5.26 倍の入学意向を示している。

⑦ 健康学部健康マネジメント学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,459 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、約 7.29 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 486 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、2.43 倍の入学意向を示している。

⑧ 医学部看護学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,242 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 14.61 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 501 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 5.89 倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

調査票等

東海大学 文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置に係るアンケート調査

- ・東海大学では、2018（平成 30）年 4 月に、文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置を計画しております。このアンケート調査は、その計画の基礎資料にするため、高校 2 年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入してください。

東海大学の学部・学科の設置計画〔予定〕

設置は計画中であり、正式に決まったものではありません。

■文化社会学部

アジア学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

北欧学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

文芸創作学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

広報メディア学科（仮称）

・入学定員（予定）：100名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■文化社会学部

心理・社会学科（仮称）

・入学定員（予定）：90名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■健康学部

健康マネジメント学科（仮称）

・入学定員（予定）：200名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■医学部

看護学科（仮称）

・入学定員（予定）：85名

入学金：300,000円

授業料等：1,363,200円

合計：1,663,200円（初年度）

※上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。

〔あなたに関することについてお答えください〕

【回答欄】

問 1. あなたの学年をおたずねします。

1. 高校 2 年生 2. その他（ ）

問 2. あなたの性別についておたずねします。

1. 男子 2. 女子

問 3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 埼玉県 4. 千葉県
5. 山梨県 6. 静岡県 7. その他（ ）

〔 卒業後の進路についてお答えください 〕

問 4. あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他（ ）

1、2、3 を選ばれた方は問 5 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

問 5. あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | |
|-------------------------|--------------------------------------|-------|
| 1. 文学・史学・文化・外国語関係 | 10. 経済学・経営学・法律学・商学関係 | |
| 2. 哲学・宗教学・心理学関係 | 11. 理学・工学・生命科学関係 | 第 1 位 |
| 3. 社会学・社会福祉学関係 | 12. 情報関係 | |
| 4. 健康・スポーツ・体育学関係 | 13. 建築関係 | 第 2 位 |
| 5. 食物学・栄養学関係 | 14. 農学・獣医学関係 | |
| 6. 看護学関係 | 15. 家政学関係（被服・住居） | 第 3 位 |
| 7. 医学・歯学・薬学関係 | 16. 教育学・保育関係 | |
| 8. リハビリテーション関係 | 17. 芸術学関係 | |
| 9. 【選択肢 6～8 以外の】保健・医療関係 | 18. その他（具体的に： ） | |

次のページへお進みください 

問 6. あなたは東海大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 東海大学を進学先の候補の一つとして考えている
2. 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
3. 大学の評判をなんとなく知っている
4. 大学の名前を聞いたことがある
5. 知らなかった

☐

問 7. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科について、どのように考えますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大いに興味・関心がある
2. 興味・関心がある
3. すこし興味・関心がある
4. わからない
5. その他（具体的に:
6. 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 8 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 9 へお進みください。

6 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 8. 問 7 で「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 9 へお進みください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 大学のイメージが良いから | 6. 職業や企業への就職に有利そう |
| 2. 校舎・施設が充実していそうだから | 7. 学校のレベルが自分に合っているから |
| 3. 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8. 自宅から通えるから |
| 4. 具体的な勉強ができそう | 9. その他 |
| 5. 興味・関心のある分野だから | 具体的に: |

☐
☐
☐

問 9. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科を受験したいと思いますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 受験してみたい
2. 受験先として検討したい
3. わからない
4. 受験先として考えないと思う

1～3 を選ばれた方は問 10 へお進みください。

4 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 10. 東海大学に設置予定の学部、学科を受験し、合格した場合の入学意向について、
次の中から第 2 希望まで選んでください。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|
| (文化社会学部 アジア学科) | (文化社会学部 広報メディア学科) | 第 1 希望 |
| 1. アジア学科への入学を希望する | 9. 広報メディア学科への入学を希望する | ☐ |
| 2. アジア学科への入学を検討する | 10. 広報メディア学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科) | (文化社会学部 心理・社会学科) | 第 2 希望 |
| 3. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する | 11. 心理・社会学科への入学を希望する | ☐ |
| 4. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する | 12. 心理・社会学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 北欧学科) | (健康学部 健康マネジメント学科) | |
| 5. 北欧学科への入学を希望する | 13. 健康マネジメント学科への入学を希望する | |
| 6. 北欧学科への入学を検討する | 14. 健康マネジメント学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 文芸創作学科) | (医学部 看護学科) | |
| 7. 文芸創作学科への入学を希望する | 15. 看護学科への入学を希望する | |
| 8. 文芸創作学科への入学を検討する | 16. 看護学科への入学を検討する | |
| 17. どちらへの入学も希望しない | | |

問 11. 東海大学の文化社会学部、健康学部、医学部看護学科設置の計画について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました。

類似する近隣の大学・学部・学科一覧

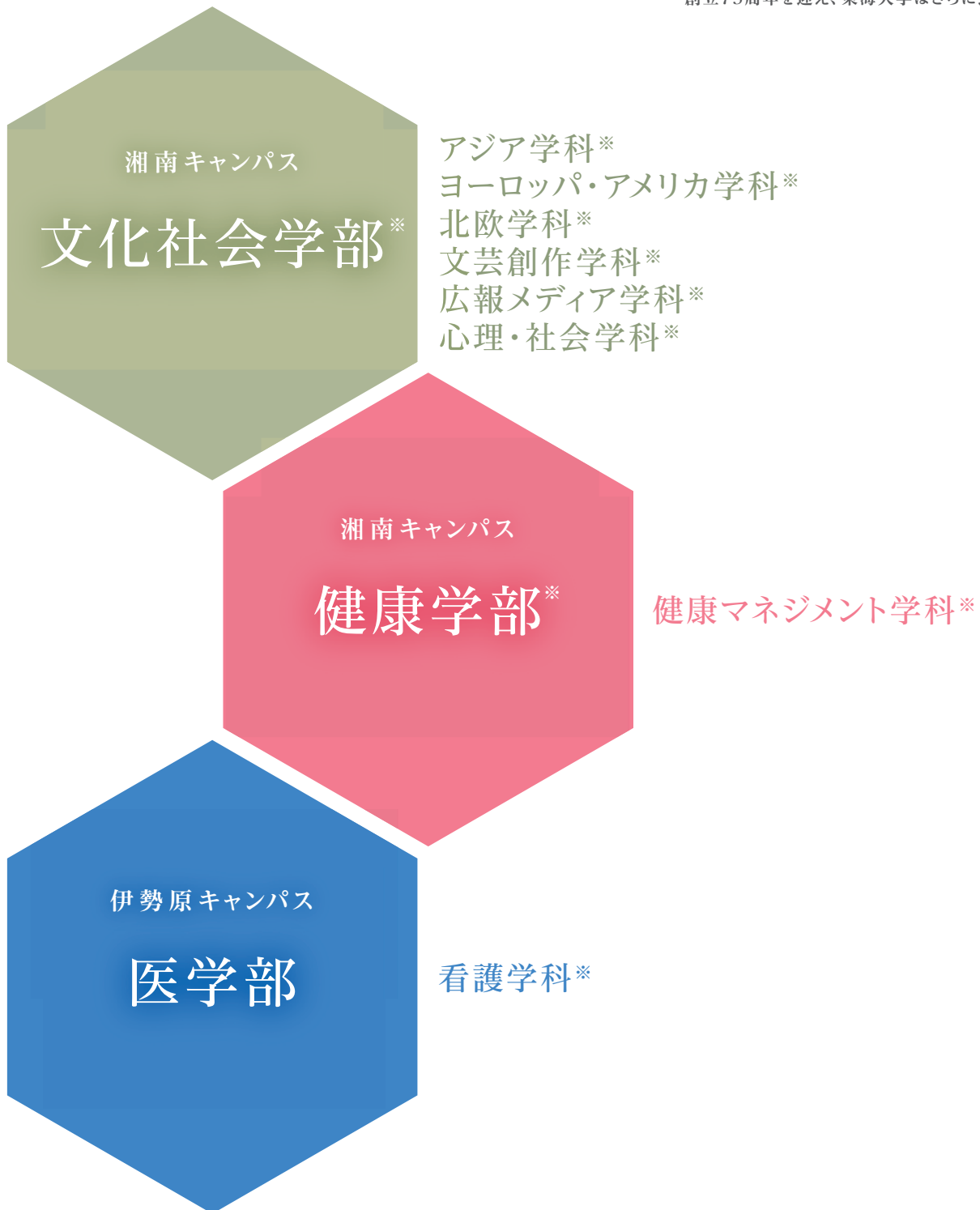
東海大学が設置を計画している学部・学科 文化社会学部（仮称）／健康学部（仮称）／医学部 看護学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻等名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
文化社会学部 アジア学科（仮称）											
東京都	私立	清泉女子大学	文学部	文化史学科		100	250,000	780,000	340,000		1,370,000
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	日本・東アジア文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	国士舘大学	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科		385	240,000	762,000	282,000	24,940	1,308,940
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	アジア学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 北欧学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	北欧学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 文芸創作学科（仮称）											
埼玉県	私立	日本大学	芸術学部	文芸学科		120	260,000	1,020,000	450,000	30,000	1,760,000
東京都	私立	淑徳大学	人文学部	表現学科	文芸表現コース	60	200,000	800,000	200,000	61,210	1,261,210
東京都	私立	大正大学	表現学部	表現文化学科	クリエイティブライティングコース	200	200,000	750,000	250,000		1,200,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	文芸創作学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 広報メディア学科（仮称）											
東京都	私立	東京工科大学	メディア学部	メディア学科	メディア社会コース	300	250,000	1,296,000	0	23,300	1,569,300
神奈川県	私立	文教大学	情報学部	メディア表現学科		95	280,000	730,000	270,000		1,280,000
東京都	私立	東洋大学	社会学部	メディアコミュニケーション学科		150	250,000	710,000	220,000	10,000	1,190,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	広報メディア学科（仮称）		100 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
文化社会学部 心理・社会学科（仮称）											
東京都	私立	昭和女子大学	人間社会学部	心理学科		100	200,000	855,600	400,000	2,400	1,458,000
東京都	私立	大妻女子大学	人間関係学部	人間関係学科	社会・臨床心理学専攻	75	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	明星大学	心理学部	心理学科		120	250,000	800,000	350,000	18,600	1,418,600
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	心理・社会学科（仮称）		90 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
健康学部 健康マネジメント学科（仮称）											
埼玉県	私立	大東文化大学	スポーツ・健康科学部	健康科学科		100	250,000	995,000	496,000	25,600	1,766,600
埼玉県	私立	早稲田大学	人間科学部	健康福祉科学科		200	200,000	1,371,000	27,000	3,000	1,601,000
東京都	私立	桜美林大学	健康福祉学群	健康科学専修		200	100,000	1,034,000	300,000		1,434,000
神奈川県	私立	東海大学	健康学部（仮称）	健康マネジメント学科（仮称）		200 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
医学部 看護学科（仮称）											
東京都	私立	杏林大学	保健学部	看護学科		140	250,000	1,150,000	500,000	73,370	1,973,370
神奈川県	私立	北里大学	看護学部	看護学科		120	400,000	1,200,000	300,000		1,900,000
東京都	私立	東京慈恵会医科大学	医学部	看護学科		60	500,000	1,000,000	0		1,500,000
神奈川県	私立	東海大学	医学部	看護学科（仮称）		85 （予定）	300,000	735,000	569,000	59,200	1,663,200

注1）各大学の情報については、2016年10月時点の公式ウェブサイトにより調査しました。

注2）各大学の学費については、各大学の公表方法に基づいています。諸会費などを含まない場合や2016年度・2017年度の学費が混在している場合があるため、あくまでも概算として参考にしてください。

注3）東海大学の学費は予定であり、変更する場合があります。また、上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。



知と実践の力を育てる新たなフィールド、誕生。

2018年4月、東海大学は、
文化社会学部／健康学部／医学部看護学科の
新設を計画しています。

※仮称／設置計画中(上記の内容は予定であり、変更する場合があります。)

調和のとれた文明社会を建設することのできる人材を育成する。

人材を育成するための教育理念

自らの 思想を培う

知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて、学生一人ひとりが「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践しています。

学生一人ひとりの素質の 伸張を支援する

本学は知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指しています。

文理融合の幅広い知識と 国際性豊かな視野の獲得

教育と研究の場において、総合大学としての特性を生かし、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、他文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ人材の育成をはかっています。

東海大学は社会で役立つ「4つの力」を育てます。

自ら考える力

未来を見据え、
つねに課題を探究する力。

集い力

多様な人たちと手を取り、
結集する力。

挑み力

困難な課題にも
勇気を持って挑戦する力。

成し遂げ力

失敗や挫折を乗り越え、
目標を実現する力。

本学は全学生が身につけるべき素養として、「4つの力」を掲げ、社会に貢献できる人を育てるための特色ある教育を行っています。



4つの力を伸ばす、鍛える、 チャレンジセンター

4つの力を養うため、学部・学科、学年を超えて学生が集い、ものづくり、ボランティア、地域活性化などの目標に取り組む場がチャレンジセンターです。大学として、支援金の支給や活動スペースの提供、教職員によるアドバイスなどを行い、学生が自由な発想で企画立案したプロジェクト活動を全面的に支援しています。



グローバル人材を育成するための取り組み



1 湘南キャンパスに 「International Café」がオープン

店員は英語で接客し、店内には英語ニュースの映像が流れています。キャンパスで学ぶ留学生とのふれあいの場として、英語を身近に感じる場として、多くの学生が利用しています。



2 使える外国語力を磨く 国際教育センター

国際教育センターでは、英語・中国語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・韓国語・スペイン語などの外国語教育プログラムを用意。レベルに応じたコースで開講しています。



3 充実した海外留学制度

世界20カ国・地域、40機関との交換協定による留学制度を準備しています。奨学金の給付や単位認定制度、出発前のオリエンテーションなどで、学生の学ぶ意欲をサポートします。

現代社会の課題に、 さまざまな角度から アプローチ

本学は現代社会の課題に、人文・社会学から理・工学、航空宇宙学、医学、海洋学、農学などさまざまな角度からアプローチしています。文系と理系の両分野にわたる学部・学科の設置、時代の先端を行く個性的な学科の新設など、本学はつねに進化を続けています。



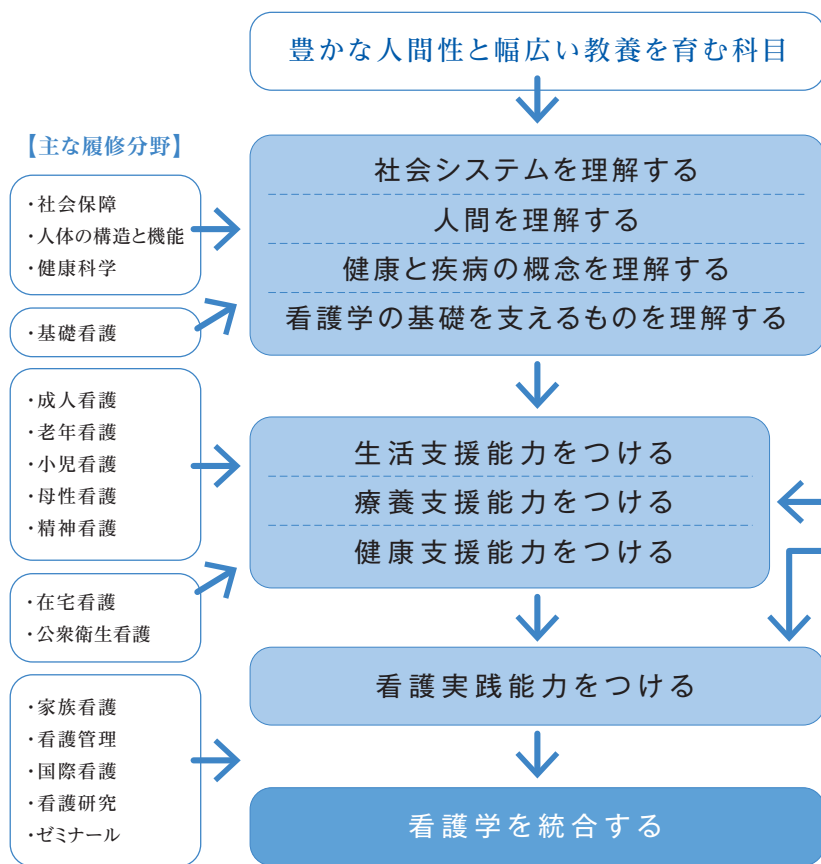


保健・医療の知識・技術と幅広い教養を身につけ、
確かな臨床判断のできる看護職を育成します。

20年以上看護職を育成してきた看護学科を医学部に設置(設置計画中)します。
医学部の中で教育を行うことによって基礎的な医学知識の充実・向上をはかり、高度な看護の
専門知識と技術を習得し、根拠をもった臨床判断のできる看護職の育成を目指します。
またこれまでの看護学科の理念を継承し、人間・社会・環境に対する深い理解と、
コミュニケーション能力や問題解決力とともに、実践力を備えた看護職者を育てます。

履修イメージ

豊かな人間性と幅広い教養を育む科目をベースに、
社会における多様な看護支援領域とその実務能力を、
多彩な科目と豊富な実習で確かなものにし、
トータルに看護を実践できる人を目指します。



取得可能な資格 (予定)^{※1}

- 看護師国家試験受験資格^{※2}
- 保健師国家試験受験資格^{※2}
- 養護教諭一種免許状^{※3}

目指せる主な進路

東海大学附属病院をはじめとする大学病院、
国公立病院、一般病院、市町村保健センター、
保健所、看護系大学院など

学位：学士(看護学) 定員：85名 (予定)

^{※1} いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。^{※2} 指定申請予定。保健師国家試験受験資格は学内選抜による定員制(30名程度)
^{※3} 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。

東海大学 医学部 看護学科で学ぶメリット

看護学科生が学ぶキャンパスには、東海大学医学部附属病院が併設されており、高度救命救急センターを含む37診療科、ドクターヘリを備えた先端医療を展開する臨床現場で、豊富な実習を受けることができます。

▼伊勢原キャンパス



東海大学附属病院

- 教員と附属病院の看護師の重層的な指導により、技術を確実に習得できる。
- 医学部医学科、工学部医用生体工学科、健康学部(設置計画中)等の医療・福祉系の他学科連携により、多職種連携の理解を深めることができる。
- 伊勢原キャンパス内の附属病院のほかにも3つの附属病院があり、多くの卒業生が活躍。将来像をイメージしながら、実習に取り組むことができる。



大磯病院



東京病院



八王子病院

本学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

文化社会学部 (仮称／設置計画中)



世界中の人々と交流し、力を合わせて
現代の課題解決に挑む人材を育成します。

文化社会学部(仮称)の目標は、グローバル化、デジタル化が進む世界で、
拡大を続ける紛争や格差、環境問題などの解決に貢献できる人材の育成です。
「多文化理解の促進」「高度な言語表現力の育成」「メディアの理解・利用・創造」
「自立と共生を実現する知識と力」の4つを柱とする教育・研究を行い、
人と社会と自然が豊かに共生する未来を目指します。

アジア学科 (仮称)

多様なアジアを多角的に学ぶ



アジアの多様な文明と文化を「歴史と文明」「文化と社会」「アジア各国の言語」の観点から学び、現代のアジアと日本を読み解きます。同時に、現代社会の問題や課題がなぜ起こり、どうすれば解決できるかを考え、同じアジアの一員として「行動する力」を身につけます。

取得可能な資格 (予定)*1

- 中学校教諭一種免許状(社会)*2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)*2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格*3

目指せる主な進路

アジアへの広い知識や文化的な理解を生かして、活躍できる分野や企業への就職。

→ 旅行業、商社、公務員など。

定員: 70名 (予定)

ヨーロッパ・アメリカ学科 (仮称)

西洋世界を学び未来を創造する



西洋世界への理解は、現代社会に生きる私たちに欠かせません。各地域について深く知るとともに、文化の源流を辿り、多様性を受容しながら、欧米の「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という分野を学び、国際人に必要な知識と共生の精神を学びます。

取得可能な資格 (予定)*1

- 中学校教諭一種免許状(社会)*2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)*2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格*3

目指せる主な進路

ヨーロッパとアメリカの文化や言語、歴史への理解や考え方を生かして働くことができる企業への就職や進学。

→ 旅行業、金融、保険、公務員など。

定員: 70名 (予定)

北欧学科 (仮称)

北欧の先進性に学び共生社会を目指す



人間らしく生きる社会の構築を目指す北欧。その取り組みや文化・言語を学ぶことで、多様な価値観を受容する視野の広さ、柔軟な発想力、コミュニケーション力、自らを客観的に見つめる目を養い、日本社会の課題克服にも取り組むことのできる人材を育成します。

取得可能な資格 (予定)*1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格*3

目指せる主な進路

北欧に関する学びで得た幅広い知識と視野の広さ、発想力、コミュニケーション力を生かし活躍のできるさまざまな分野や企業への就職。

→ 商社、旅行業、公務員など。

定員: 60名 (予定)

文芸創作学科 (仮称)

表現力を磨き社会を生き抜く



情報社会では、ものごとを的確に、効果的に伝える「表現力」が重要。その基礎は「言葉」「文章を書く力」です。本学科では、出来事の本質を読み取り正確な言葉で表現する力、培った教養を未来に向かって生かしていく力を養うことで、表現力や人間性を高めます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた分析力や表現力を生かし、応用力を持って活躍できる、さまざまな分野や企業への就職。

→編集出版、マスコミ関連、広告関連など。

定員:60名 (予定)

広報メディア学科 (仮称)

価値あるメッセージを創造し発信する



デジタル技術の普及が世界規模で人々に影響を与えている現代。本学科はメディアと社会の関係を理論的・歴史的に捉え、価値あるメッセージとは何かを判断する力、社会に適切なメッセージを送る力を養い、刻々と変化するメディアの状況に即応できる人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけたメディアの知識や技術を活用できるさまざまな分野や企業への就職。

→マスコミ関連、広報・広告関連、情報関連など。

定員:100名 (予定)

心理・社会学科 (仮称)

心理と社会を分析し実践力を育てる



心理学・社会心理学・社会学の学びや、フィールドでの実践を通して、日々の生活に必要な「コミュニケーション能力」と、社会の課題に具体的な解決策を提案できる「社会的構想力」を養い、心の安定に関する技法や、人と地域をつなぐ方法を身につけた人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた知識を専門分野で生かすだけでなく、心理的、社会的な課題や問題を解決する応用力で、さまざまな分野や企業への就職。

→教育医療福祉関連、マスコミ関連、情報関連など。

定員:90名 (予定)

※1 いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。 ※2 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。
※3 卒業後一定の経験年数を経て取得可能。

学位:学士(文化社会学)

主な就職先 <参考:2015年度文学部(学部・学科改編前)実績>

エコ・プラン/トランスコスモス/全日本空輸/日本航空/リコーロジスティクス/下野新聞社/山愛/山口放送/スズキ自販神奈川/みずほフィナンシャルグループ/明治安田生命保険/セブン&アイ・ホールディングス/サントリー食品インターナショナル/ANAエアポートサービス/トーヨータイヤジャパン/ホンダプリモ小見川/横浜環境デザイン/ドンク/PFU/アイ・エス・ビー/カインズ/マルエツ/大塚家具/カネボウ化粧品販売/日本郵便/湘南ケーブルネットワーク/アサヒクリエーション/共同通信社/マイナビ/ユナイテッドアローズ/エヌ・ティ・ティ・インターネット/日本通運/東京ガス/三井住友銀行/横浜銀行/三菱東京UFJ銀行/法務省/千葉県庁/十和田市役所/神奈川県警察本部

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります



栄養、運動、メンタルヘルス、福祉の専門知識・技能をベースに、健康社会の創成と健康産業に貢献できる人材を養成します。

人口減少と高齢化が急速に進む日本において、人的資源、公的資源に限られる一方で、保健・医療・福祉に対するニーズはますます多様化し、多くの問題や課題が生じています。健康学部健康マネジメント学科では、こうした課題を解決するため、身体的な健康だけでなく、精神的、社会的、経済的な健康についての多角的な知識と、地域社会や企業と連携協働できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材を育成します。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのイメージ

現在の興味や知識を育て、健康をマネジメントする。

「健康」は一つの分野だけで捉えられません。健康を構成するさまざまな要素を、まとめ、分析し、管理する「マネジメント力」を育成します。



健康社会の創成と健康産業に貢献できる

食・栄養、運動、メンタルヘルス、福祉のプロフェッショナルになりたい。
プラス、自分らしさ。
さまざまなアプローチで、高い力と、多様な力をつけていくことができます。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのポイント

1 複数の資格取得が可能

学生の希望に合わせ、定められた科目を履修することにより、社会福祉士、精神保健福祉士、健康運動実践指導者、サプリメントアドバイザーなど、複数の資格や受験資格が取得できます。

2 自分の健康データを収集し、セルフケアを実践

入学から卒業まで授業を通じ、自分の体重・体組成・筋力・骨密度などに関するデータを収集し、健康状態を把握して、セルフケアを実践します。

3 地域や海外で現場を体験するプログラム

地域または海外で現場体験ができる実践型(フィールドワークやインターンシップなど)の教育プログラムを低学年から実施します。

4 学内・学外との連携を強化

医学部、体育学部、付属病院、医療技術短大、神奈川県、近隣自治体など、学内外の連携強化をはかり、東海大学でしか学べない高度な実践教育プログラムを実施。また本学のさまざまな専門研究機関による先端研究に触れることもできます。

取得可能な資格(予定)*

- 社会福祉士国家試験受験資格
- 精神保健福祉士国家試験受験資格
- 社会調査士
- 健康運動実践指導者
- 健康運動指導士
- サプリメントアドバイザー

* いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。

目指せる主な進路

一般企業(健康関連企業、フィットネスクラブ、測定機器メーカー、医薬品・健康食品・福祉用具・サプリメントアドバイザー、食品メーカー等)、ケースワーカー、病院職員、ケアマネージャー、福祉施設(デイサービス、介護予防サービス)、公務員など

学位:学士(健康マネジメント学) 定員:200名(予定)

(仮称／設置計画中)

学びの領域とカリキュラム

問題解決型の教育や能動的な研究活動による学びの中で、“健康社会”の基礎的な知識とともに、運動、栄養、メンタルヘルスなど、健康にかかわる多様な分野の専門知識と実践力を身につけた「T字型人材」を育成します。



履修モデルと将来イメージ

モデル1

子ども、障がい者、高齢者の誰もが、健康で安心して地域で暮らせるように支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + メンタルヘルス

社会福祉の相談援助の知識とスキルを学び、社会福祉の国家資格である「社会福祉士」や「精神保健福祉士」を取得し、子ども、障がい者、高齢者など多様な人々を支援できる社会福祉の相談援助のエキスパートになることを目指します。

【資格の取得例】 社会福祉士国家試験受験資格、
精神保健福祉士国家試験受験資格、社会調査士

モデル2

運動によって人びとの健康を支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動

健康運動実践指導者等の資格を取得し、年齢や体力、障がいにかかわらず皆が共に楽しめる健康スポーツの開発、イベントの企画、指導ができる人を目指します。

【資格の取得例】 健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会調査士

モデル3

栄養と運動の知識を活用して、健康に関する商品・サービスを開発する企業で活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、食品、運動、福祉ビジネスなどの企業で商品開発やサービスコーディネートができる人を目指します。

【資格の取得例】 サプリメントアドバイザー、社会調査士

モデル4

保健・医療・福祉の現場で、マネジメントリーダーとして活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ メンタルヘルス + 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、さらにマネジメントやリーダーシップを身につけ、自治体や病院・施設、健康に関する企業でのマネジメントリーダーになれる人を目指します。

【資格の取得例】 社会調査士

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

湘南キャンパス（神奈川県平塚市）

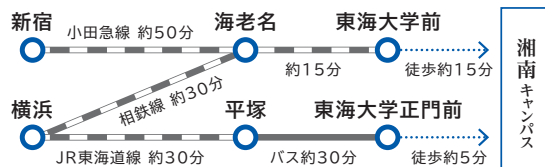
9学部約2万人が学ぶメインキャンパス。公園都市をイメージさせる豊かな自然環境の中、文理融合型総合大学の多様性とスケールの大きさが実感できます。



ACCESS

小田急線「東海大学前」駅下車
徒歩約15分
JR東海道線「平塚」駅より、
バス乗車（約30分）、
「東海大学正門前」下車
徒歩約5分

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-6422



伊勢原キャンパス（神奈川県伊勢原市）

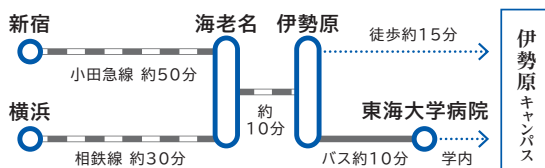
東海大学医学部付属病院を併設する伊勢原キャンパス。ここでは最先端の医療現場に触れながら、人間性豊かな医療人としての専門教育を受けることができます。



ACCESS

小田急線「伊勢原」駅下車、
「東海大学病院」行きバス、
または
「愛甲石田駅」行きバス（約10分）で
「東海大学病院」下車

〒259-1193
神奈川県伊勢原市下糟屋143
TEL.0463-93-1121



お問い合わせ | 大学運営本部高等教育室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-1211（内線：2260・2281）

〈湘南キャンパス〉

文化社会学部（仮称／設置計画中）／健康学部（仮称／設置計画中）／
文学部／政治経済学部／法学部／教養学部／体育学部／理学部／
情報理工学部／工学部（医用生体工学科のみ1～2年次）／観光学部（1年次）／大学院

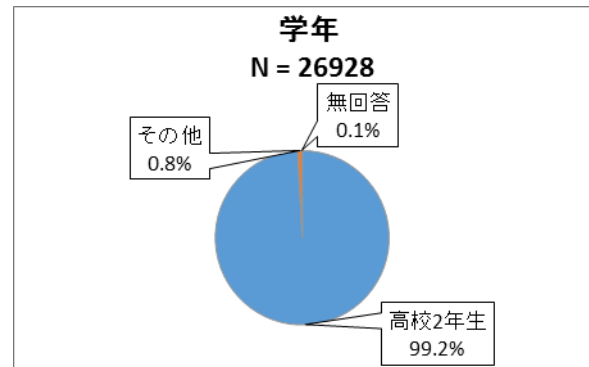
〈伊勢原キャンパス〉

医学部看護学科（仮称／設置計画中）／医学部医学科／
工学部（医用生体工学科3～4年次）／大学院

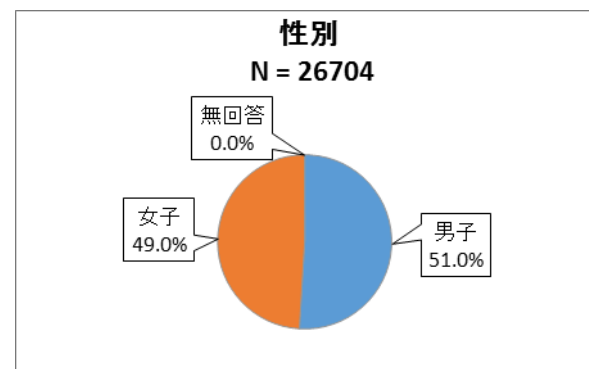
[http:// www.u-tokai.ac.jp/](http://www.u-tokai.ac.jp/)

単純集計表

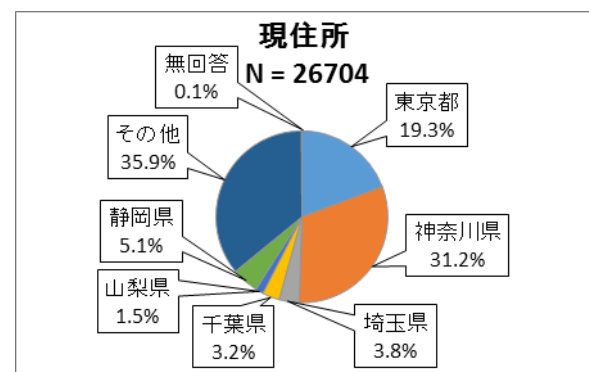
学年			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	26,704	99.2
2	その他	210	0.8
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,928	100



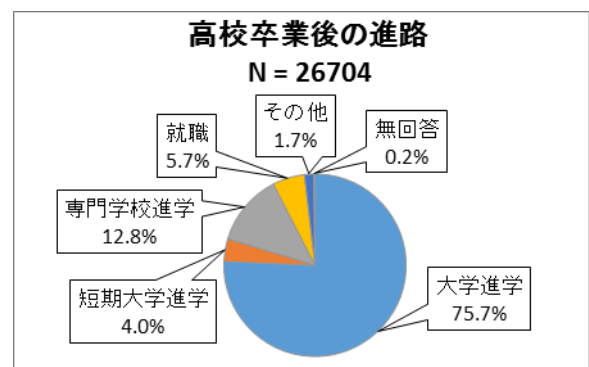
性別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	13,610	51.0
2	女子	13,082	49.0
	無回答	12	0.0
	N (%ベース)	26,704	100



現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100

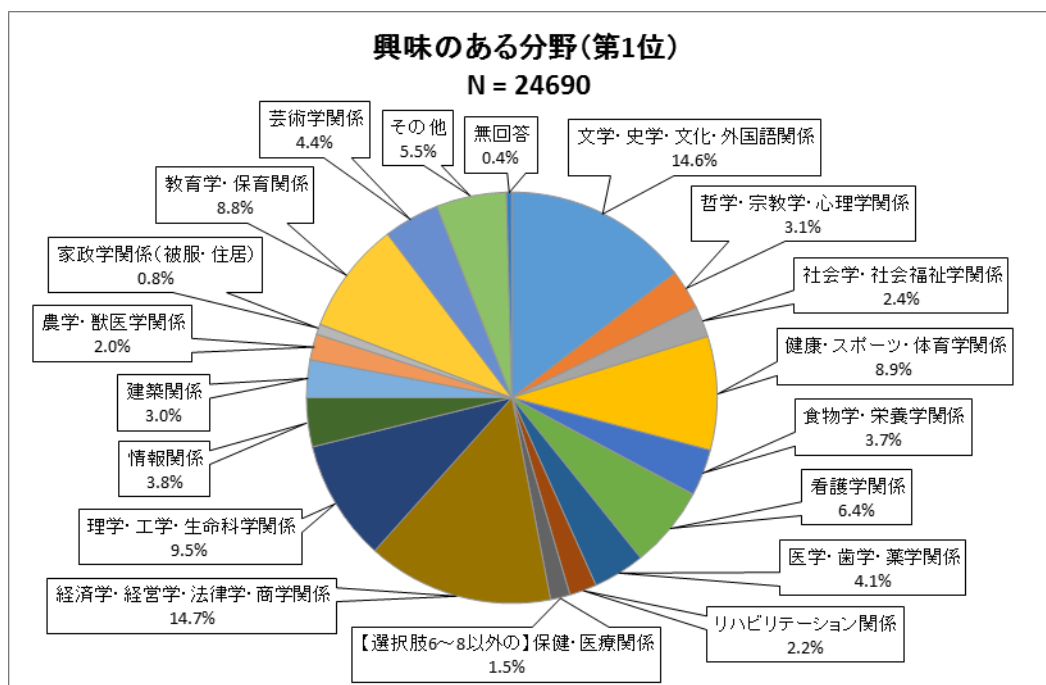


高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100



興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100

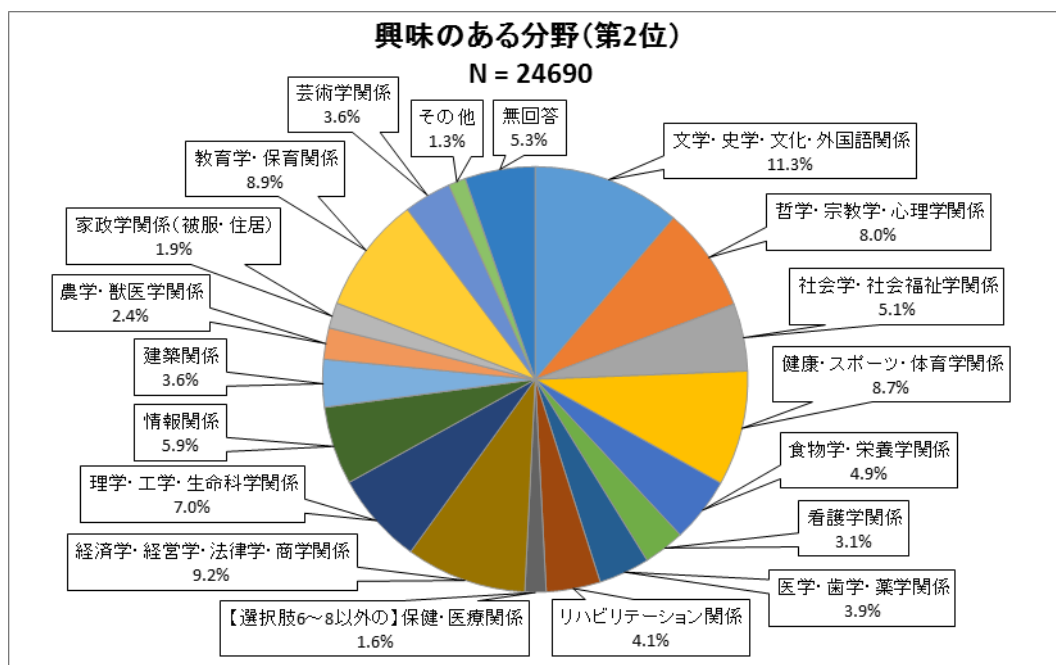


興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100

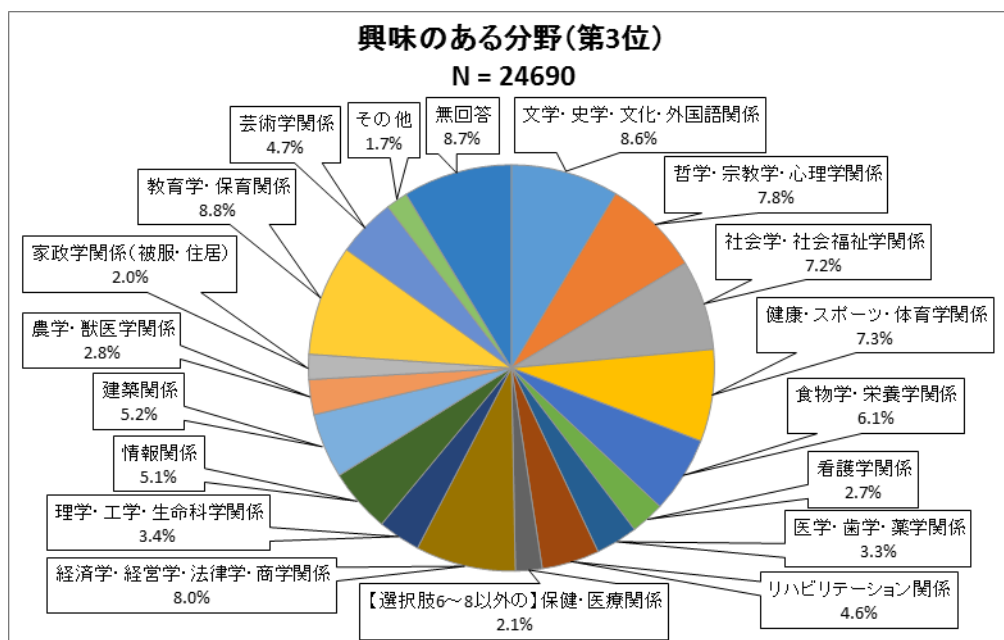
興味のある分野(第2位)

N = 24690



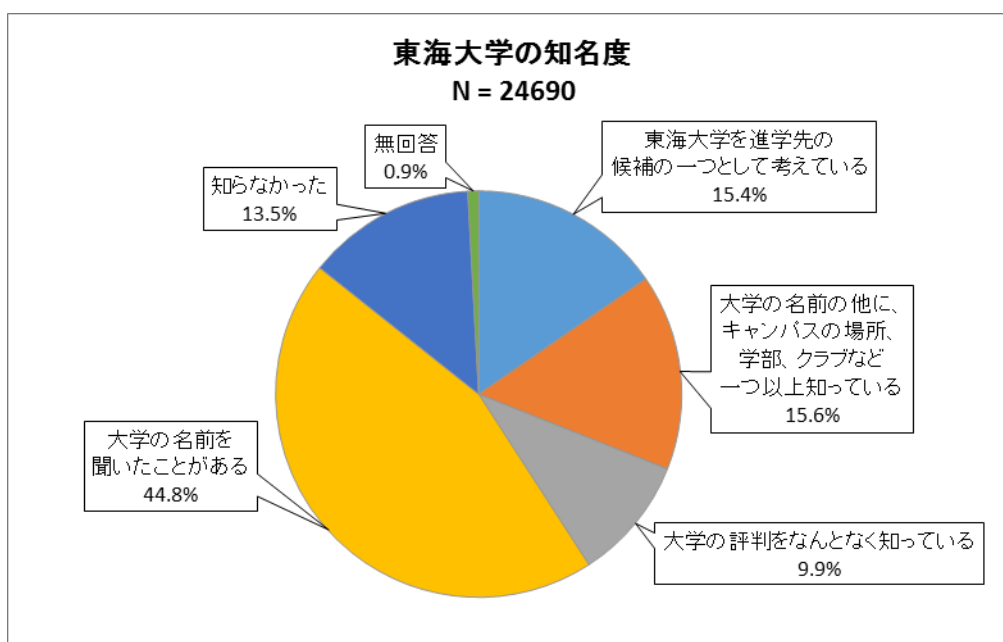
興味のある分野(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



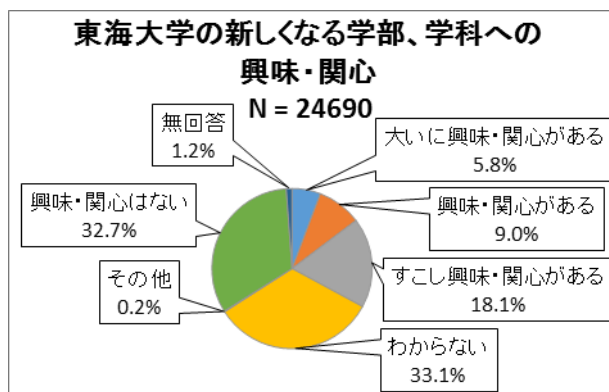
東海大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

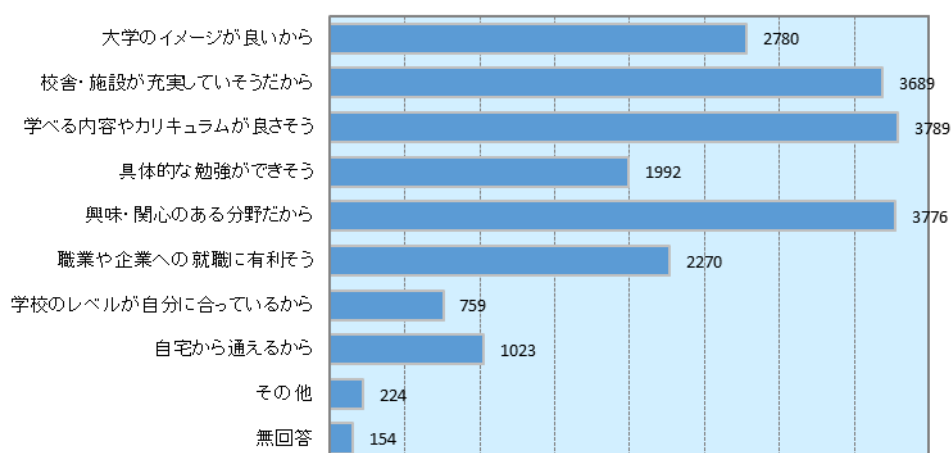
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

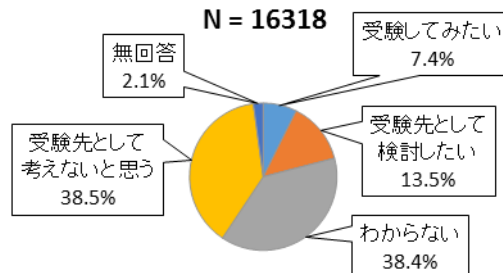
東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

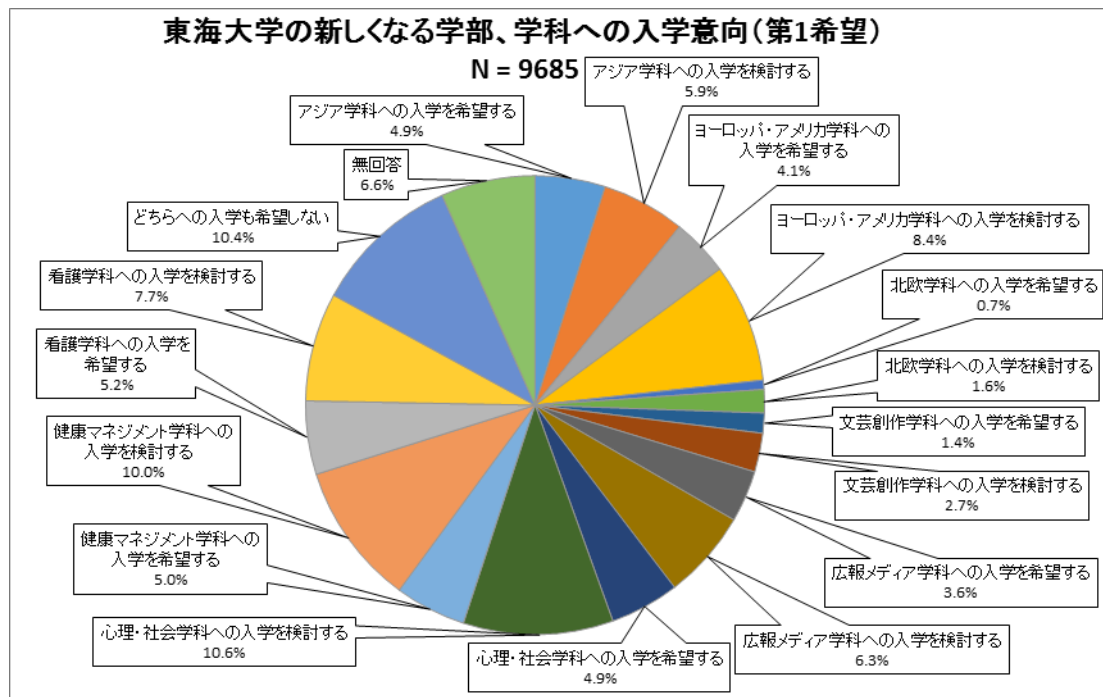
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100

東海大学の新しくなる学部、学科への
受験意向
N = 16318



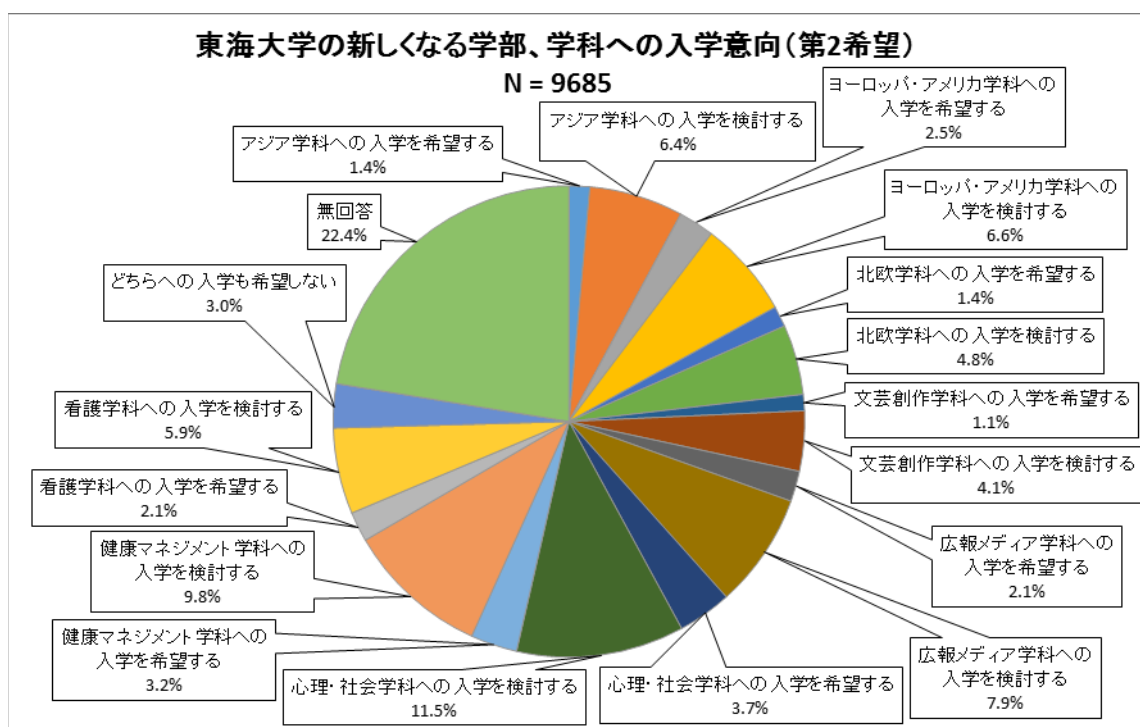
東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100



東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



資料3 「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況

基盤工学部電気電子情報工学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	80	80	80	80	80	0.63
志願者数	189	191	172	117	155	
受験者数	177	181	158	103	142	
合格者数	145	147	135	83	114	
入学者数	71	58	46	25	55	
入学定員超過率	0.88	0.72	0.57	0.31	0.68	

国際文化学部デザイン文化学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	70	70	70	70	70	0.62
志願者数	123	109	106	87	131	
受験者数	118	107	104	82	127	
合格者数	97	94	94	74	102	
入学者数	49	40	38	35	56	
入学定員超過率	0.70	0.57	0.54	0.50	0.80	

神奈川県保健医療計画

(平成25年度～平成29年度)

平成25年 3 月

は じ め に



すべての県民の皆様が健やかに安心してくらす社会の実現に向けて、県は、地域における保健医療の基盤づくりや、生涯を通じた健康づくりの推進などに取り組んできました。

しかし、社会の急速な少子高齢化が進む中、がん、糖尿病等の生活習慣病や精神疾患の増加、救急医療、周産期医療、災害時医療や在宅医療の強化、医療を支える人材不足等への対応が求められるなど、保健医療を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、平成24年3月に国の「医療提供体制の確保に関する基本方針」等の改正において、新たに精神疾患と在宅医療の医療連携体制の構築が追加されました。

こうした中、総合的な保健医療施策を示した「神奈川県保健医療計画」について、平成20年3月に策定した第5次計画の期間が満了するため、本県の実情に即した質の高い効率的な保健医療提供体制を整備するための、平成25年度を初年度とする第6次計画を策定することとしました。

また、平成24年5月に県が医療施策推進の根本理念を定めた「神奈川県医療のグランドデザイン」において、今後10年程度先を見据えた本県の課題解決の方向性・取組みを示しました。その中で向こう5年以内に取り組むものについては、今回の第6次計画に反映し、具体化していくこととしました。

この第6次計画は、平成25年度から29年度までの5年間を計画期間とし、「事業別の医療体制の整備・充実」では新たに在宅医療を位置づけ、多職種協働の推進や医療と介護の連携などの施策を、また、「疾病別の医療連携体制の構築」では新たに精神疾患を位置づけ、予防から治療、回復、社会復帰に至る施策などを盛り込みました。

さらに、「神奈川県医療のグランドデザイン」に基づき、県民自らが医療情報を管理・活用する「マイカルテ」の導入を図るICT（情報通信技術）を活用した医療情報の共有や、未承認薬や医療機器の国内への早期導入と国際的な医療人材の育成などの開かれた医療の取組み、医食農同源の普及等による病気にならない（未病を治す）取組みなど、県として重点的に進める施策も盛り込んでいます。

第6次計画の策定に当たっては、多くの県民の皆様から貴重な御意見を頂きました。皆様の御協力に深く感謝申し上げますとともに、策定に御尽力いただきました神奈川県保健医療計画推進会議や神奈川県医療審議会、市町村、各保健医療関係団体の皆様に改めてお礼申し上げます。

今後、この計画を着実に推進し、「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に向け、総力を挙げて取り組んでまいりますので、引き続き県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

平成25年3月

神奈川県知事 黒岩祐治

目 次

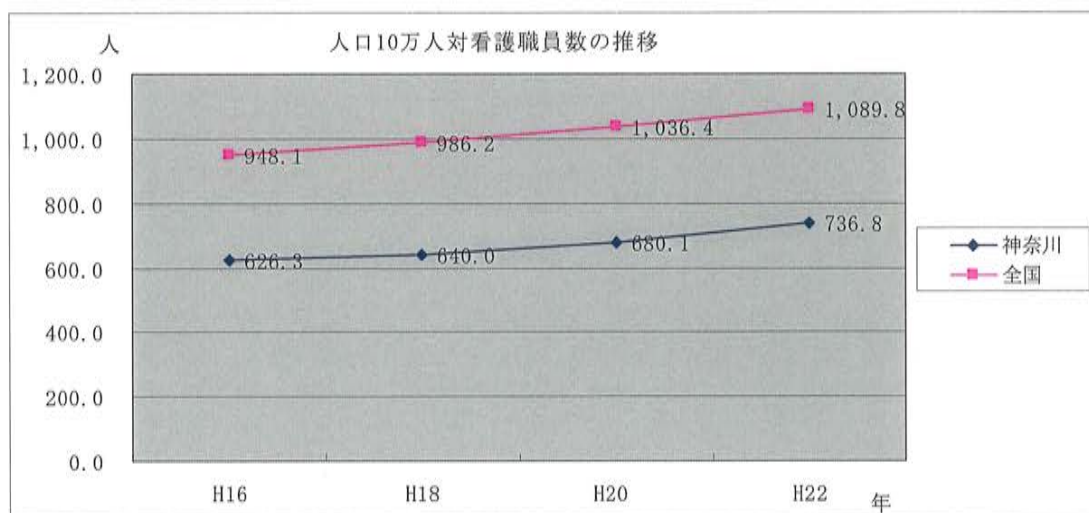
I	総論	1
	第1章 基本的事項	2
	第1節 計画改定の趣旨	2
	第2節 計画の基本理念及び基本目標	2
	第3節 計画の性格	2
	第4節 計画期間	2
	第2章 神奈川県の実況医療の現状	4
	第1節 人口	4
	第2節 生活習慣病等の状況	6
	第3節 受療状況	7
	第4節 医療施設・医療従事者の状況	9
	第3章 保健医療圏と基準病床数	11
	第1節 保健医療圏	11
	第2節 基準病床数	13
II	各論	15
	第1章 事業別の医療体制の整備・充実	16
	第1節 総合的な救急医療	16
	第2節 精神科救急医療	26
	第3節 小児医療	29
	第4節 周産期医療	34
	第5節 災害時医療	40
	第6節 在宅医療	45
	第2章 疾病別の医療連携体制の構築	50
	第1節 がん	50
	第2節 脳卒中	56
	第3節 急性心筋梗塞	61
	第4節 糖尿病	66
	第5節 精神疾患	71
	第3章 医療従事者の確保対策の推進	77
	第1節 医師	77
	第2節 看護職員	81
	第3節 薬剤師、その他の医療・介護従事者	84

第2節 看護職員

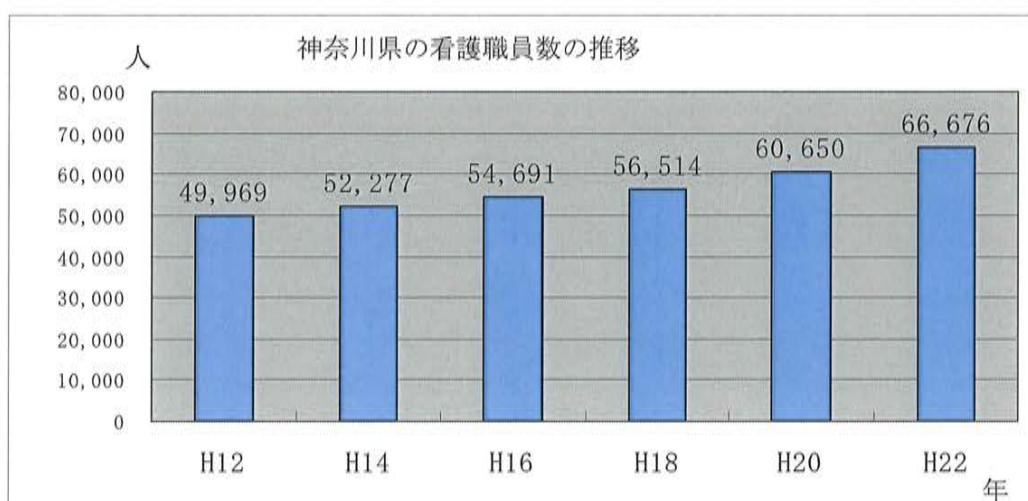
- 医療の高度化等に対応し、県民に対し適切な医療を提供できる看護人材の養成、様々なライフステージで働き続けられるような勤務環境の整備が求められています。
- 県内の看護職員は現在大幅に不足しており、就業看護職員を増やすために、養成数の増加、定着対策の充実、再就業促進の3つの面から取り組んでいくことが必要です。

1 現状

- 県内就業看護職員数は、平成22年12月末現在で66,676人であり、人口10万人当たりでは736.8人と全国で最も少ないものの、平成20年から22年にかけての2年間で増加率は9.9%と全国で最も高くなっています。
- 平成23年度末に県内で看護師・准看護師の免許を取得した者の数は、看護師2,819人、准看護師326人、合計3,145人でした。
- 現在、県では県立の看護専門学校や保健福祉大学・大学院において地域の保健・医療・福祉を支える質の高い人材の養成に取り組んでいます。また、就業環境の向上や県内就業者を確保するための修学資金の貸付けなど、その確保・定着対策を推進しています。
- さらに、実践力が高く自律的に活動できる看護人材の養成のあり方等、本県における看護職員養成の今後の方向性について、平成24年1月から「神奈川県における看護教育のあり方検討会」において、検討を進めてきました。



出典 厚生労働省「衛生行政報告例」



出典 厚生労働省「衛生行政報告例」

2 課題

(1) 看護職員の養成確保

- 養成数の増加のためには、養成施設の開設や定員増を図る必要がありますが、その際、教員や実習施設の確保が課題となっています。
- 「神奈川県における看護教育のあり方検討会」の提言を受け、准看護師養成から看護師養成への移行を図っていくことが必要です。

(2) 定着対策の充実

- 新人看護職員が就業後に「リアリティショック※」を感じて離職することのないよう、養成段階で高い実践力を身につけることとともに、勤務環境の改善を促進していくことが課題です。

(3) 再就業の促進

- 医療現場を離れた看護職員の所在を把握する仕組みがないため、未就業看護職員の再就業を促進することが困難となっています。

3 施策

(1) 看護職員の養成確保（県、関係団体、医療提供者）

- 看護教員の育成を強化するとともに、実習施設の負担軽減などにより、民間の法人による県内での養成施設の開設、定員増を促進します。また、県立の養成施設の定員増や、経済的に厳しい学生向けの修学資金の重点配分を行います。
- 准看護師の養成は、県立施設では平成25年4月入学生を最後としその枠を看護師養成に振り向けていきます。また、民間の准看護師養成施設への運営費補助金は平成27年度入学生までを対象とし、併せて看護師養成施設へ転換する施設に対して支援をします。

(2) 定着対策の充実（県、関係団体、医療提供者）

- 学生が実践力を身につけられるよう、臨床と連携した基礎教育の充実、実践力を伝えられる教員の確保・育成、卒業後の教育体制整備を進めます。また、院内保育など、ライフステージに応じて働き続けることができる職場環境づくり

に対して支援します。

(3) 再就業の促進（県、関係団体、医療提供者）

- 看護職員が離職する際に登録し、再就業に関する情報を提供できるような仕組みづくりに取り組むほか、身近なところで再就業できる機会を確保していきます。
- 看護師としての経験を活かした活躍が特に期待される訪問看護ステーションや福祉施設への就業支援策について検討します。

■用語解説

※ リアリティショック

養成施設で学んだことと臨床現場とのギャップに衝撃を受けること。